

○基本計画の名称：高松市中心市街地活性化基本計画

○作成主体：香川県高松市

○計画期間：令和元（2019）年7月から令和7（2025）年3月まで（5年9月）

1. 中心市街地の活性化に関する基本方針

[1] 高松市の概況

(1) 位置・地勢・気候

高松市は、四国の北東部、香川県のほぼ中央に位置し、北は瀬戸内海に面し、西に坂出市、綾川町、南にまんのう町、美馬市、東に三木町、さぬき市と接しています。

地勢は、南部に大滝山、竜王山などの山々が連なる讃岐山脈を有し、北部は讃岐平野の一部である高松平野と全体的に緩やかな勾配の地形となり、瀬戸内海へとつながっています。

気候は、瀬戸内海気候区に属し、比較的温暖で年間を通じて降水量は少なく、日照時間が長い気候特性となっています。



(2) まちの成り立ち

高松市は、縄文時代から大池遺跡などが見られ、奈良時代には国分寺が置かれるなど古くから形成が進み、高松の地名が登場するのは平安時代に作られた「和名類聚鈔」に「多加津（たかつ）の郷」とあるのが最初となります。

江戸時代の天正16年（1588年）豊臣秀吉の家臣生駒親正が玉藻浦に居城を築き高松城と名付けたことに由来し、藩主が生駒家から松平家へ変わりながら城下町として広がり、明治維新までに現在の旧市街地が形成されました。

明治維新の廃藩置県後、香川県が成立し高松は県庁所在地となり、明治23年（1890年）2月15日に市制を施行し高松市が成立しました。

第二次世界大戦では、市街地の80%が焼失し、戦災復興計画で近代都市化していますが、土地利用は城下町当時のまま受け継がれています。

戦後、国の出先機関を地方ごとに設置する中で、高松市に出先機関の多くが置かれたことで、四国地方の政治・経済の中心都市として発展しています。

(3) 歴史的・文化的役割

① 高松市の歴史的・文化的な役割

「高松」は鎌倉時代に開け始め、生駒4代54年、松平11代220年を通じて城下町として栄えてきました。

明治維新の廃藩置県後、明治23年(1890年)2月15日に市制を敷き、全国40番目の市としてスタートしました。

これまでに大正、昭和、平成を通じ、8回にわたる合併で、北は瀬戸内海から南は徳島県境に至る、海・山・川など恵まれた自然を有する広範な市域の中に、にぎわいのある都心やのどかな田園など、都市機能・水・緑が程よく調和し、豊かな生活空間を有する都市となっています。

恵まれた風土と地理的優位性を生かし、四国の中枢管理都市として発展してきており、昭和63年の瀬戸大橋開通、平成元年の新高松空港開港、11年4月の中核市への移行、15年の高松自動車の全面開通、16年の新しい都市拠点サンポート高松のオープンを経て、発展しました。

近年では、平成18年に、第1回高松国際ピアノコンクールや第1回さぬき映画祭の開催、20年には香川県立ミュージアムの開館、22年には第1回瀬戸内国際芸術祭の開催など、広域圏や国内外から多くの人が集まる多彩な文化芸術の都市として、発展し続けています。

② 中心市街地の歴史的・文化的な役割

高松市の中心市街地は、城下町として発展し、四国の拠点としての業務機能の集積や、全国有数規模のアーケード街である中央商店街の商業機能を背景に経済活動が展開され、産学官民の多様な主体と連携しながら、市全体の活性化をけん引する役割を果たしてきました。

近年の具体的な取組として、丸亀町再開発事業では、まちづくり会社が主体となり、商店街全体のテナントミックスを実施し、店舗と共に住宅や広場、まちに必要な施設を整備し、都心の商業・サービスの魅力強化や居住人口を増加させ、その波及効果として隣接商店街の空き店舗率の解消に寄与するなど、中央商店街を軸として中心市街地全体に活性化が波及する取組を進めています。

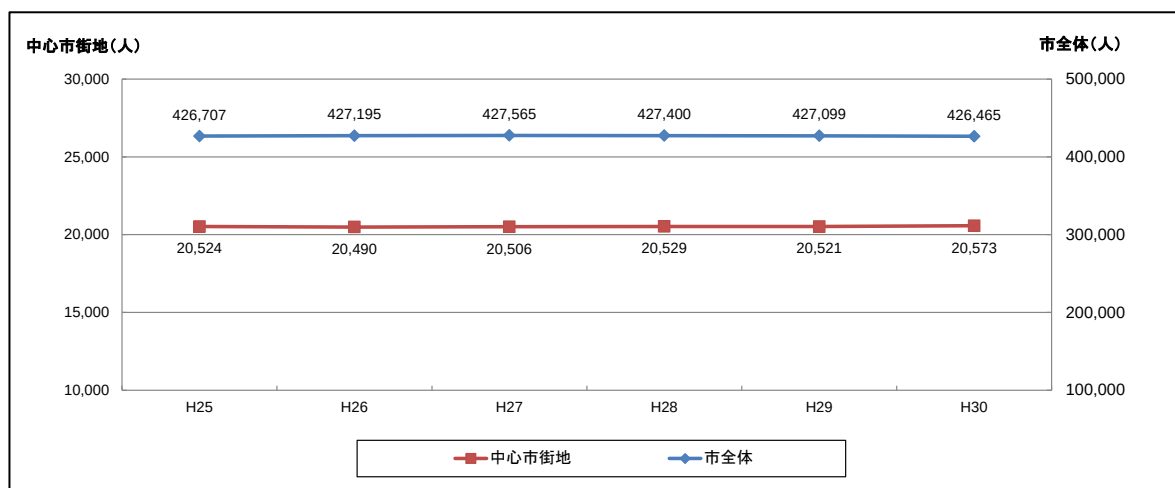
[2] 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

(1) 人口・世帯

① 人口

高松市全体の人口の推移を見ると、平成 30 年は 25 年と比較して約 240 人減少しており、この 5 年間は、ほぼ横ばいで推移しています。

中心市街地（本基本計画の区域をいう。以下同じ。）も同様の傾向が見られ、平成 25 年から 30 年にかけて 20,500 人前後で、ほぼ横ばいで推移しています。



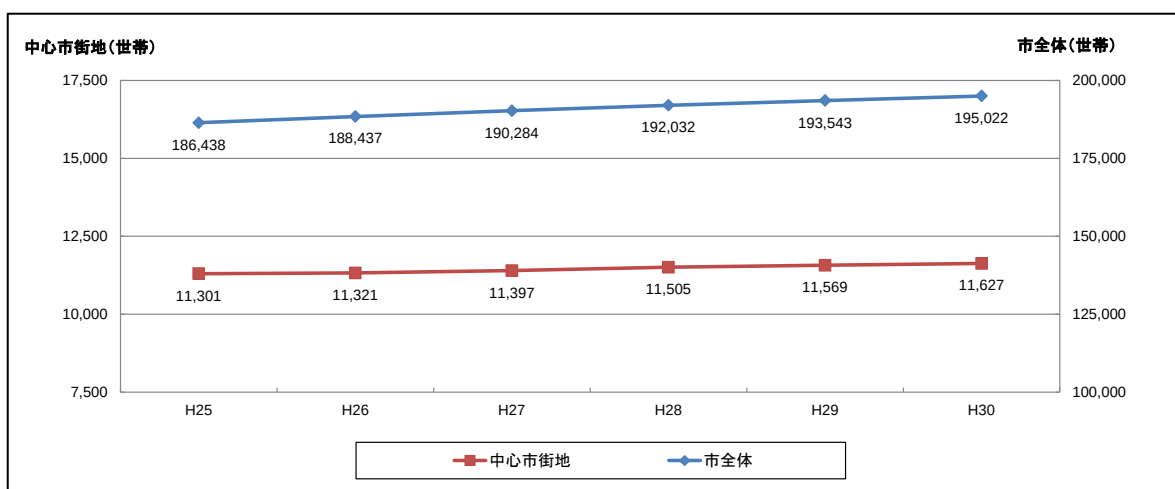
(資料：高松市住民基本台帳各年 4 月 1 日)

図 中心市街地の人口の推移

② 世帯数

世帯数の推移を見ると、高松市全体では一貫して増加傾向にあります。中心市街地も、平成 30 年は 25 年と比較して約 300 世帯増加しており、微増傾向となっています。

1 世帯当たりの人員を算出すると、平成 30 年時点で高松市全体では 2.2 人/世帯、中心市街地で 1.8 人/世帯となっており、中心市街地では単身者や夫婦のみの世帯が市全体と比較して多いと推察されます。



(資料：高松市住民基本台帳各年 4 月 1 日)

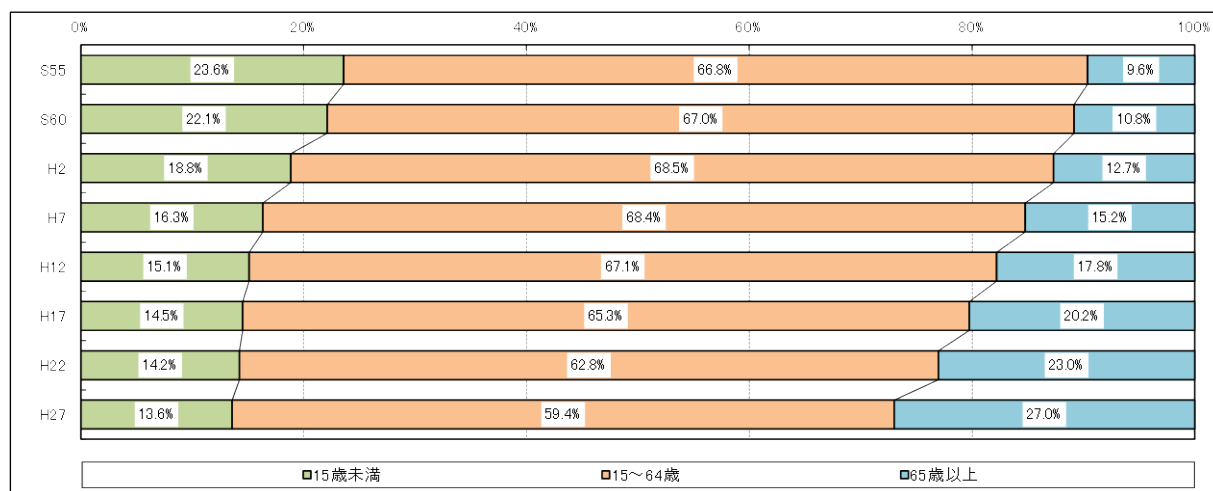
図 中心市街地の世帯数の推移

③ 高齢化率

高松市の人口を年齢3区分で見ると、高齢化が徐々に進んできており、65歳以上は平成27年現在27.0%と全国並の数値となっています。

一方で、中心市街地における65歳以上の割合は30.9%と市全体よりも高い割合となっています。

高齢化は今後も着実に進むと見込まれており、既に65歳以上の人口割合が高い中心市街地では、コンパクトなまちづくりや高齢者に優しいまちづくりが求められています。



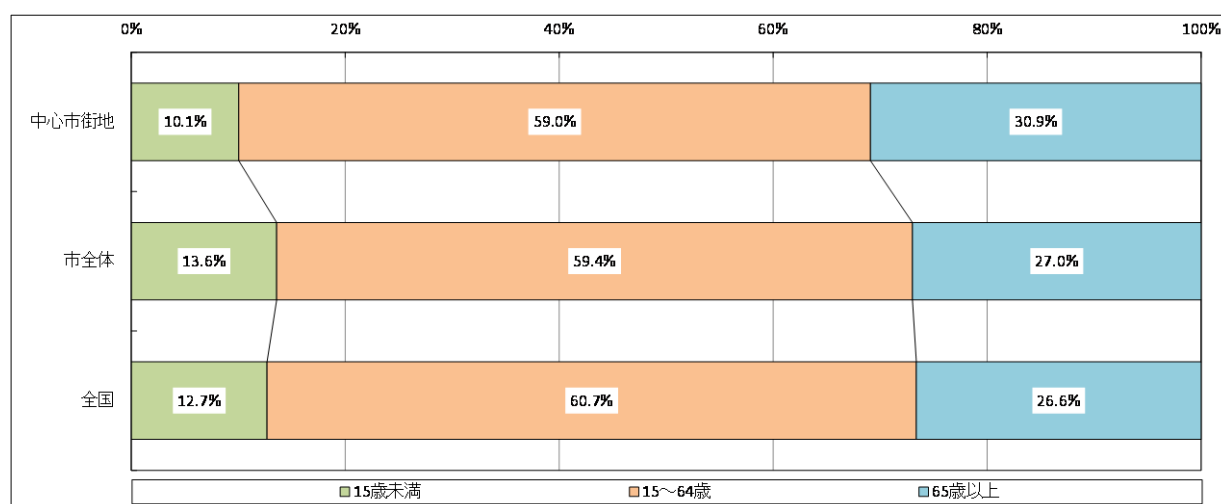
(資料：国勢調査)

図 高松市の年齢3区分別人口割合の変遷

※H17 は高松市、旧牟礼町、旧庵治町、旧香川町、旧香南町、旧国分寺町の合計値

H17 以前は高松市、旧塩江町、旧牟礼町、旧庵治町、旧香川町、旧香南町、旧国分寺町の合計値

端数処理等の関係で表記数値合計は100%にならない。



※年齢不明を除く人口での割合を示す。

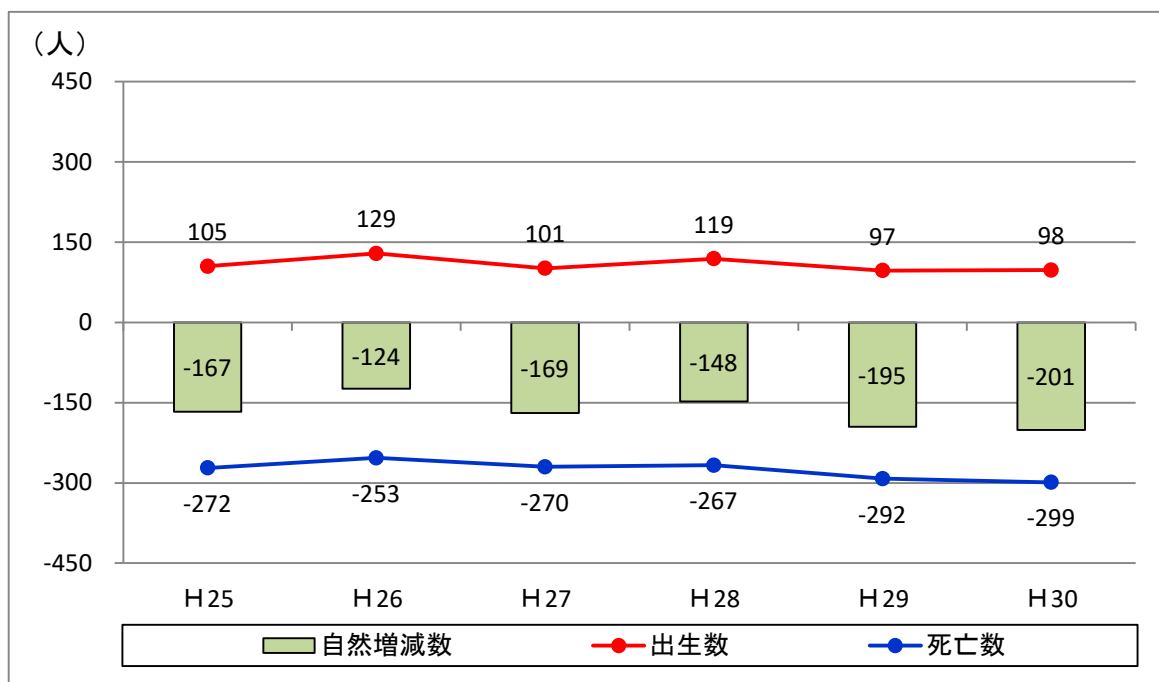
(資料：全国、市全体は国勢調査、中心市街地は高松市住民基本台帳)

図 年齢3区分別人口割合（平成27年）

④ 人口動態

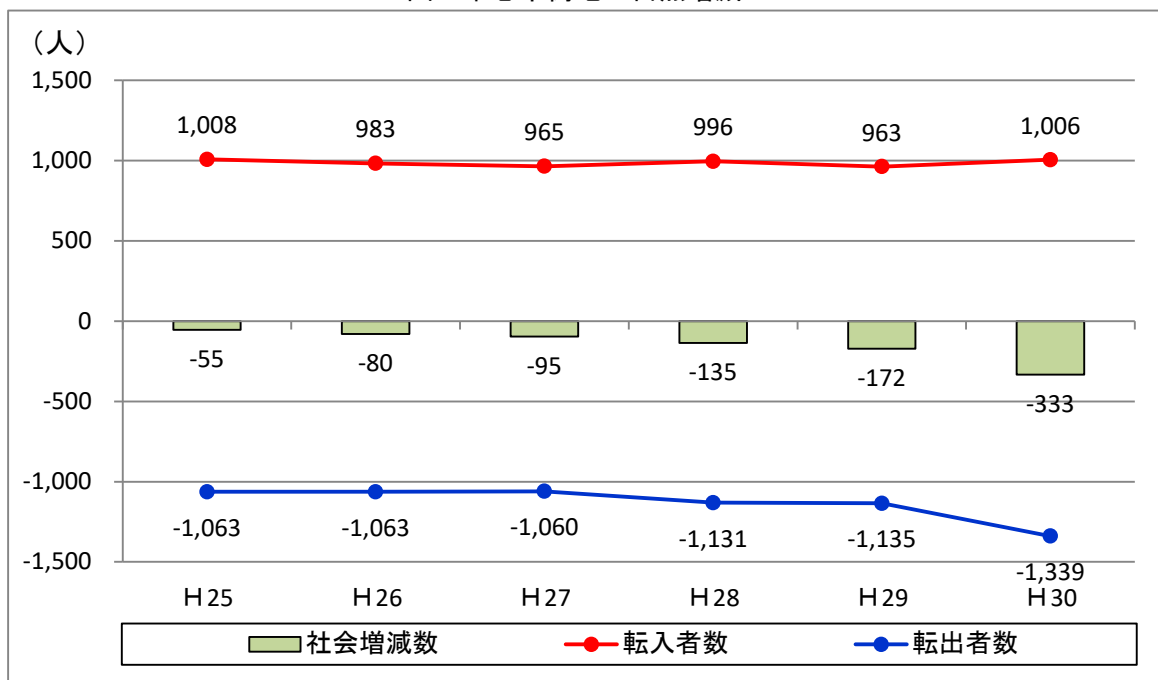
平成 25 年から 30 年までの中心市街地の自然増減を見ると、出生数はほぼ横ばいで推移しているのに対し、死亡数は増加傾向で、毎年 120 人～200 人程度の自然減が続いています。また、中心市街地の社会増減を見ると、市外からの転入者数と市外への転出者数はほぼ横ばいで推移していますが、転出者数が転入者数を上回る社会減傾向となっており、毎年 50 人～300 人程度の社会減が続いています。

しかしながら、市内間の転居者数が増加していることで、中心市街地の人口動態は横ばい状態を保つことができています。



(資料：高松市住民基本台帳各年 4 月 1 日)

図 中心市街地の自然増減

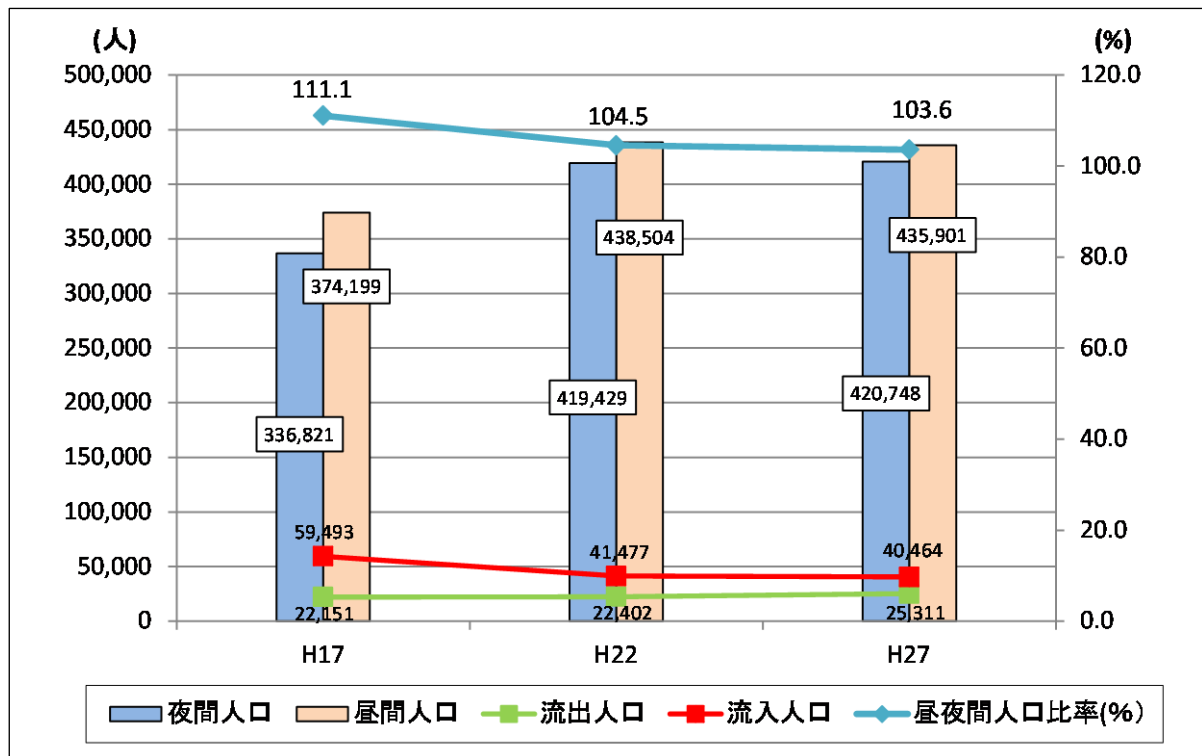


※市外との転出入者数を示しており、市内間の転居者数は含みません。(資料：高松市住民基本台帳各年 4 月 1 日)

図 中心市街地の社会増減

⑤ 人口流動

平成 17 年から 27 年までの高松市内への流入人口は流出人口を上回っていますが、流入人口及び流出人口の差は徐々に小さくなっています。また、昼夜間人口比率は減少傾向にあり、通勤・通学等で市外から市内へ流入する人口が減少傾向にあると推察されます。

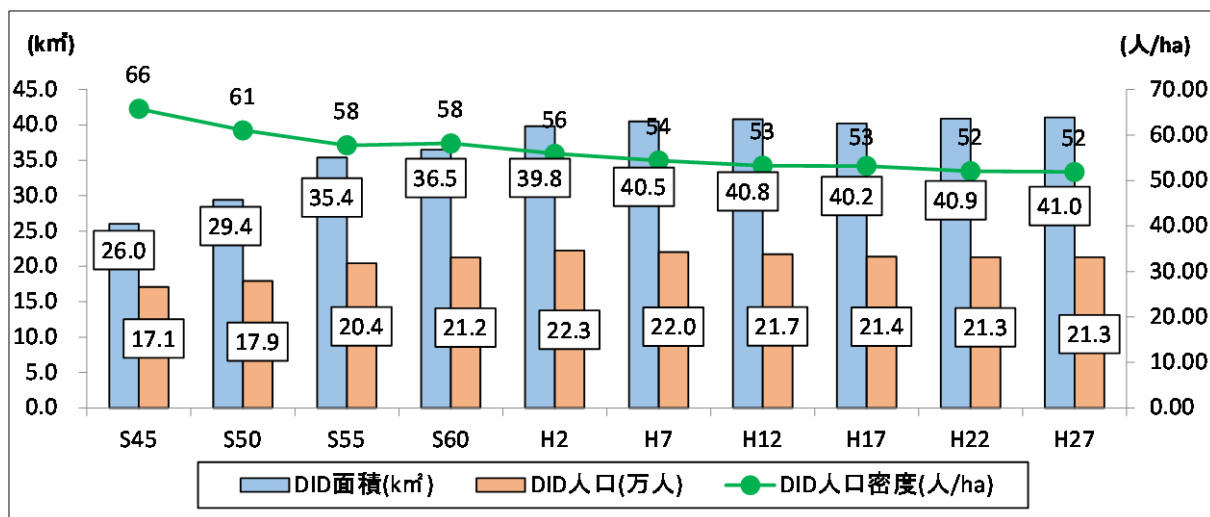


(資料：国勢調査)

図 人口流出入及び昼夜間人口比率の推移

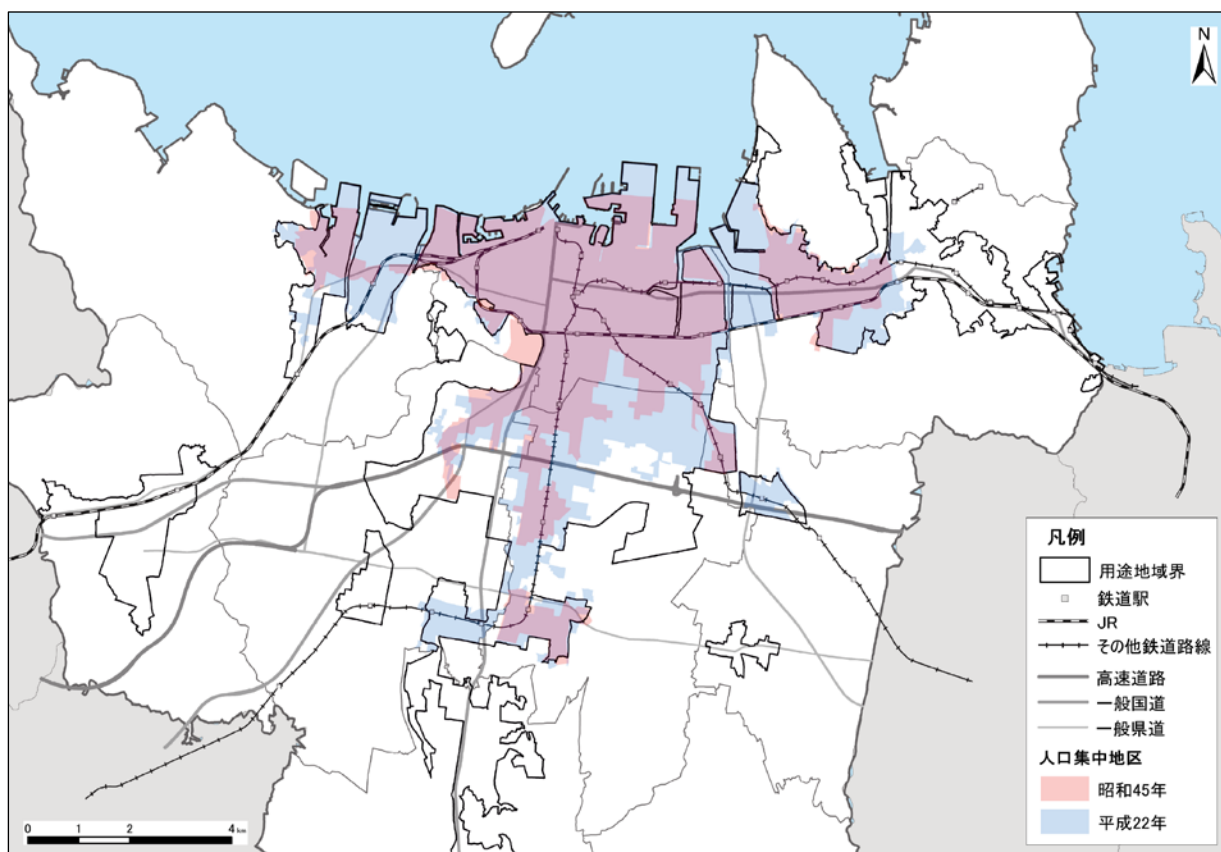
⑥ 人口集中地区（D I D）

昭和45年から平成27年にかけて人口集中地区（D I D）面積は増加している一方で、人口集中地区（D I D）の人口密度は減少しており、市街地の低密度化が進行しています。



(資料：国勢調査)

図 DID面積とDID人口密度の推移



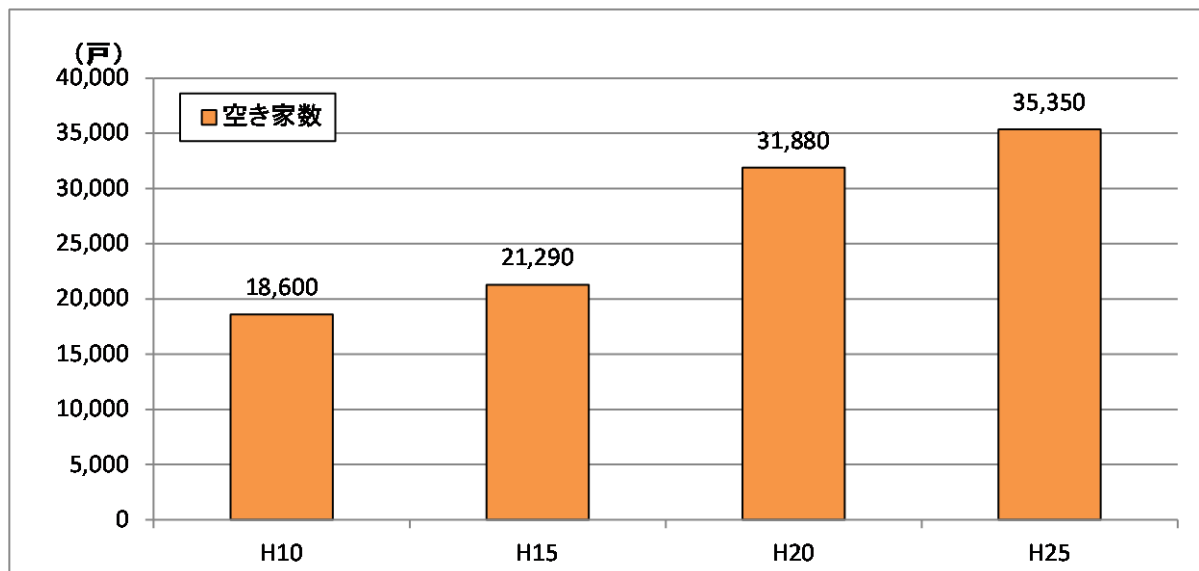
(資料：国勢調査)

図 DID区域の変遷

⑦ 空き家数

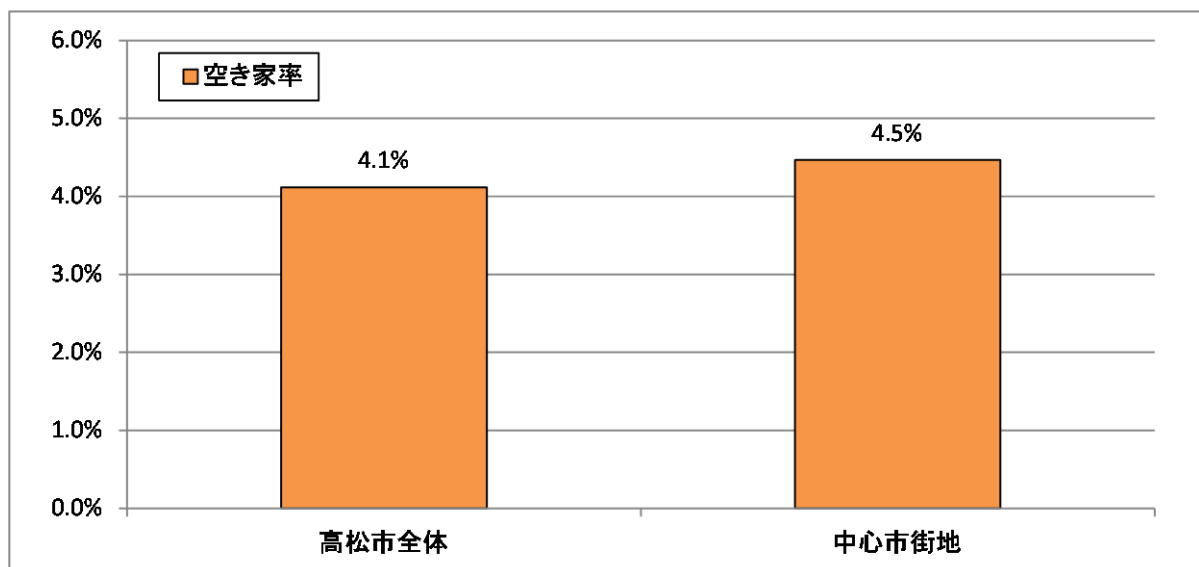
高松市の空き家数は、平成 10 年以降増加し続けており、25 年には 35,350 戸となっています。

また、平成 26 年度の高松市全体の空き家率が 4.1%であるのに対し、中心市街地の空き家率が 4.5%と、全体を 0.4%上回っています。



(資料：住宅・土地統計調査)

図 空き家数の推移



(資料：高松市空き家等実態調査 (H26))

図 空き家数の割合 (H26)

(2) 経済活力状況

① 中心市街地小売業の概況

中心市街地では、丸亀町商店街を中心に兵庫町、片原町西部、片原町東部、ライオン通り、南新町、常磐町、田町の8つの商店街で中央商店街が形成されており、県内随一の商店街として小売商業が集積しています。また、店舗面積が10,000㎡を超える高松三越、瓦町F L A Gも立地しています。

なお、丸亀町商店街では街をAからGの7つの街区に分け再開発が進行、計画されており、平成18年の「高松丸亀町壱番街」(A街区)、21年の「高松丸亀町貳番街」(B街区)、「高松丸亀町参番街」(C街区)の完成、24年の「丸亀町グリーン」(G街区)の開業等、大規模な再開発事業が完了しています。

表 商店街名一覧

番号	商店街名
①	兵庫町商店街
②	片原町西部商店街
③	片原町東部商店街
④	丸亀町商店街
⑤	ライオン通り商店街
⑥	南新町商店街
⑦	常磐町商店街
⑧	田町商店街

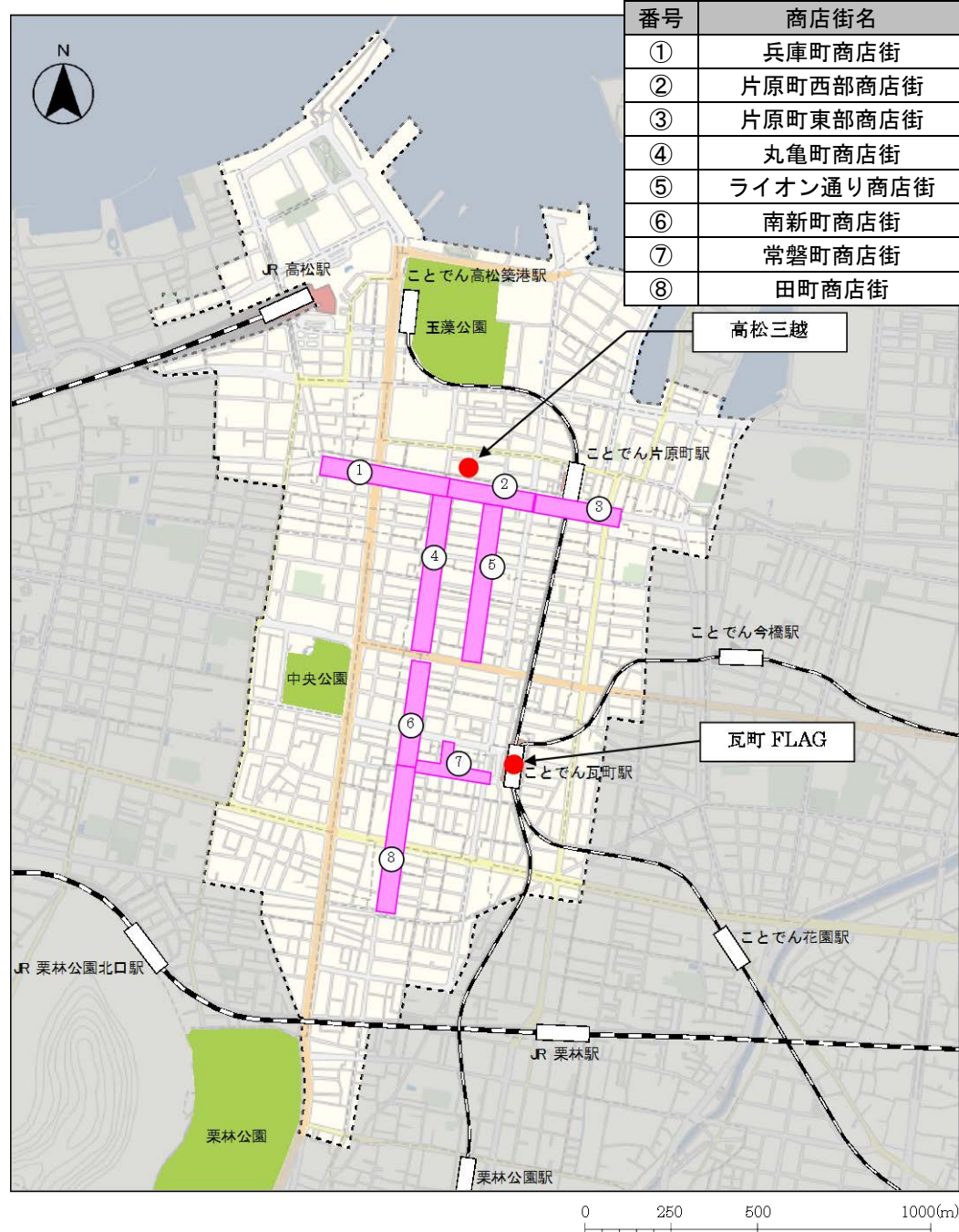
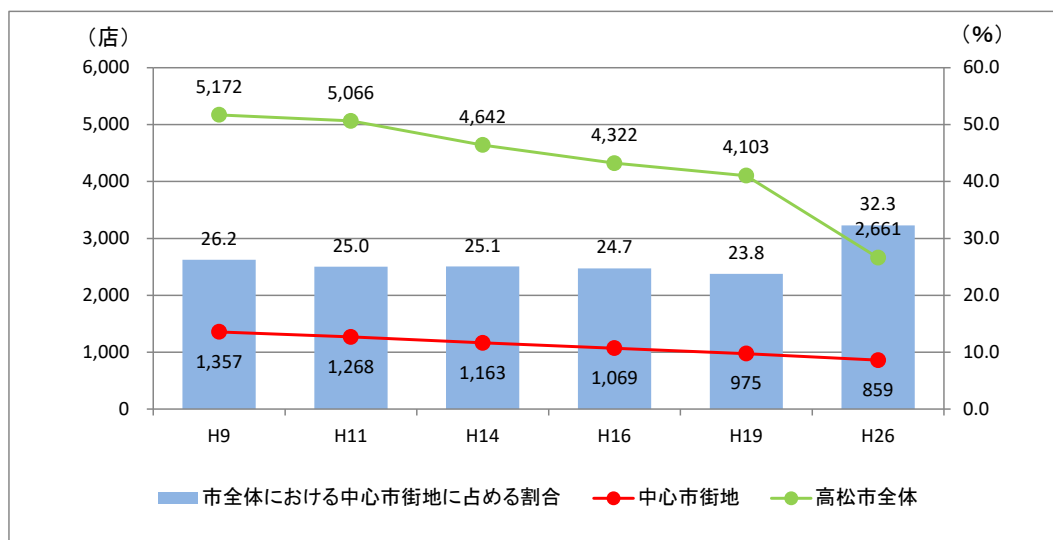


図 中心市街地の商業集積状況

② 中心市街地小売業の推移

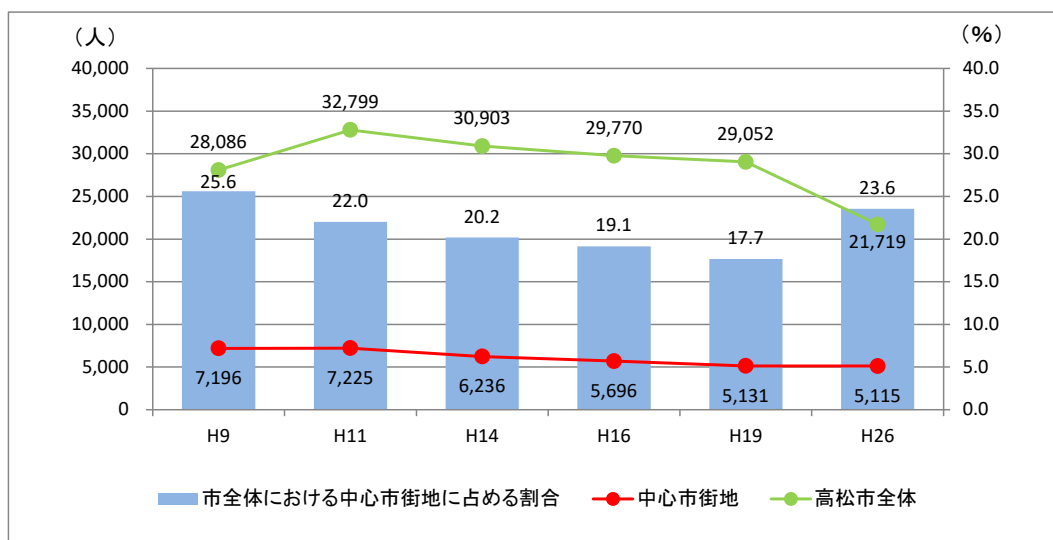
小売店舗数は、中心市街地、高松市全体ともに減少しており、特に高松市全体で見ると平成26年は9年と比べて約5割減少しています。



(資料：商業統計調査、経済センサス)

図 小売店舗数の推移

従業者数の市全体における中心市街地に占める割合は、平成9年から減少し続けていましたが、26年に増加に転じています。

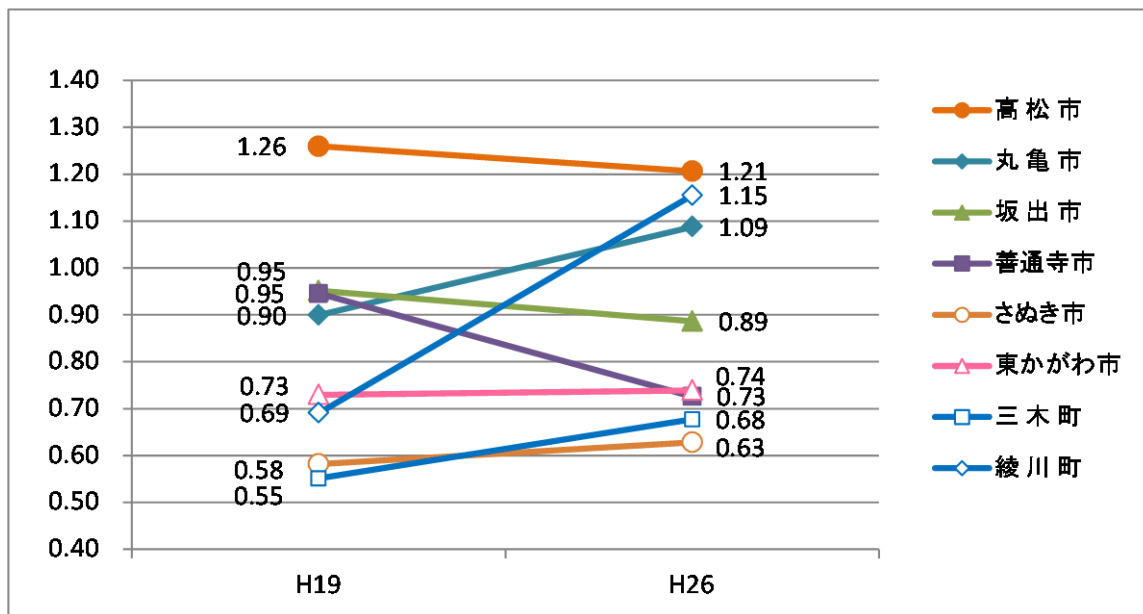


(資料：商業統計調査、経済センサス)

図 従業者数の推移

③ 小売中心性指数

高松市の小売中心性指数は 1.0 を上回っており、市外の消費者が市内へ買い物に来ていることを示しています。しかし、綾川町において、平成 20 年 7 月にイオンモールがオープンしたことで、綾川町の小売中心性指数が 1.0 を超えるなど周辺市町に商業施設が整備されたことなどにより平成 19 年と比べて 26 年の小売中心性指数は低下傾向にあります。



※小売中心性指数は、各市町の人口 1 人当たり小売業年間商品販売額／香川県の人口 1 人当たり小売業年間商品販売額

(資料：商業統計調査、経済センサス、香川県人口移動調査)

図 小売中心性指数の推移

④ 商店街の空き店舗の状況

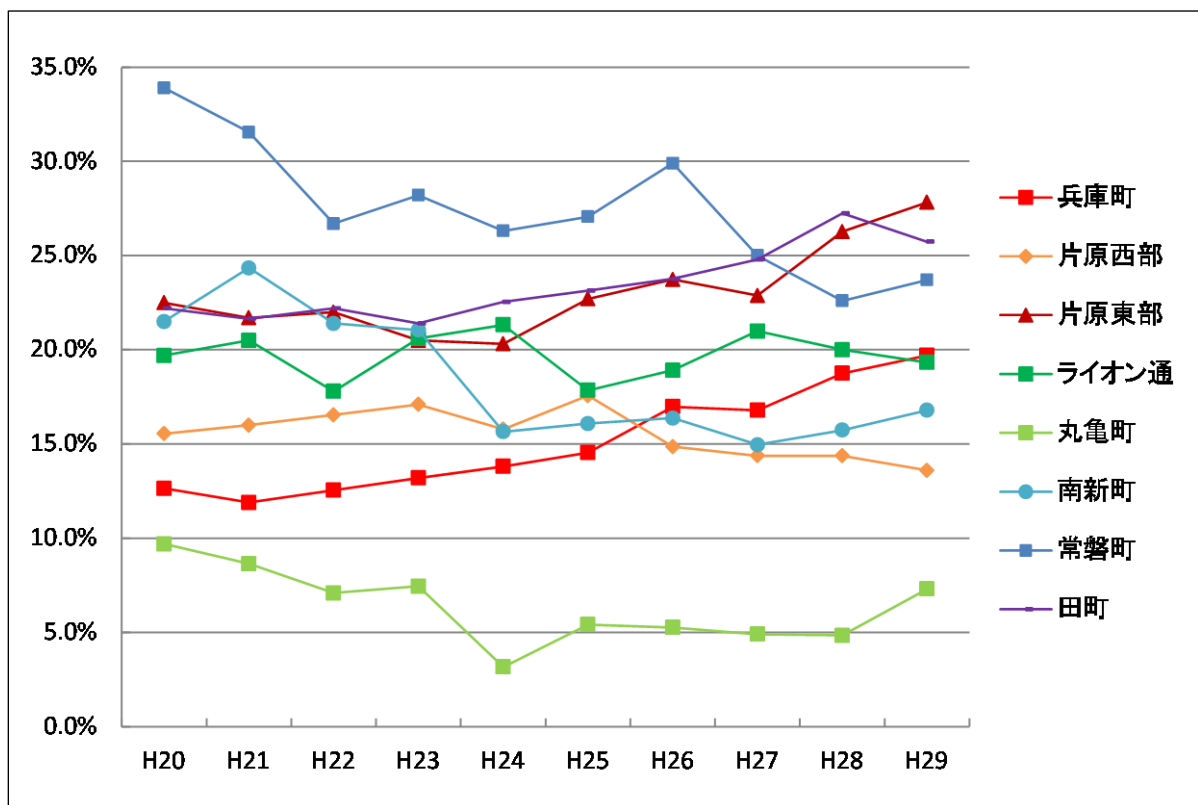
中央商店街の 8 商店街の空き店舗率を見ると、平成 24 年までは改善傾向にありましたが、25 年以降は、増加傾向となっています。

表 中央商店街での空き店舗の推移 (全フロア)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
店舗数	961.5	969.0	960.0	979.5	1036.5	1037.5	1046.0	1043.5	1049.0	1044.5
空き店舗数	184.5	186.0	172.0	179.5	169.0	171.0	179.5	177.0	181.5	186.0
空き店舗率	19.2%	19.2%	17.9%	18.3%	16.3%	16.5%	17.2%	17.0%	17.3%	17.8%

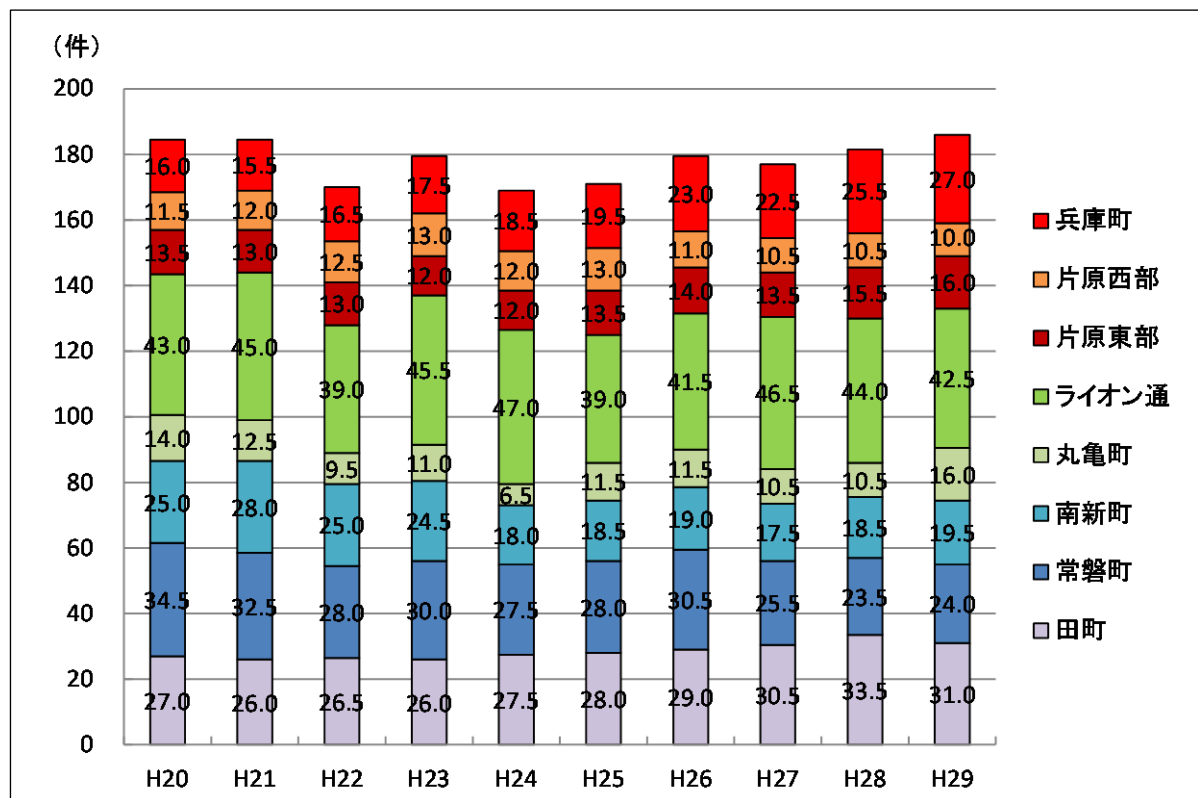
※数値は各年の 6 月と 12 月調査の平均値

(資料：中央商店街店舗立地動向調査)



(資料：中央商店街店舗立地動向調査)

図 商店街ごとの空き店舗率の推移



(資料：中央商店街店舗立地動向調査)

図 商店街ごとの空き店舗数の推移

⑤ 中心市街地の事業所数、従業者数

高松市の公務を除く全産業の事業所数は、23,059 事業所で、そのうち約 23%が中心市街地に集積しています。また、従業員数においても約 23%が中心市街地で就業しています。

表 中心市街地における業務機能集積状況（平成 26 年）

	中心市街地 (A)	市全体 (B)	対市割合 (A/B)
事業所数	5,373	23,059	23.3%
従業者数	51,071	221,376	23.1%

（資料：経済センサス基礎調査）

⑥ 大規模小売店舗の状況

中心市街地では、店舗面積が 10,000 ㎡を超える高松三越やコトデン瓦町ビル（瓦町 F L A G）が立地しています。一方で中心市街地外では国道や県道の沿道等を中心にロードサイド型店舗が立地しており、平成 10 年にゆめタウン高松、19 年にイオンモール高松店、20 年以降にイオンタウン高松国分寺ショッピングセンター、ケースデンキ高松春日店などの大規模商業施設の立地が相次いでいます。

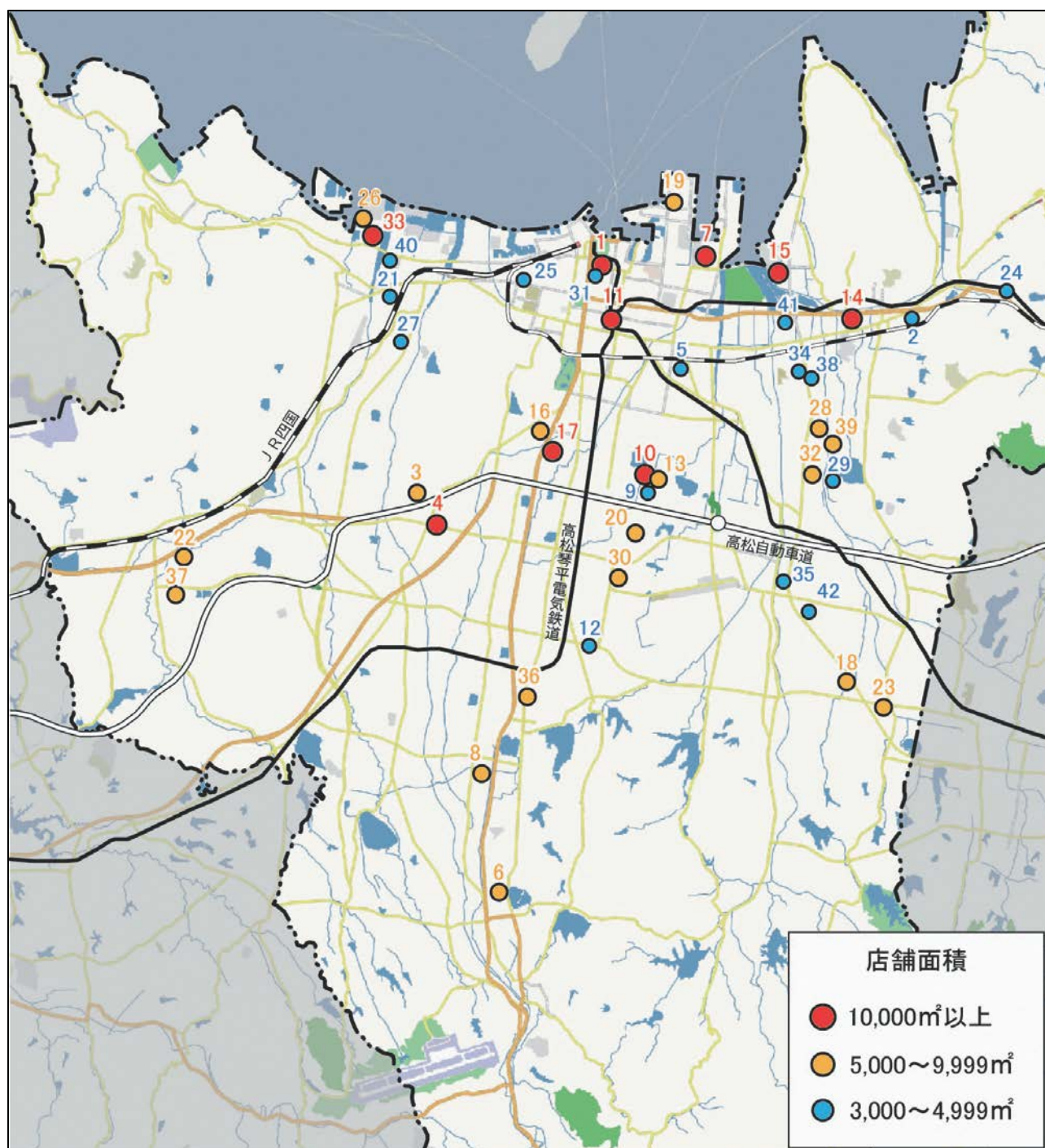


図 大規模小売店舗の立地状況（店舗面積 3,000 ㎡以上）

（資料：東洋経済「全国大型小売店舗総覧 2018」）

表 高松市内の大規模小売店舗一覧表（店舗面積 3,000 ㎡以上）

大規模小売店舗の名称		開店日	建物の概要	
			形態	店舗面積 (㎡)
1	高松三越	S6. 3	百貨店	22, 474
2	マルナカ屋島店	S51. 7	食品スーパー	3, 644
3	S h i m a d a y a H O M E & L I F E 高松店	S57. 4	(家具) 専門店	5, 831
4	西村ジョイ・Sメガホームセンター成合店	S58. 11	ホームセンター	15, 321
5	DCMダイキ上福岡店	H2. 8	ホームセンター	4, 144
6	キョーエイ空港店	H7. 1	食品スーパー	5, 072
7	イオン高松東店	H7. 3	総合スーパー	26, 546
8	ショッピングセンターウィングポート（マルヨシセンターウィングポート店）	H8. 11	食品スーパー	7, 419
9	高松南ショッピングモール（宮脇書店南本店）	H9. 3	(複合型) 専門店	3, 490
10	ヤマダ電機テックランドN e w 高松レインボー通り店	H9. 4	(家電) 専門店	10, 695
11	瓦町F L A G	H9. 4	寄合百貨店	29, 196
12	仏生山ショッピングプラザ（マルナカ仏生山店）	H9. 6	食品スーパー	4, 268
13	スポーツデポ高松伏石店	H9. 10	(スポーツ用品等) 専門店	4, 266
14	マルナカパワーシティ屋島A棟	H9. 11	総合スーパー	11, 082
15	西村ジョイ・Sメガホームセンター屋島店	H9. 11	ホームセンター	20, 466
16	マルナカ栗林南店	H10. 7	食品スーパー	8, 746
17	ゆめタウン高松	H10. 9	ショッピングセンター	54, 590
18	DCMダイキo n e 川島・四季食彩館ムーミー川島店	H11. 12	ホームセンター	7, 724
19	宮脇カルチャースペース（宮脇書店総本店）	H12. 4	(書籍) 専門店	6, 207
20	マルナカパワーシティレインボー店	H12. 7	総合スーパー	9, 000
21	DCMダイキ香西店	H12. 12	ホームセンター	4, 059
22	マルナカ国分寺店	H12. 12	食品スーパー	5, 407
23	フジグラン十川	H14. 6	総合スーパー	8, 066
24	コープ牟礼	H16. 4	食品スーパー	3, 098
25	コープかがわ扇町・ふとんとギフトのカネチ・レディ薬局扇町店	H17. 8	食品スーパー	3, 052
26	マルナカ香西店	H17. 11	食品スーパー	4, 849
27	ヤマダ電機テックランド高松鶴市店	H18. 3	(家電) 専門店	3, 809
28	ヤマダ電機テックランド高松春日本店	H18. 3	(家電) 専門店	8, 265
29	東山崎ファッションモール（しまむら・アベイル・シャムブル東山崎店）	H18. 5	(衣料品) 専門店	3, 230
30	ケーズデンキ高松本店	H18. 6	(家電) 専門店	7, 496
31	高松丸亀町荻番街	H18. 12	寄合百貨店	4, 823
32	フレスポ高松（ラ・ムー高松東店）	H19. 1	食品スーパー	5, 321
33	イオンモール高松（イオン高松店）	H19. 4	ショッピングセンター	46, 849
34	エディオン高松春日店	H19. 6	(家電) 専門店	4, 959
35	六条モール（ハローズ六条店）	H20. 11	食品スーパー	3, 991
36	ハローズ仏生山店、ザグザグ仏生山店	H21. 11	食品スーパー	6, 110
37	イオンタウン高松国分寺ショッピングセンター（ザ・ビッグ国分寺店）	H22. 9	食品スーパー	7, 453
38	ハローズ高松春日店	H23. 2	食品スーパー	3, 008
39	ケーズデンキ高松春日店	H24. 6	(家電) 専門店	6, 571
40	ケーズデンキ郷東店	H26. 6	(家電) 専門店	3, 059
41	ニトリ高松屋島店	H28. 4	(家具) 専門店	3, 887
42	エブリイモール六条（鮮D o ! エブリイ六条店）	H29. 7	食品スーパー	4, 587
合 計				412, 130

(資料：東洋経済「大型小売店総覧 2018」)

(3) 観光

① 観光資源の分布状況

中心市街地には、「四国の玄関」高松の新名所として、平成 16 年 3 月に開業した「高松シンボルタワー」、高松城跡を整備した「玉藻公園」、文化施設として「香川県立ミュージアム」、「高松市美術館」等が立地しています。また、中心市街地南西隣接地には四国唯一の特別名勝である「栗林公園」があります。

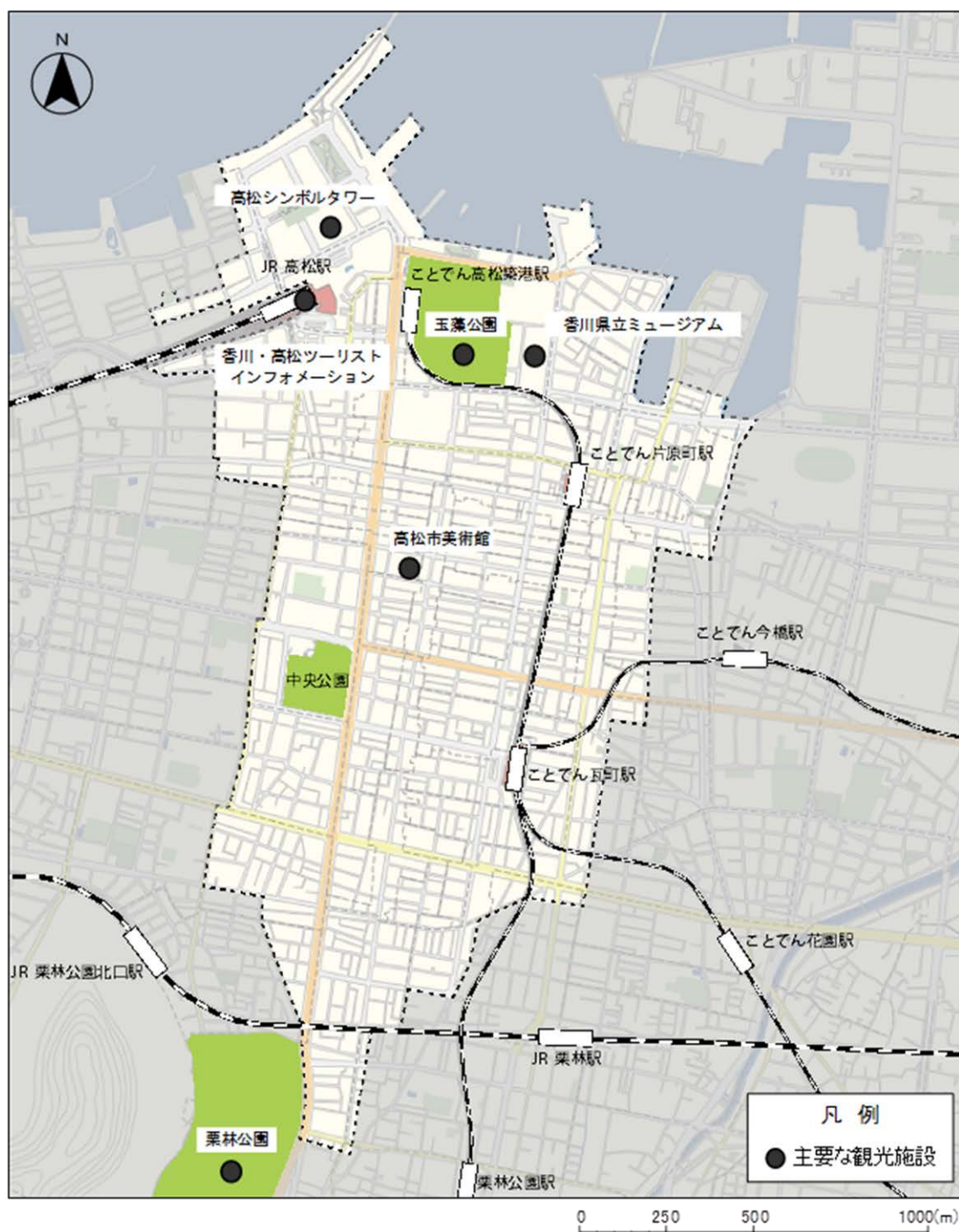


図 高松中心市街地の主要な観光施設

② 観光資源の入込客数

中心市街地及びその周辺の主要観光施設の年間利用者数の推移を見ると、平成 23 年から最近のインバウンド需要により増加傾向にあり、「高松シンボルタワー」が 2,362 千人と最も多く、次いで「栗林公園」の 745 千人となっています。

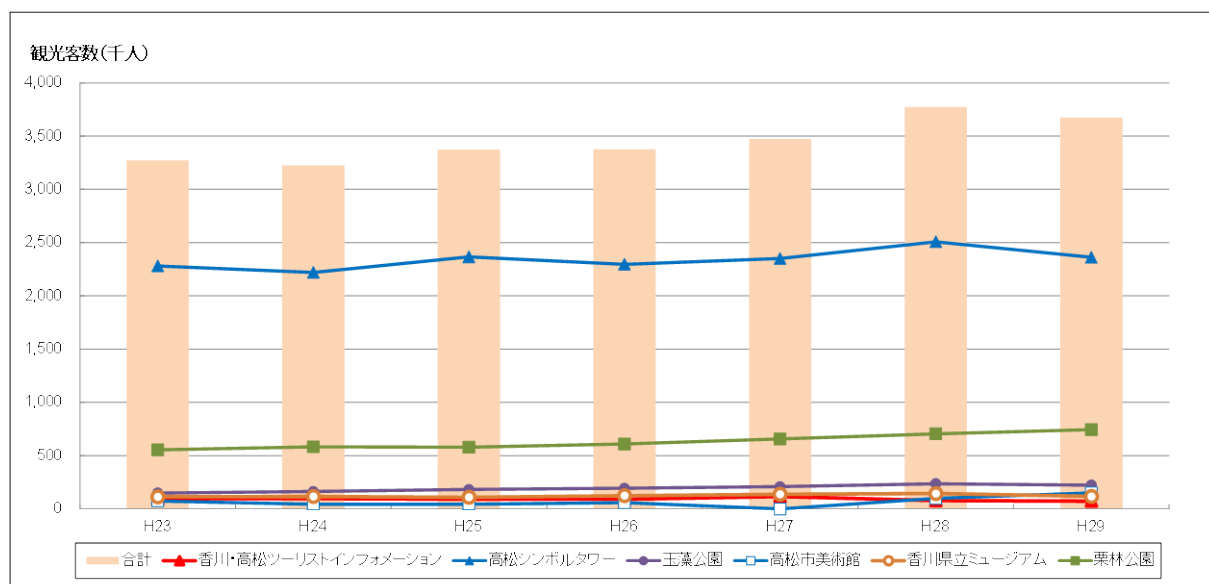


図 主要な観光施設の年間利用者数の推移

(資料：市資料)

表 主要な観光施設の年間利用者数の推移

(単位：千人)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
香川・高松ツーリストインフォメーション	96	97	92	92	117	78	73
高松シンボルタワー	2,281	2,220	2,366	2,297	2,351	2,508	2,362
玉藻公園	150	164	183	194	210	237	224
高松市美術館	75	45	45	59	0	99	151
香川県立ミュージアム	114	117	110	125	138	145	118
栗林公園	555	583	579	610	657	706	745
合計	3,271	3,226	3,375	3,377	3,473	3,773	3,673

※各年の利用者数は、1月1日～12月31日までの合計値を示す。

※インフォメーションプラザとまちなかサテライトはH28.3.15 から香川・高松ツーリストインフォメーションに統合。H27 以前については、その合計値を示す。

※高松市美術館は H27.1.14～H28.3.25 に改修工事のため休館しており、H27 の利用者数は 0 となっています。

③ 高松空港の利用者数

高松空港は、平成 30 年 4 月から三菱地所を代表企業とするグループが設立した「高松空港株式会社」により、空港全体の運営が開始され、2032 年には旅客数 307 万人の達成を目指して、航空ネットワークの拡大や交流人口の更なる拡大など地域の活性化や地域経済を牽引していく空港運営の実現が期待されています。

アジア・世界とつながる、四国瀬戸内No.1の国際空港

複数のLCCの拠点化を進め、旅客数307万人を達成



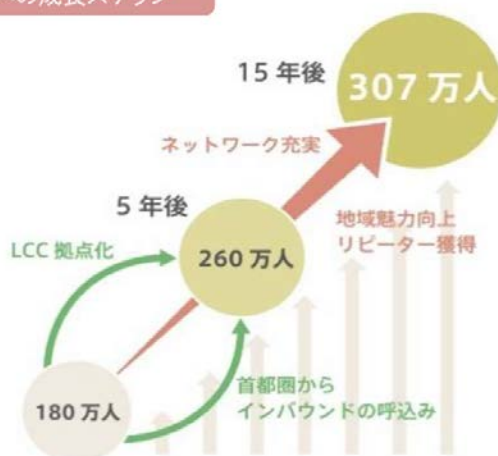
< 将来イメージの実現に向けて >

- LCC の拠点化に向けたエアポートセールス
 - 潜在需要の大きな海外・首都圏をターゲットとした航空需要の取込み
 - 空港使用料の低廉化と受入環境の整備
- 魅力的な商業施設、エアライン誘致のための原資づくり
- 長期にわたる安全・安心の空港インフラ経営
- 地域のベストパートナーとなり、地域の魅力を向上

旅客数・貨物量の目標値

	2015年 (現在)	2022年 (5年後)	2032年 (15年後)
旅客数	180 万人	260 万人	307 万人
	国内 165 万人	209 万人	225 万人
	国際 15 万人	51 万人	82 万人
貨物量	0.6 万トン	1.3 万トン	1.7 万トン

307万人達成への成長ステップ

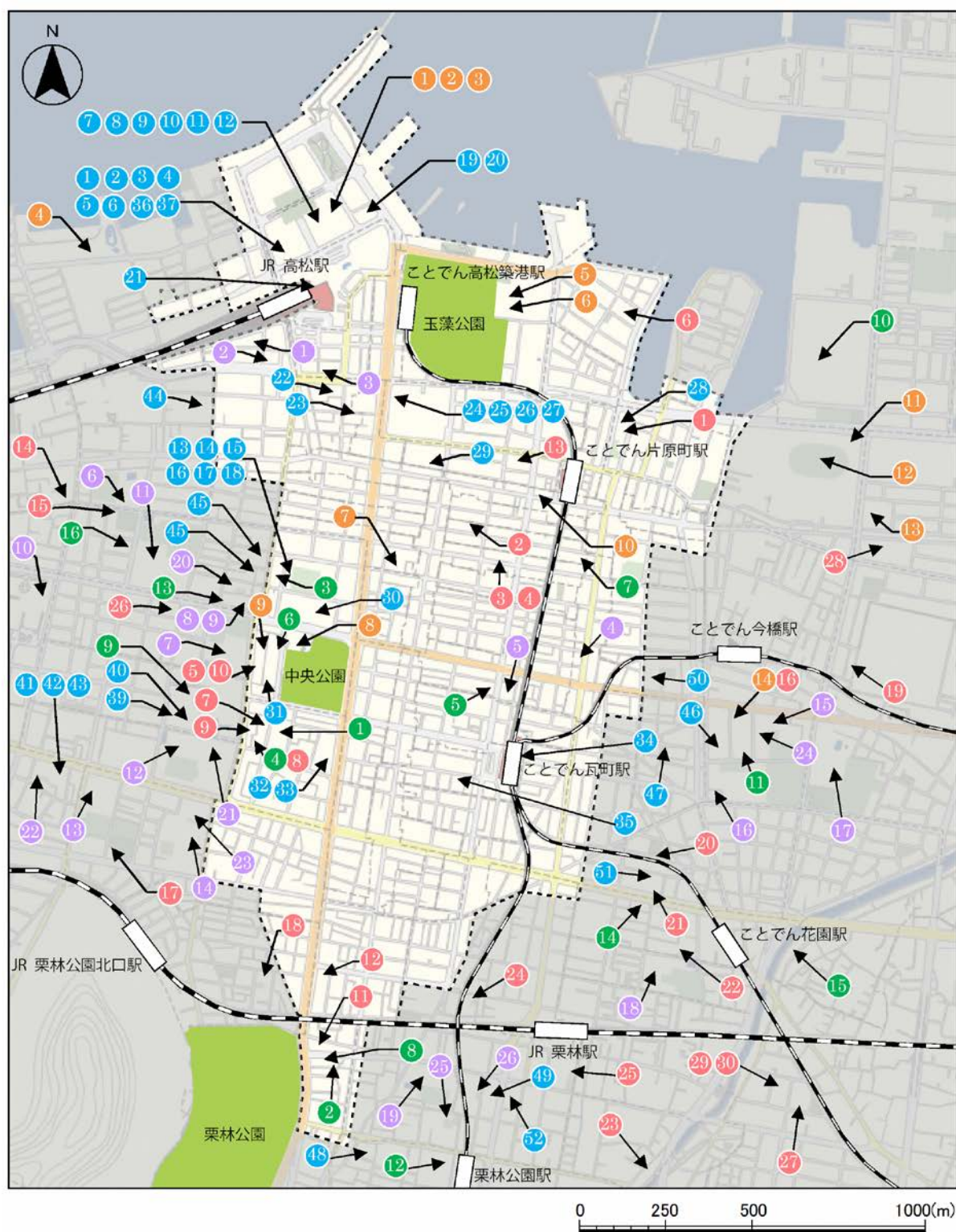


(資料：高松空港株式会社ホームページ)

(4) 都市機能関係

中心市街地やその周辺には、県庁や市役所を始めとする主要な公共施設や文化施設、医療施設、福祉施設等が数多く集積しています。

また、サンポートエリアには、国の出先機関など、四国の広域行政機能を担う施設も多く集積しています。



(資料：高松市ホームページ「たかまつぷ」)

図 主要公共公益施設等位置図

表 主要公共公益施設一覧

	中心市街地内		中心市街地周辺	
行政施設	①高松サンポート合同庁舎 ②四国厚生支局 ③香川労働局 ④高松労働基準監督署 ⑤四国経済産業局 ⑥四国地方整備局 ⑦かがわ国際会議場 ⑧高松シンボルタワー ⑨香川パスポートセンター ⑩e-とびあ・かがわ ⑪香川ビジネスターミナル ⑫かがわプラザ ⑬四番丁スクエア ⑭高松市市民活動センター ⑮高松市埋蔵文化財センター ⑯高松市コミュニティ協議会連絡会 ⑰高松市連合自治会連絡協議会 ⑱高松市創造支援センター ⑲高松港旅客ターミナルビル	⑳高松港管理事務所 ㉑インフォメーションプラザ ㉒高松北警察署 ㉓日本銀行高松支店 ㉔高松法務局 ㉕高松高等・地方検察庁 ㉖高松高等・地方・簡易裁判所 ㉗高松家庭裁判所 ㉘高松市新塩屋町コミュニティセンター ㉙高松中央郵便局 ㉚高松市役所 ㉛高松市上下水道局 ㉜高松国税局 ㉝高松税務署 ㉞高松市市民サービスセンター ㉟しごとプラザ高松 ㊱四国管区警察局 ㊲四国財務局	㊳高松市四番丁コミュニティセンター ㊴香川県警察本部 ㊵香川県庁 ㊶高松市消防局 ㊷高松市北消防署 ㊸高松市消防団本部 ㊹高松西年金事務所 ㊺高松商工会議所 ㊻香川県高松合同庁舎 ㊼高松東年金事務所 ㊽高松市栗林コミュニティセンター ㊾高松市保健センター ㊿高松市築地コミュニティセンター ①高松市花園コミュニティセンター ②高松市保健所	
文化等施設	①サンポートホール高松 ②高松市文化芸術ホール ③サンポート高松展示場 ④高松市立市民プール ⑤香川県県民ホール	⑥香川県立ミュージアム ⑦高松市美術館 ⑧香川国際交流会館 ⑨香川県文化会館 ⑩高松市生涯学習センター	⑪県立武道館 ⑫高松競輪場 ⑬旧香川県立体育館 ⑭たかまつミライエ	
医療施設	①KKR高松病院 ②へいむこどもクリニック ③整形外科吉峰病院 ④三宅リハビリテーション病院	⑤マオカ病院 ⑥高松大林病院 ⑦クワヤ病院 ⑧高松平和病院	⑨高松赤十字病院 ⑩香川県立中央病院 ⑪高松市夜間急病診療所 ⑫栗林病院	⑬五番丁病院 ⑭斉藤病院 ⑮伊達病院 ⑯ルカ病院
福祉施設	①城東保育園 ②わはは・ひろば高松(子育て支援施設) ③高松保育園 ④高松第二保育園 ⑤香川県社会福祉総合センター ⑥特別養護老人ホーム玉藻荘 ⑦総合福祉センターオレンジスクエア 介護付有料老人ホームあずさ ⑧訪問看護ステーションみやげ ⑨グループホームやすらぎ ⑩香川県視覚障害者福祉センター ⑪介護老人保健施設虹の里 ⑫グループホームひがん ⑬ナーシングホームせせらぎ		⑭高松市立扇町保育所 ⑮老人いこいの家二番丁荘 ⑯たかまつファミリー・サポート・センター ⑰老人いこいの家亀阜荘 ⑱中野保育所 ⑲松福保育園 ⑳老人いこいの家花畑荘 ㉑高松市総合福祉会館 ㉒こぶし花園保育園 ㉓老人いこいの家東藤塚荘 ㉔敬愛保育園 ㉕高松市立桜町保育所 ㉖介護老人保健施設明けの星 ㉗グループホーム愛の里 ㉘身体障害者福祉センターコスモス園 ㉙ケアハウスはなぞの ㉚特別養護老人ホームはなぞの園	
教育施設	①穴吹医療大学校 ②穴吹ビューティーカレッジ ③穴吹バティシエ福祉カレッジ ④穴吹動物カレッジ ⑤光華幼稚園		⑥高松市立新番丁小学校 ⑦香川県立高松高等学校 ⑧穴吹ビジネスカレッジ ⑨穴吹コンピューターカレッジ ⑩香川大学 ⑪香川県立高松工芸高等学校 ⑫香川大学附属高松小学校 ⑬高松市立亀阜小学校 ⑭英明高等学校 ⑮高松中央高等学校 ⑯香川県立高松商業高等学校 ⑰高松市立高松第一小学校・中学校 ⑱高松市立花園小学校 ⑲高松市立栗林小学校 ⑳高松聖母幼稚園 ㉑香川大学附属幼稚園 ㉒亀阜幼稚園 ㉓高松幼稚園 ㉔高松中央高校幼稚園 ㉕栗林幼稚園 ㉖桜町聖母幼稚園	

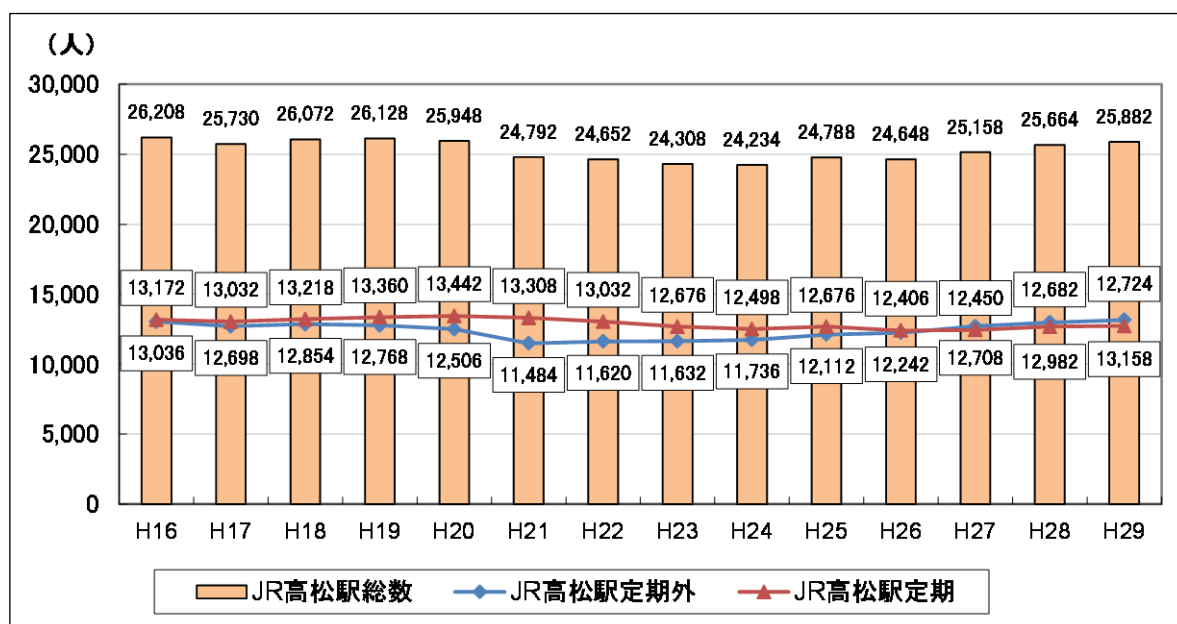
(5) 交通

① 公共交通機関（ＪＲ、高松琴平電気鉄道、一般乗合バス）

中心市街地の公共交通については、中心市街地の北側にＪＲ高松駅が位置するとともに、中心市街地の東側を高松琴平電気鉄道が縦断しています。

■ＪＲ高松駅の利用状況

ＪＲ高松駅の１日の平均乗降客数の推移を見ると、平成２４年では２４,２３４人と１６年と比較すると約２,０００人減少しています。しかし、２５年から乗降客数は増加に転じており、２５年から２９年にかけては約１,６００人増加し、２９年は２５,８８２人となっています。

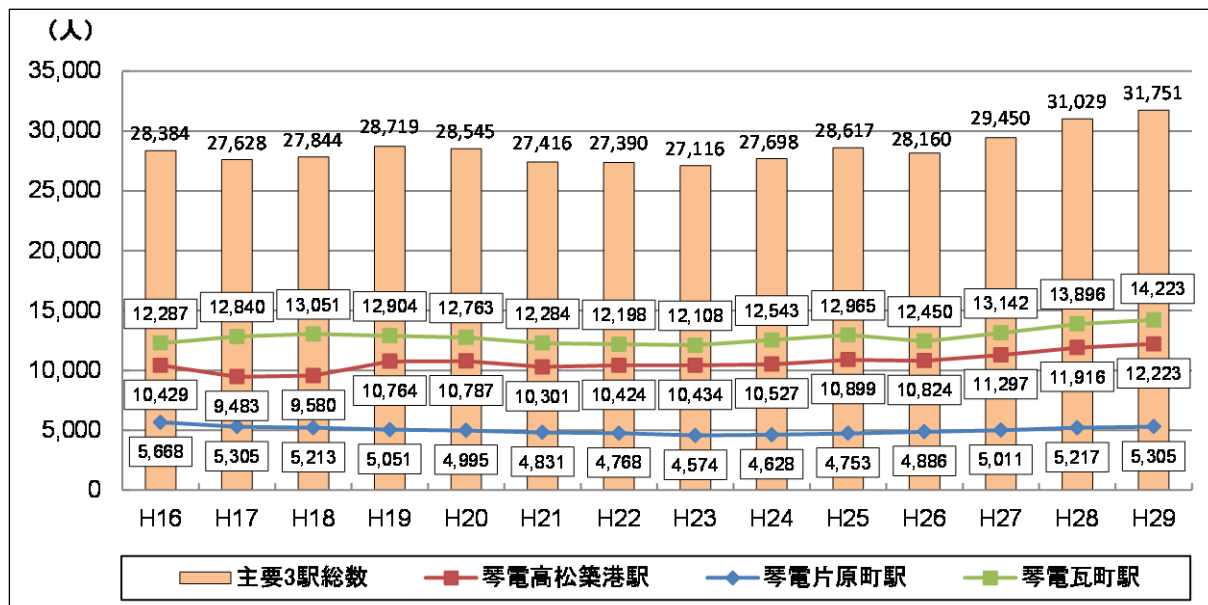


(資料：市資料)

図 JR高松駅の１日平均乗降客数

■高松琴平電気鉄道の主要3駅の利用状況

高松琴平電気鉄道の主要3駅（高松築港駅、片原町駅、瓦町駅）の1日の平均乗降客数の推移を見ると、平成23年から主要3駅全て増加傾向にあり、平成23年から29年にかけて約4,600人増加し、29年は31,751人となっています。

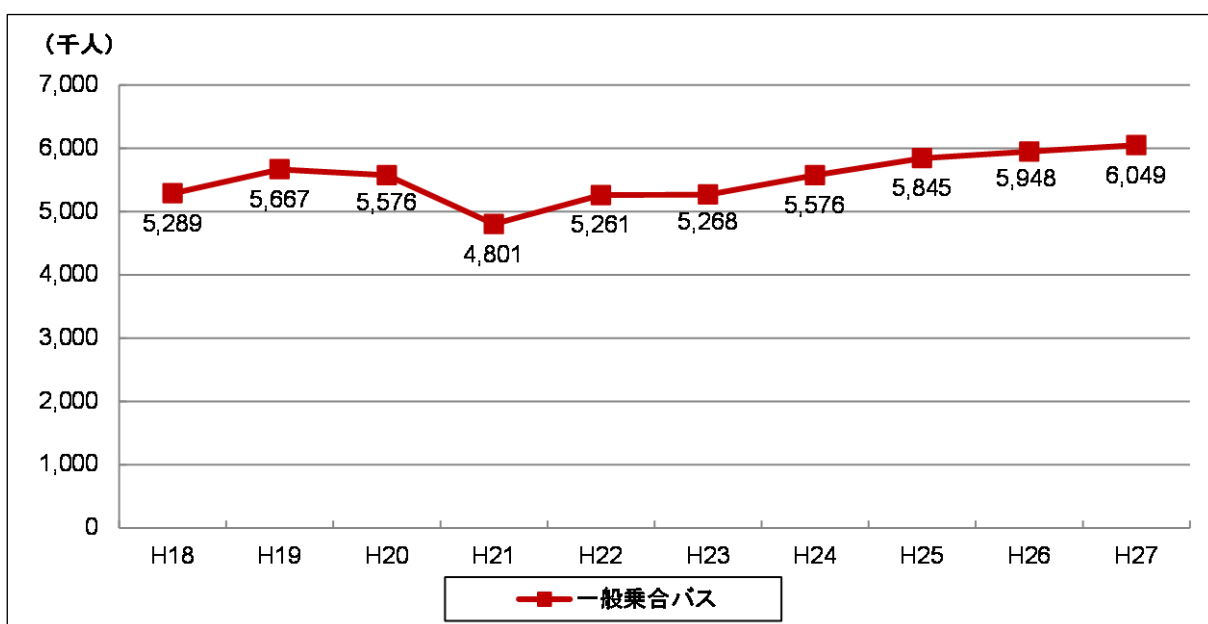


（資料：市資料）

図 高松琴平電気鉄道主要3駅の1日の平均乗降客数

■香川県内の一般乗合バスの利用状況

香川県内の一般乗合バスの年間の輸送人員の推移を見ると、平成19年まで増加傾向でしたが、20年から減少に転じ、21年に4,801千人まで減少しました。しかし、22年から増加に転じ、27年は6,049千人となっています。



（資料：市資料）

図 香川県内の一般乗合バスの輸送人員

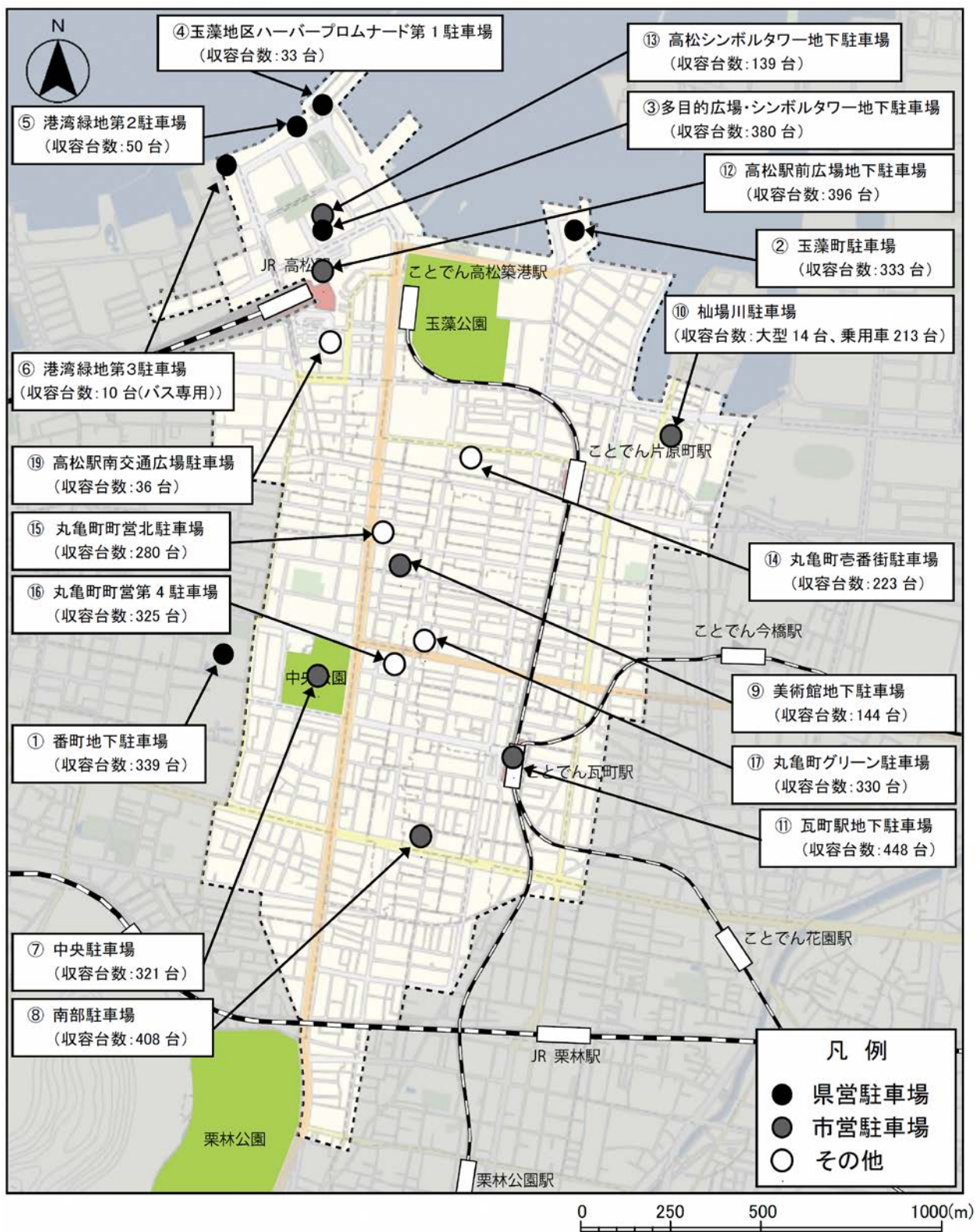
② 中心市街地の自動車用駐車場

中心市街地やその周辺には、市立瓦町駅地下駐車場（448 台収容）、市立南部駐車場（408 台収容）、県営多目的広場・シンボルタワー地下駐車場（380 台収容）を始めとする多くの駐車場が点在しています。

表 主要駐車場一覧

管理者	番号	駐車場名	収容台数（台）
県営駐車場	①	番町地下駐車場	339
	②	玉藻町駐車場	333
	③	多目的広場・シンボルタワー地下駐車場	380
	④	玉藻地区ハーバープロムナード第1駐車場	33
	⑤	港湾緑地第2駐車場	50
	⑥	港湾緑地第3駐車場	10（バス専用）
市立駐車場	⑦	中央駐車場	321
	⑧	南部駐車場	408
	⑨	美術館地下駐車場	144
	⑩	杣場川駐車場	大型 14、乗用車 213
	⑪	瓦町駅地下駐車場	448
	⑫	高松駅前広場地下駐車場	396
	⑬	高松シンボルタワー地下駐車場	139
その他	⑭	丸亀町壱番街駐車場	223
	⑮	丸亀町町営北駐車場	280
	⑯	丸亀町町営第4駐車場	325
	⑰	丸亀町グリーン駐車場	330

（資料：各駐車場施設ホームページより）



(資料：各駐車場施設ホームページより)

図 主要駐車場の分布状況

③ 中心市街地の駐輪場

駐輪場は中心市街地に 14 か所設置されていますが、放置自転車等による通行障害や景観の悪化が問題となっており、駐輪場の使い勝手の向上や、更なる充実が必要な状況にあります。

表 主要駐輪場一覧

管理者	番号	駐輪場名	収容台数（台）
市営駐輪場	①	高松駅前広場地下自転車駐車場	2,411 台
	②	瓦町地下自転車駐車場	960 台
	③	栗林公園駅前自転車駐車場	188 台
町営駐輪場	④	丸亀町営北駐車場	191 台
	⑤	丸亀町営第 4 駐車場	150 台
	⑥	丸亀町 G 街区駐輪場	600 台
	⑦	丸亀町壱番街駐輪場	432 台
	⑧	常磐町商店街駐輪場	68 台
	⑨	田町商店街駐輪場	30 台
	⑩	兵庫町第 2 駐輪場	50 台
	⑪	ライオン通商店街駐輪場	66 台
	⑫	ライオン通商店街第 2 駐輪場	30 台
	⑬	南新町商店街駐輪場	39 台
	⑭	兵庫町第 3 駐輪場	50 台

（資料：各駐輪場施設ホームページより）

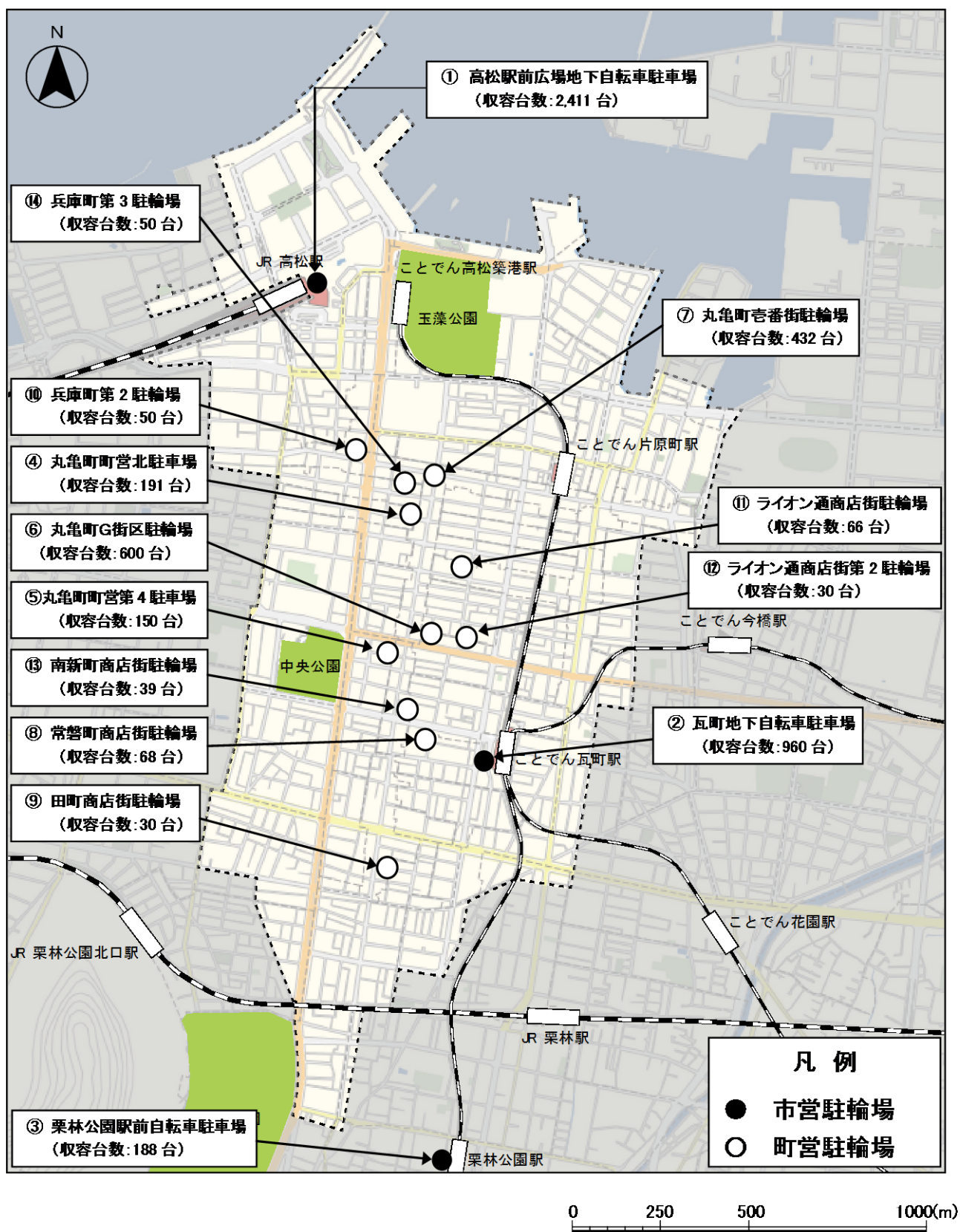


図 中心市街地内の駐輪場の分布状況 (資料：各駐輪場施設ホームページより)

④ 中心市街地の歩行者通行量

中心市街地の主要な地点（15 地点）における歩行者通行量は、平成 19 年と 29 年の比較では、増加地点は平日が 2 か所、休日が 3 か所となっています。一方、24 年と 29 年の比較では減少地点が多く、平日の増加地点は 1 か所、休日は 1 か所となっています。

中心市街地全体の歩行者通行量は、平日・休日ともに平成 19 年から経年的に減少傾向にあります。

表 中央商店街通行量の推移（平日）

歩行者通行量調査 調査時間：午前 10 時～午後 7 時（9 時間）（各年度 5 月～8 月調査と 9 月～10 月調査の平均）（単位：人）

地点 年度	A 兵庫町 （西）	B 兵庫町 （東）	C 片原町西 （西）	D 片原町西 （東）	E 片原町東 （西）	F 丸亀町 （北）	G 丸亀町 （南）	H ライオン通 （北）	I ライオン通 （南）	J 南新町 （南）	K 常磐町 （西）	L 常磐町 （東）	M 田町 （中）	N 菊池寛通り （南）	O 菊池寛通り （北）	合 計
19	6,854	14,288	13,283	9,789	9,313	14,127	13,830	4,732	3,690	13,345	7,696	7,613	10,941	4,312	3,140	136,953
20	9,766	14,373	12,523	10,268	8,884	13,880	12,876	5,013	3,544	12,253	7,946	7,254	11,065	2,660	2,964	135,269
21	6,708	13,906	12,182	9,506	8,486	14,345	13,306	4,416	3,293	13,457	7,961	7,276	11,171	2,518	2,882	131,413
22	7,244	13,752	12,110	9,527	7,716	14,559	11,088	4,546	3,500	11,816	7,433	6,624	9,843	2,443	2,646	124,847
23	7,066	13,865	13,189	9,730	8,542	15,716	11,865	4,481	3,682	12,811	7,578	6,858	10,948	2,168	2,735	131,234
24	6,631	12,851	13,538	9,503	8,068	12,078	9,640	6,099	4,920	11,724	7,695	6,474	10,093	2,564	2,830	124,708
25	5,506	11,205	10,720	8,415	6,737	9,993	9,163	5,013	3,655	10,206	6,764	5,455	7,881	2,086	2,058	104,857
26	5,360	10,869	10,115	8,293	7,109	9,994	8,737	5,111	3,756	9,610	5,949	4,528	8,044	2,118	2,258	101,851
27	6,377	11,896	11,497	8,686	7,871	10,125	9,475	5,883	4,738	10,755	6,780	5,589	9,377	2,677	2,541	114,267
28	5,754	11,621	11,828	8,132	7,226	10,201	9,025	5,585	4,074	9,409	6,095	5,175	8,646	2,460	2,407	107,638
29	5,750	11,753	11,327	8,293	7,126	11,373	10,528	5,703	3,969	11,002	6,583	5,797	8,257	2,430	2,006	111,897
H29/H19(%)	83.9%	82.3%	85.3%	84.7%	76.5%	80.5%	76.1%	120.5%	107.6%	82.4%	85.5%	76.1%	75.5%	56.4%	63.9%	81.7%
H29/H24(%)	86.7%	91.5%	83.7%	87.3%	88.3%	94.2%	109.2%	93.5%	80.7%	93.8%	85.5%	89.5%	81.8%	94.8%	70.9%	89.7%

表 中央商店街通行量の推移（休日）

歩行者通行量調査 調査時間：午前 10 時～午後 7 時（9 時間）（各年度 5 月～8 月調査と 9 月～10 月調査の平均）（単位：人）

地点 年度	A 兵庫町 （西）	B 兵庫町 （東）	C 片原町西 （西）	D 片原町西 （東）	E 片原町東 （西）	F 丸亀町 （北）	G 丸亀町 （南）	H ライオン通 （北）	I ライオン通 （南）	J 南新町 （南）	K 常磐町 （西）	L 常磐町 （東）	M 田町 （中）	N 菊池寛通り （南）	O 菊池寛通り （北）	合 計
19	4,215	11,401	15,489	8,598	6,679	15,193	13,685	4,240	3,264	12,594	9,175	8,576	8,365	2,093	3,114	126,681
20	4,016	10,975	13,860	9,135	6,584	14,258	13,219	4,408	2,522	11,219	7,515	7,115	7,262	1,683	2,861	116,632
21	4,376	10,798	12,912	7,878	5,702	13,796	11,384	3,736	2,309	10,628	6,828	6,272	7,217	1,244	2,154	107,234
22	4,398	10,686	11,462	7,926	5,176	14,088	10,633	3,680	1,913	12,871	13,663	10,177	6,559	1,387	1,384	116,003
23	3,392	10,838	13,369	8,059	5,647	17,909	11,418	3,750	2,156	12,974	19,570	18,234	6,824	1,663	2,258	138,061
24	4,088	11,172	16,893	8,504	5,934	20,480	15,971	4,851	3,581	11,358	8,992	8,015	7,178	2,212	2,649	131,878
25	3,889	10,899	14,317	8,022	5,891	16,880	13,613	4,745	3,502	10,833	7,513	6,530	7,085	1,738	2,769	118,226
26	4,072	10,424	15,206	8,457	5,928	17,735	13,781	4,960	3,515	10,606	7,185	6,092	6,787	1,653	2,330	118,731
27	3,733	10,736	14,794	8,053	5,920	18,144	15,182	4,806	3,766	12,060	9,426	9,254	6,935	2,347	3,701	128,857
28	3,952	13,116	18,071	7,733	5,744	20,833	14,932	5,335	3,167	10,821	8,295	7,602	6,295	1,964	2,706	130,566
29	3,401	9,821	15,380	7,233	5,306	17,953	15,245	4,838	2,810	10,845	8,242	8,266	5,341	1,683	2,203	118,567
H29/H19(%)	80.7%	86.1%	99.3%	84.1%	79.4%	118.2%	111.4%	114.1%	86.1%	86.1%	89.8%	96.4%	63.8%	80.4%	70.7%	93.6%
H29/H24(%)	83.2%	87.9%	91.0%	85.1%	89.4%	87.7%	95.5%	99.7%	78.5%	95.5%	91.7%	103.1%	74.4%	76.1%	83.2%	89.9%

（資料：中央商店街歩行者通行量調査）

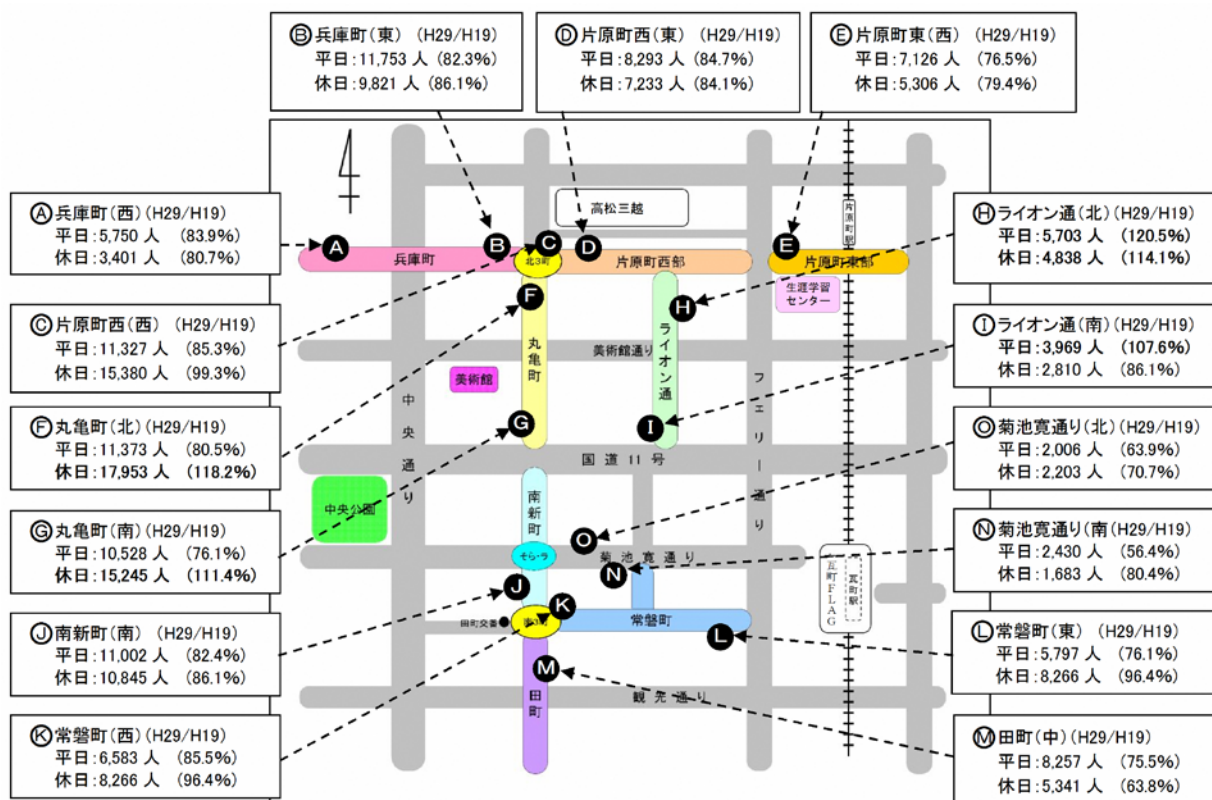


図 平成 29 年度歩行者通行量 (15 地点)

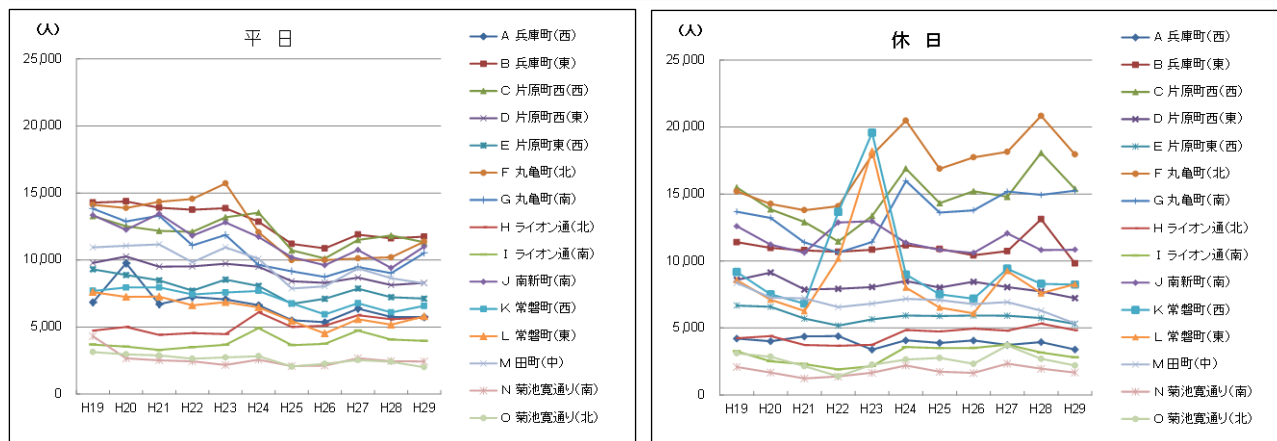
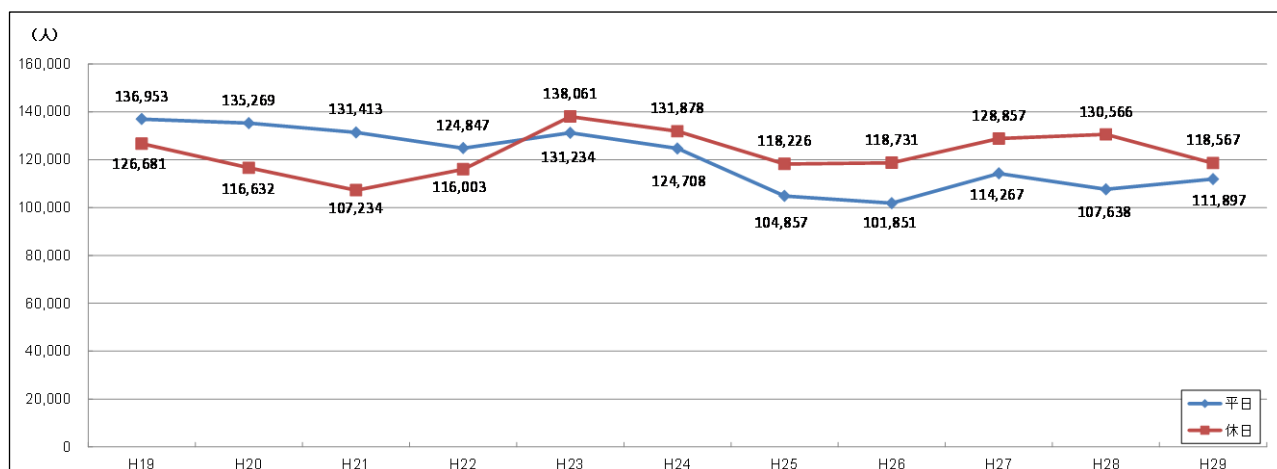


図 歩行者通行量の推移

(資料：中央商店街歩行者通行量調査)

(6) 地価の状況

中心市街地の地価は、平成 27 年まで下落傾向が続いてきましたが、28 年には横ばい状態となり、29 年から一部で上昇に転じています。しかし、10 年前の平成 21 年と比べると総じて下落しています。

表 中心市街地の地価動向

地価公示(各年1月1日)			(円/㎡)									
	位 置	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	変化率 (H30/H21)
①	高松5-1 高松市磨屋町2番6外	558,000	520,000	474,000	435,000	400,800	390,000	382,000	382,000	392,000	408,000	73.1%
②	高松5-2 高松市築地町16番15	148,000	140,000	133,000	127,000	123,000	120,000	119,000	119,000	119,000	120,000	81.1%
③	高松5-4 高松市西の丸町10番6	298,000	287,000	269,000	254,000	243,000	239,000	239,000	239,000	239,000	241,000	80.9%
④	高松5-6 高松市御坊町10番16	148,000	144,000	140,000	137,000	134,000	132,000	132,000	132,000	132,000	133,000	89.9%
⑤	高松5-7 高松市南新町4番3	323,000	307,000	290,000	276,000	267,000	259,000	256,000	256,000	256,000	258,000	79.9%
⑥	高松5-8 高松市錦町1丁目210番	224,000	217,000	209,000	201,000	195,000	190,000	188,000	188,000	189,000	190,000	84.8%
⑦	高松5-15 高松市天神前7番4	203,000	193,000	183,000	174,000	165,000	157,000	153,000	153,000	153,000	154,000	75.9%
⑧	高松5-16 高松市藤塚町2丁目4番14外	-	146,000	139,000	133,000	128,000	124,000	122,000	122,000	122,000	122,000	-
⑨	高松5-18 高松市丸の内7番20	185,000	181,000	173,000	165,000	158,000	154,000	152,000	152,000	152,000	154,000	83.2%
⑩	高松5-19 高松市瓦町2丁目12番2	281,000	260,000	237,000	224,000	213,000	204,000	199,000	199,000	199,000	200,000	71.2%
⑪	高松5-14 高松市錦町1丁目269番1	-	-	151,000	144,000	141,000	139,000	139,000	140,000	142,000	147,000	-

(資料：国土交通省地価公示)

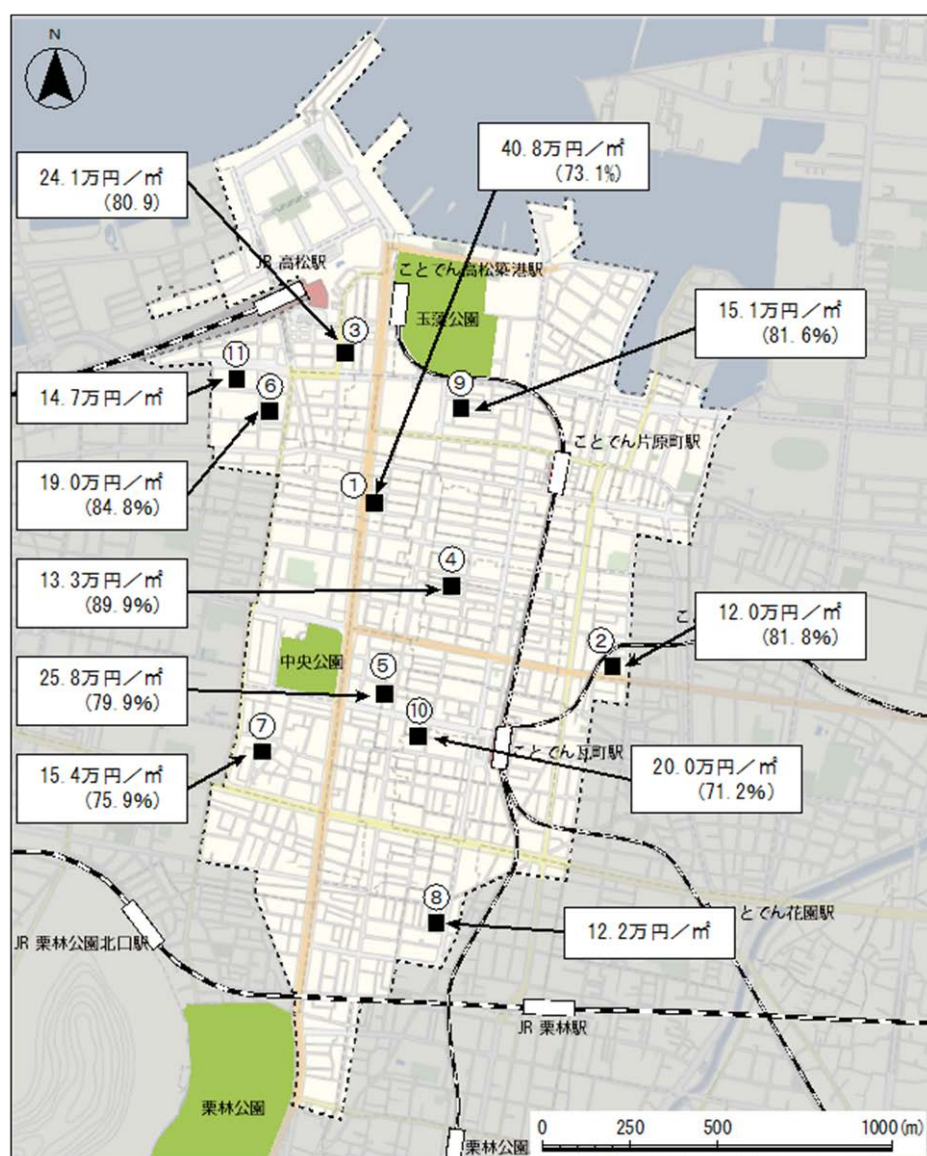


図 中心市街地と周辺の地価

[3] 地域住民のニーズ等の把握・分析

(1) 市民アンケートの概要

■調査目的

第3期高松市中心市街地活性化基本計画の策定に当たり、中央商店街の利用者に対し、利用状況、利用促進に必要な施設、街なか居住に求められるものなどのニーズを把握するため、アンケートを実施しました。

【調査概要】

調査手法	聞き取り方式（ヒアリング）
調査日	平成30年6月30日（土）～7月1日（日）の2日間 10時～18時
調査地点	高松丸亀町商店街の振興組合前、丸亀町グリーン前の2か所
調査対象	中央商店街の利用者
調査主体	高松市 市民政策局 コンパクト・エコシティ推進部 住宅・まちづくり企画課
回答数	430票（6月30日（土）：201票、7月1日（日）：229票）

■アンケート結果

市民アンケートによる集計結果を以下に示します。

なお、端数処理等の関係で表記数値合計が100%にならない場合があります。

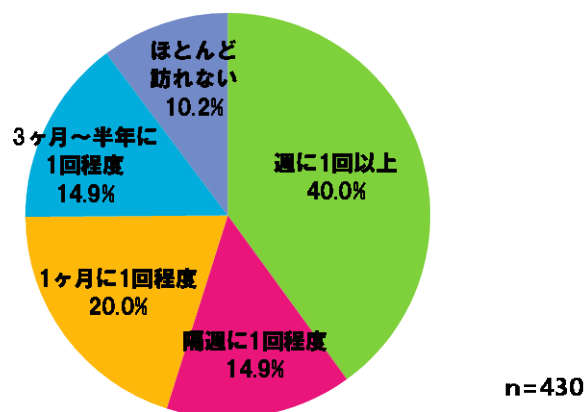
① 高松市の中心市街地・商店街・ショッピングセンターの利用について

■訪問頻度

どのくらいの頻度で高松市の中心市街地及び商店街を訪れますか

・中心市街地及び商店街への訪問頻度は、「週に1回以上」が40.0%で最も多く、次いで「1ヶ月に1回程度」が20.0%となっています。

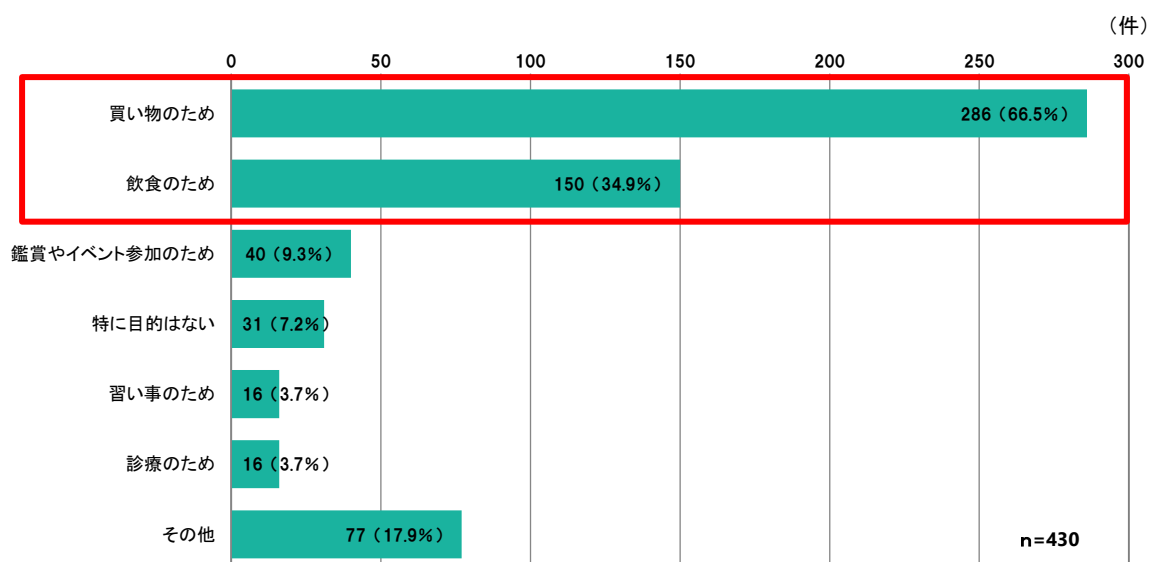
カテゴリ	件数
週に1回以上	172
隔週に1回程度	64
1ヶ月に1回程度	86
3ヶ月～半年に1回程度	64
ほとんど訪れない	44
サンプル数	430



■訪問目的

高松市の中心市街地及び商店街は、主にどのような目的で訪れましたか（複数回答）

・中心市街地及び商店街の訪問目的は、「買い物のため」と回答した人が66.5%で最も多く、次いで「飲食のため」が34.9%となっています。



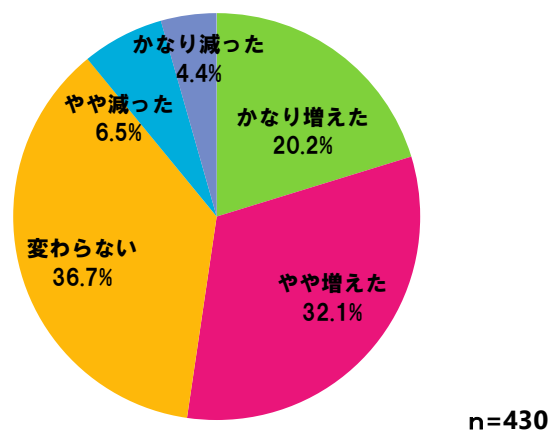
■訪問頻度（5年前との変化）

5年前と比べて、高松市の中心市街地及び商店街を訪れる頻度は変わりましたか

・中心市街地及び中央商店街への訪問頻度は、「変わらない」が36.7%で最も多く、次いで「やや増えた」が32.1%となっています。

・中心市街地及び商店街への訪問頻度で「増えた」と回答した人は、52.3%で過半数を超えています。

カテゴリ	件数
かなり増えた	87
やや増えた	138
変わらない	158
やや減った	28
かなり減った	19
サンプル数	430

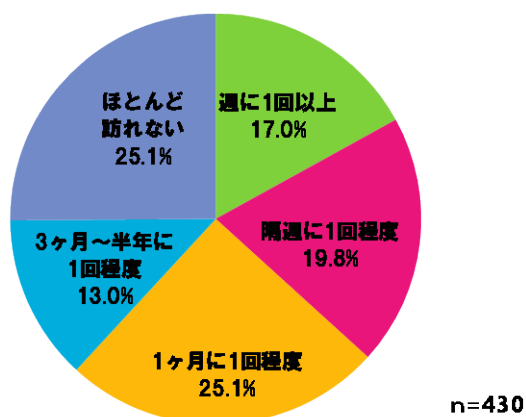


■郊外のショッピングセンターへの訪問頻度

どのくらいの頻度で郊外のショッピングセンターを訪れますか

- ・郊外のショッピングセンターへの訪問頻度は、「1ヶ月に1回程度」「ほとんど訪れない」がそれぞれ25.1%で最も多く、次いで「隔週に1回程度」が19.8%となっています。
- ・中央商店街の利用者は、あまり郊外ショッピングセンターへの来訪する傾向にないことが推察できます。

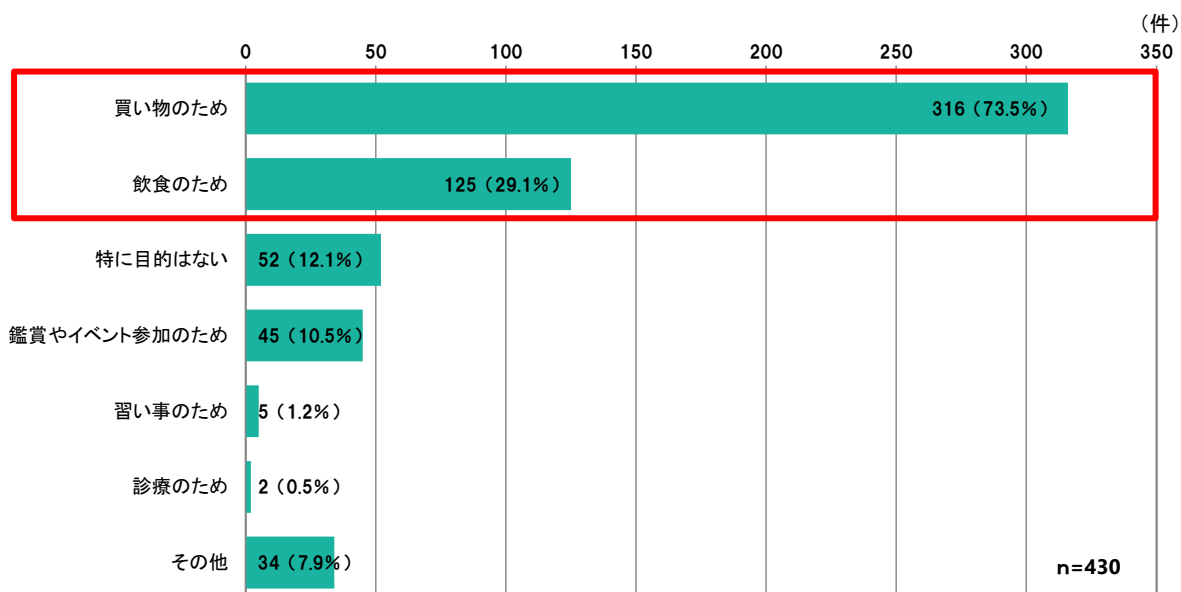
カテゴリ	件数
週に1回以上	73
隔週に1回程度	85
1ヶ月に1回程度	108
3ヶ月～半年に1回程度	56
ほとんど訪れない	108
サンプル数	430



■郊外のショッピングセンターへの訪問目的

郊外のショッピングセンターは、主にどのような目的で訪れましたか（複数回答）

- ・郊外のショッピングセンターへの訪問目的は、「買い物のため」と回答した人が73.5%で最も多く、次いで「飲食のため」が29.1%となっています。

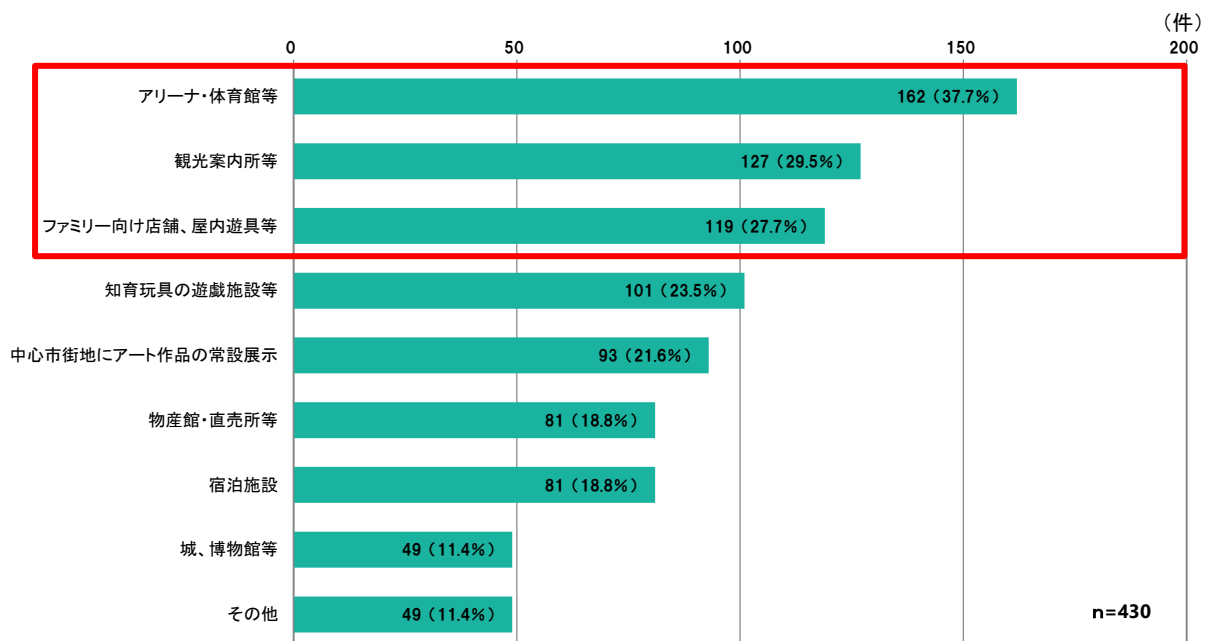


② 高松市の中心市街地・商店街に対するニーズについて

■訪れる機会を増やすための必要な施設

市外や県外から中心市街地を訪れていただくためには、どのような施設が必要と思いますか
(複数回答)

・市外や県外から中心市街地へ訪問してもらうために必要な施設は、「アリーナ・体育館等」と回答した人が 37.7%で最も多く、次いで「観光案内所等」が 29.5%、「ファミリー向け店舗、屋内遊具等」が 27.7%となっています。

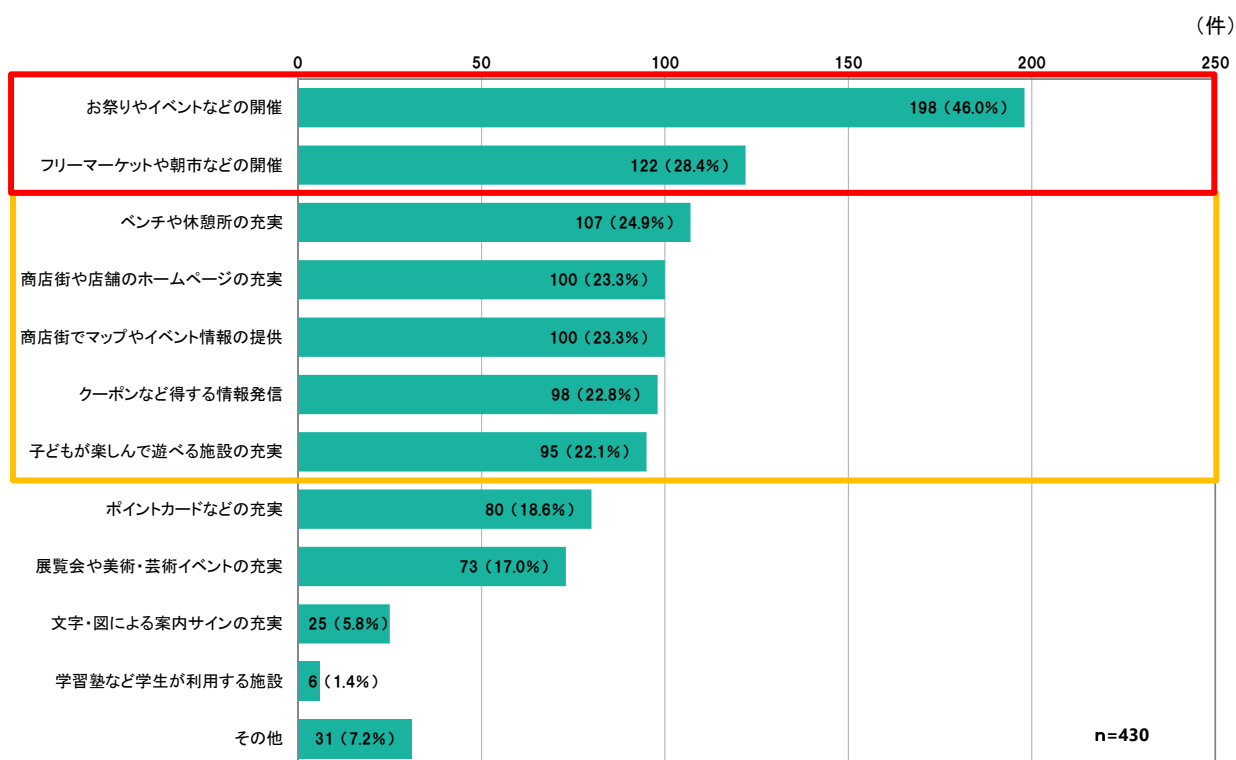


■ 中心市街地及び中央商店街を訪れる機会を増やすための行うべき取組

中心市街地及び商店街を訪れる機会を増やすため、どのような取組を行うべきと思いますか
(複数回答)

・ 中心市街地及び中央商店街への訪問機会を増やすために必要な取組は、「お祭りやイベントなどの開催」と回答した人が 46.0%で最も多く、次いで「フリーマーケットや朝市などの開催」が 28.4%となっており、中心市街地及び商店街のにぎわいの創出に資するものが求められています。

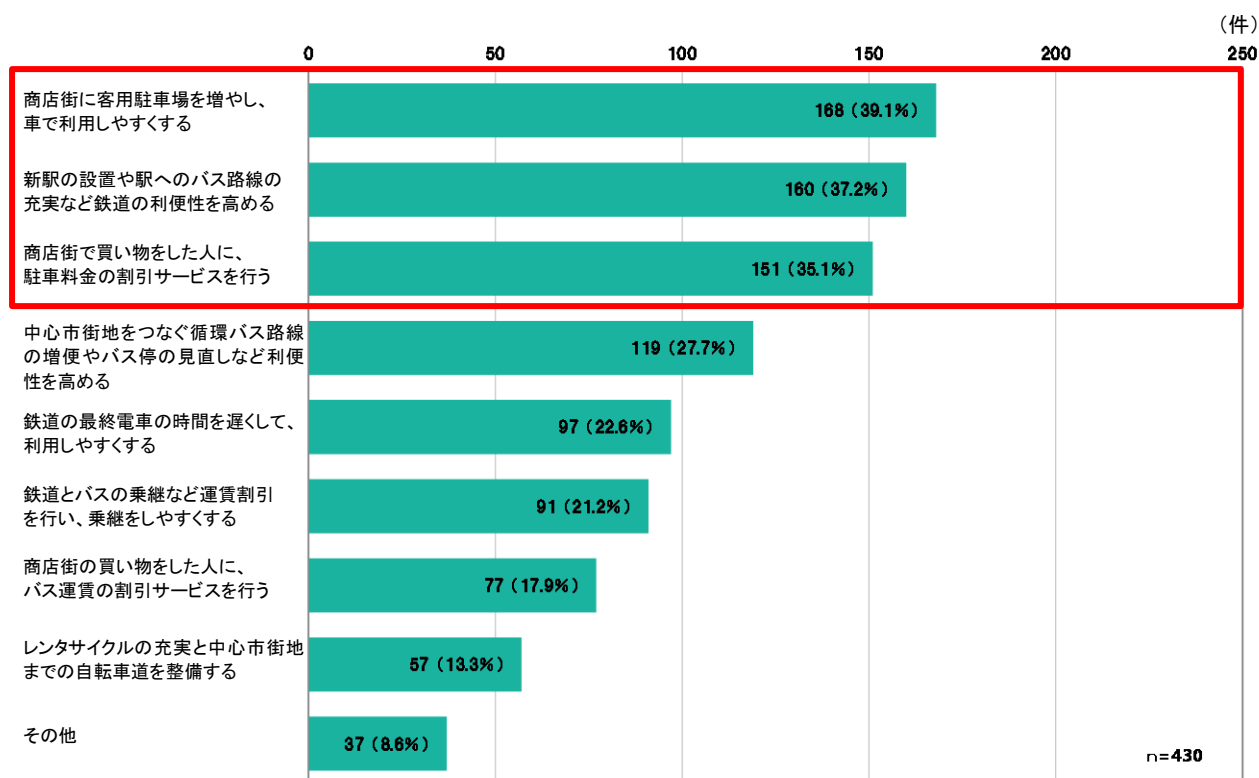
・ また、「ベンチや休憩所の充実」「商店街の店舗のホームページの充実」「商店街でマップやイベント情報の提供」「クーポンなど得する情報発信」「子どもが楽しんで遊べる施設の充実」と回答した人が、それぞれ 20%を超えており、商店街の利便性や利用環境の向上を高める取組も求められています。



■ 中心市街地に行きやすくするために行うべき取組

中心市街地に行きやすくするためには、どのような取組を行うべきと思いますか（複数回答）

・ 中心市街地へ行きやすくするために必要な取組は、「商店街に客用駐車場を増やし、車で利用しやすくする」と回答した人が 39.1% で最も多く、次いで「新駅の設置や駅へのバス路線の充実など鉄道の利便性を高める」が 37.2%、「商店街で買い物をした人に、駐車料金の割引サービスを行う」が 35.1% となっています。



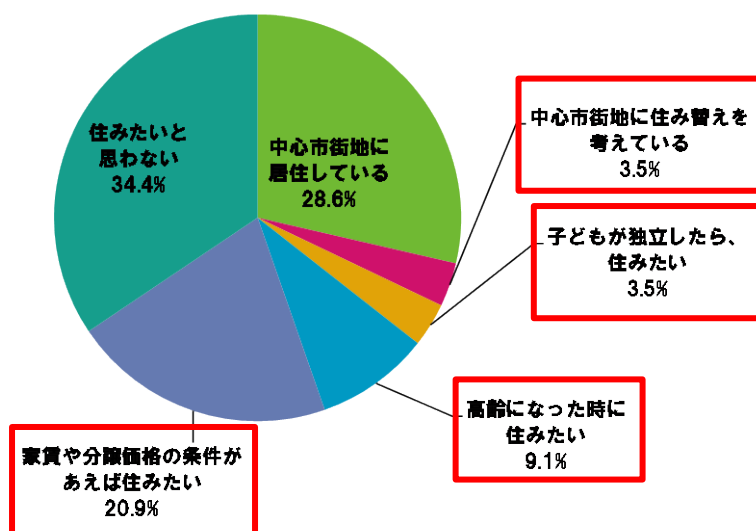
③ 高松市の中心市街地における居住について

■中心市街地への居住について

中心市街地に居住することについて、どのように思いますか

・中心市街地への居住について、中心市街地に住みたいと回答した「中心市街地に住み替えを考えている」、「子どもが独立したら、住みたい」、「高齢になったときに住みたい」、「家賃や分譲価格の条件があれば住みたい」の合計は37.0%で、「住みたいと思わない」の34.4%を上回っています。

・中心市街地に住みたいと回答した中で、「家賃や分譲価格の条件があれば住みたい」が20.9%で最も多く、次いで「高齢になった時に住みたい」が9.1%となっており、条件等が揃えば中心市街地に住みたいと考えている人が比較的多くなっています。

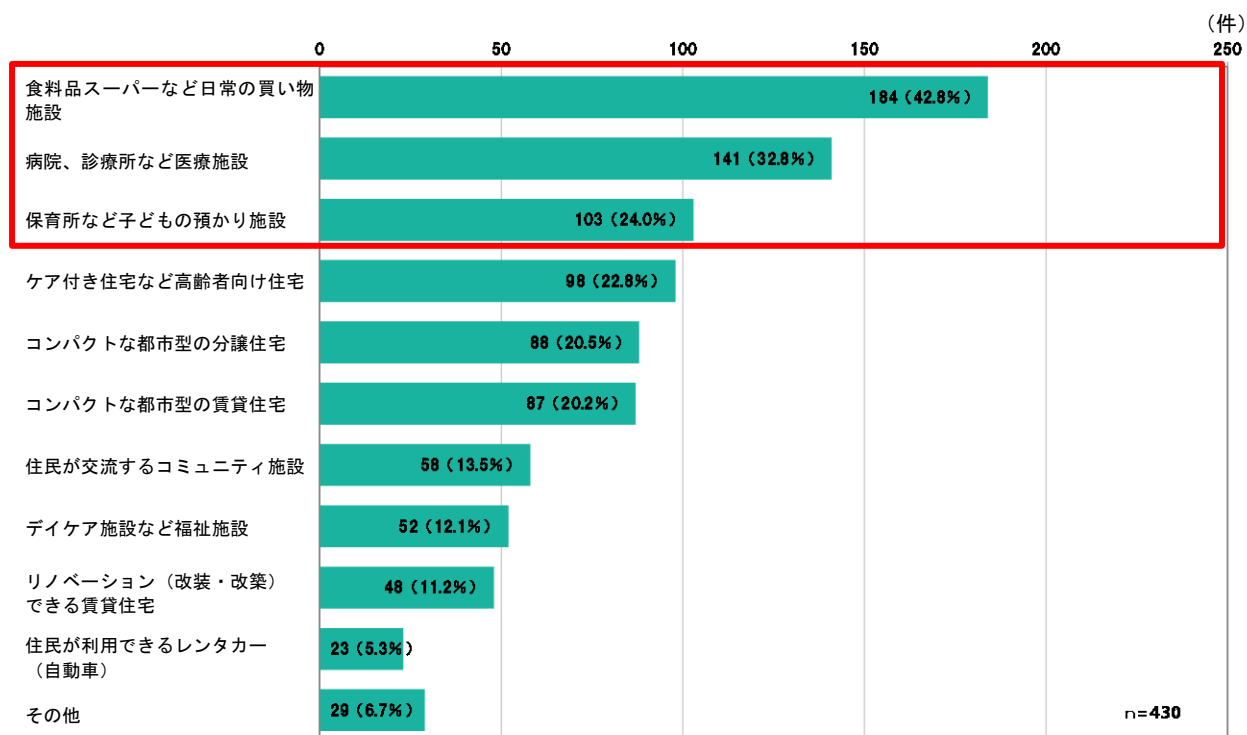


カテゴリ	件数
中心市街地に居住している	123
中心市街地に住み替えを考えている	15
子どもが独立したら、住みたい	15
高齢になった時に住みたい	39
家賃や分譲価格の条件があれば住みたい	90
住みたいと思わない	148
サンプル数	430

■ 中心市街地への居住を進めるために、充実すべき施設

中心市街地での居住を進めるために、どのような施設を充実すべきと思いますか（複数回答）

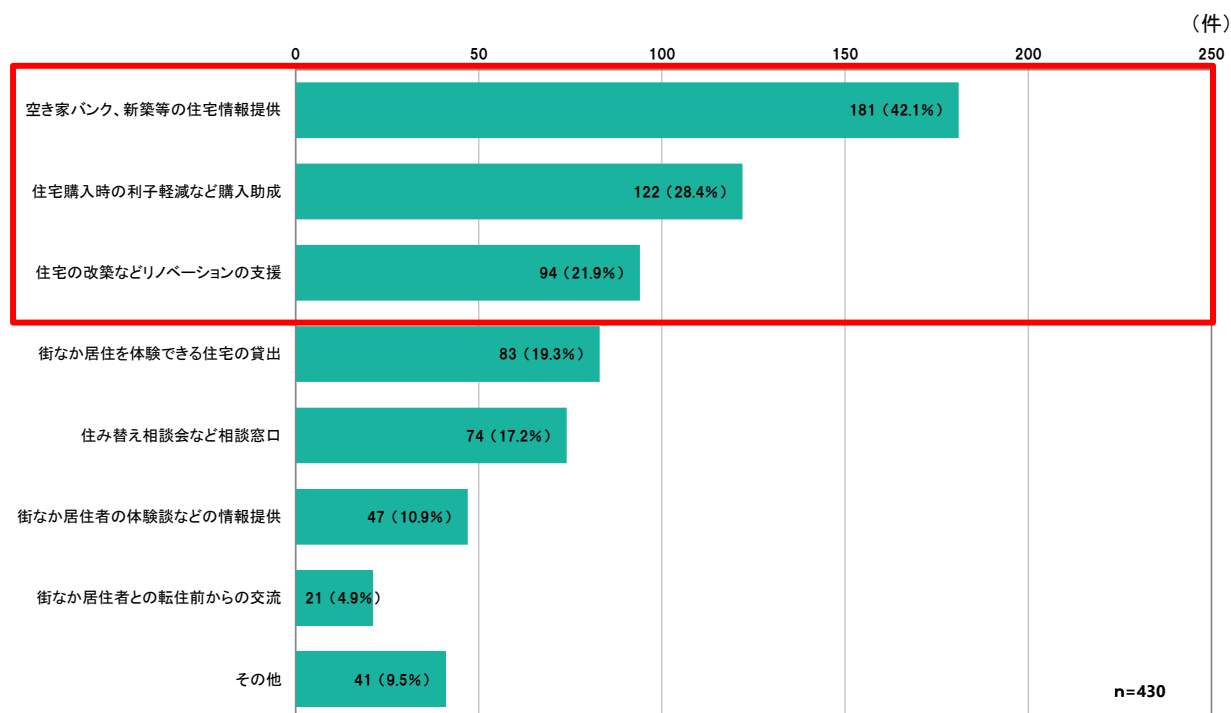
・ 中心市街地への居住を進めるために充実すべき施設は、「食料品スーパーなど日常の買い物施設」と回答した人が 42.8% で最も多く、次いで「病院、診療所など医療施設」が 32.8%、「保育所など子どもの預かり施設」が 24.0% となっています。



■ 中心市街地への居住を進めるために、行うべき取組

中心市街地での居住を進めるために、どのような取組を行うべきと思いますか（複数回答）

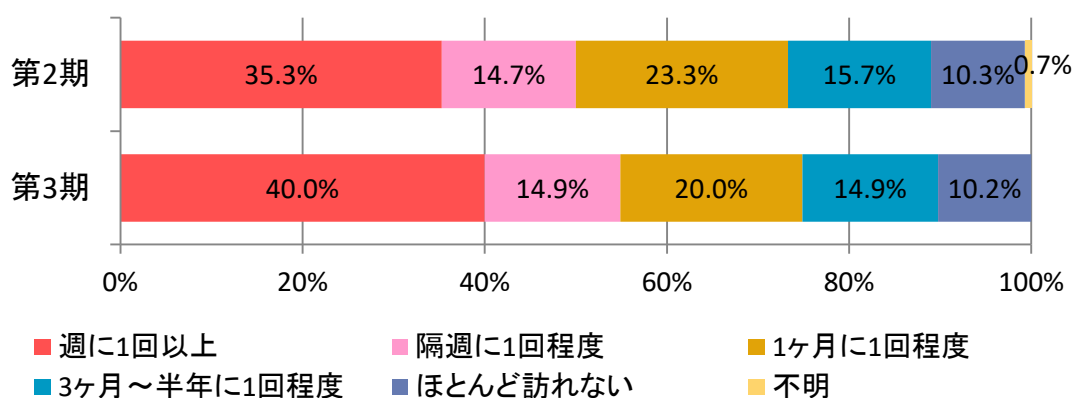
・ 中心市街地への居住を進めるために必要な取組は、「空き家バンク、新築等の住宅情報提供」と回答した人が 42.1%で最も多く、次いで「住宅購入時の利子軽減など購入助成」が 28.4%、「住宅の改築などリノベーションの支援」が 21.9%となっています。



④ 第2期計画におけるアンケートとの比較

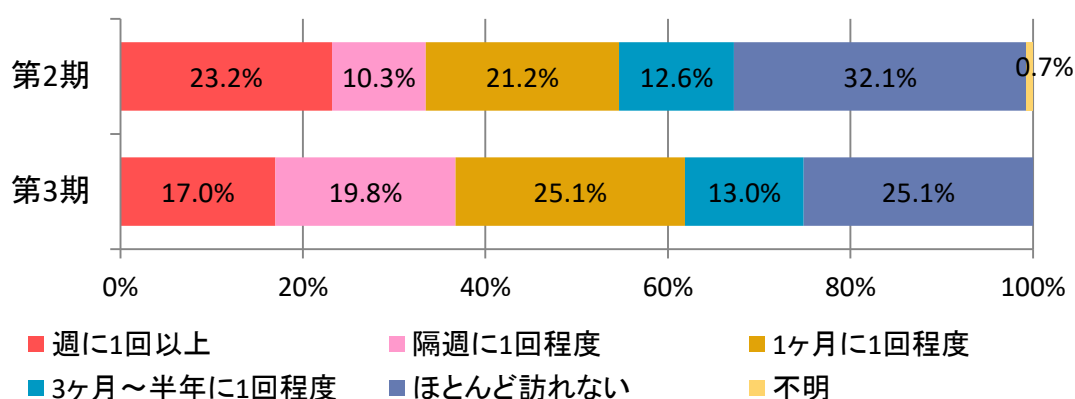
■ 中心市街地及び商店街の訪問頻度

・ 中心市街地及び商店街の訪問頻度は、第2期に比べて「週に1回以上」「隔週に1回程度」など多頻度で利用する割合が増加しています。



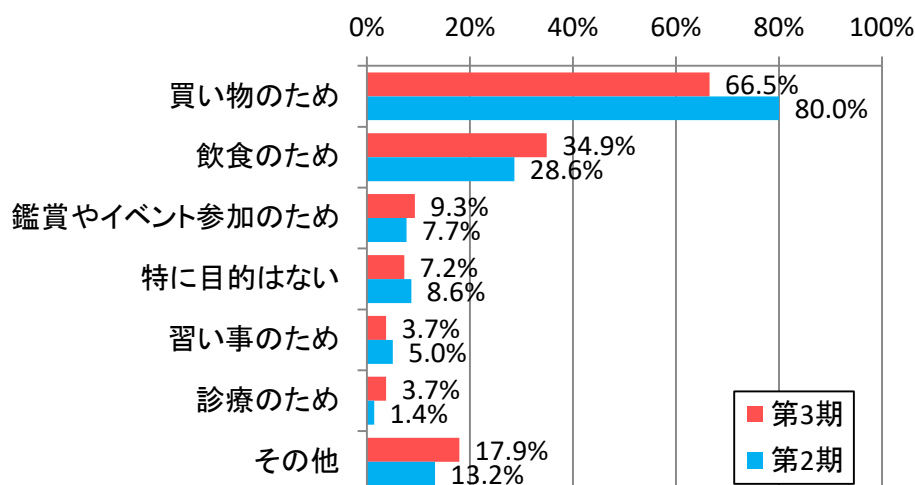
■郊外のショッピングセンターの訪問頻度

・郊外のショッピングセンターの訪問頻度は、第2期に比べて「週に1回以上」が大きく減少し、「隔週に1回程度」「1ヶ月に1回程度」のたまに訪れる人が増加しています。



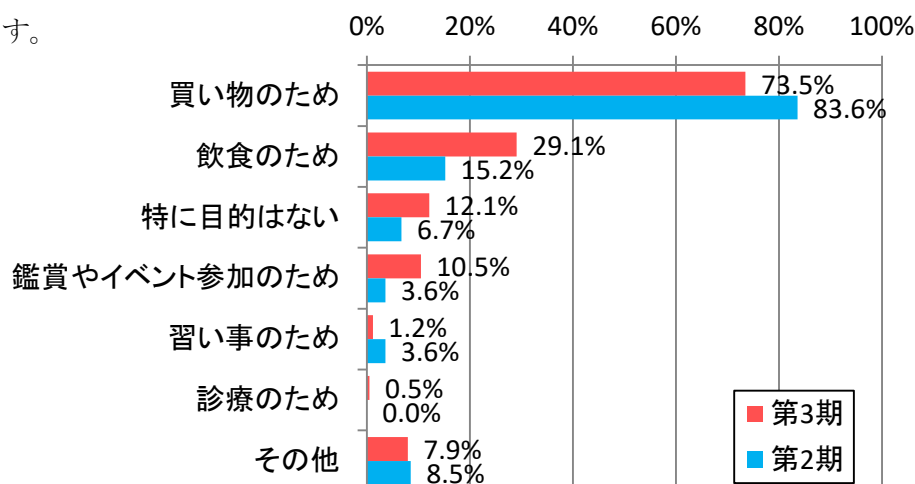
■中心市街地及び商店街の訪問目的

・中心市街地及び商店街の訪問目的は、第2期に比べて「飲食のため」「鑑賞やイベント参加のため」「診療のため」が増加しており、買い物以外への目的の変化が見られます。



■郊外のショッピングセンターの訪問目的

・郊外のショッピングセンターの訪問目的は、第2期に比べて「飲食のため」「特に目的はない」「鑑賞やイベント参加のため」が増加しており、中心市街地及び商店街と同様の傾向にあります。



⑤ 市民アンケートから導き出される課題

【中心市街地・商店街の利用における課題】

- 中心市街地及び商店街の訪問目的は、「買い物」「飲食」が突出しており、他は1割以下のため、「買い物」「飲食」に関する魅力の向上や効果的な情報発信が必要

【中心市街地・商店街に対するニーズにおける課題】

- 訪問してもらうために必要な施設
「アリーナ・体育館等」「観光案内所等」「ファミリー向け店舗、屋内遊具等」の整備が必要
- 訪問してもらうために必要な取組
「お祭りやイベントなどの開催」等のにぎわいを高めるイベント・催しの開催
「商店街や店舗のホームページの充実」などの商店街の利便性や利用環境の向上
- 訪問しやすくするために必要な取組
商店街における駐車場の整備や、駐車料金の割引サービスなどの仕組みづくり、公共交通の利便性向上が必要

【中心市街地の居住における課題】

- 居住ニーズ
中心市街地での居住意向については、「中心市街地に住み替えを考えている」、「子どもが独立したら、住みたい」、「高齢になったときに住みたい」、「家賃や分譲価格の条件があれば住みたい」の合計が約37%と比較的高く、情報提供や住宅取得の支援等の新たな取組が必要
- 居住してもらうために充実すべき施設
「食料品スーパーなどの日常買い物施設」「病院・診療所など医療施設」「保育所など子どもの預かり施設」の日常生活に密着した施設の整備が必要
- 居住を進めるために必要な取組
空き家・新築等の住宅情報の提供や住宅の購入・改築の支援が必要

(2) 観光客アンケート

■調査目的

第3期高松市中心市街地活性化基本計画の策定に当たり、主要観光施設である栗林公園の利用者に対し、利用状況、利用目的、利用促進に必要な取組などのニーズを把握するため、アンケートを実施しました。

【調査概要】

調査手法	聞き取り方式（ヒアリング）
調査日	平成30年7月28日（土）9時～17時
調査地点	栗林公園の東門及び栗林庵の2か所
調査対象	栗林公園の利用者
調査主体	高松市 市民政策局 コンパクト・エコシティ推進部 住宅・まちづくり企画課
回答数	171票（日本人:124票、外国人:47票）

■観光客アンケートの結果

観光客アンケートによる集計結果を以下に示します。

なお、端数処理等の関係で表記数値合計が100%にならない場合があります。

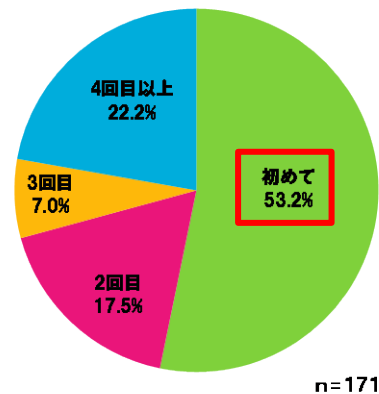
① 高松市への訪問

■訪問回数

・訪問回数は、【全体】53.2%、【国内】41.1%、【国外】85.1%と「初めて」が最も多くなっています。次いで【国内】では「4回目以上」が29.0%、【国外】では「2回目」が8.5%となっています。

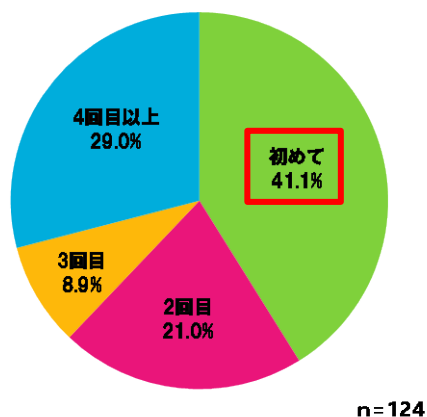
高松市を訪問するのは何回目ですか

【全体】



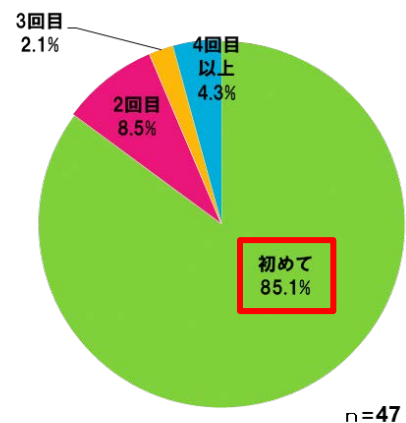
カテゴリ	件数
初めて	91
2回目	30
3回目	12
4回目以上	38
サンプル数	171

【国内】



カテゴリ	件数
初めて	51
2回目	26
3回目	11
4回目以上	36
サンプル数	124

【国外】



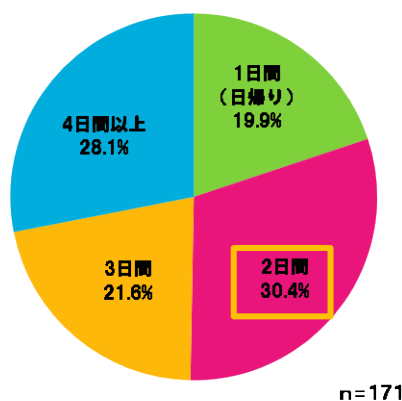
カテゴリ	件数
初めて	40
2回目	4
3回目	1
4回目以上	2
サンプル数	47

■旅行日数

・旅行日数は、【全体】30.4%、【国内】32.3%と「2日間」が、【国外】59.6%と「4日間以上」が最も多くなっています。次いで【全体】28.1%と「4日間以上」が、【国内】27.4%と「1日間（日帰り）」が、【国外】25.5%と「2日間」が多くなっています。

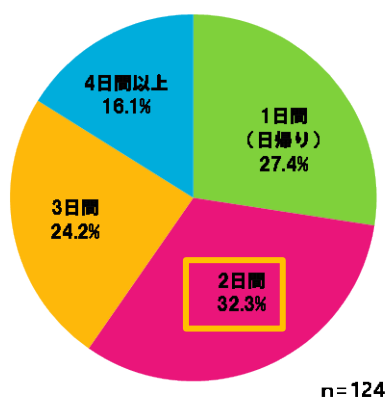
旅行の日数は何日間ですか

【全体】



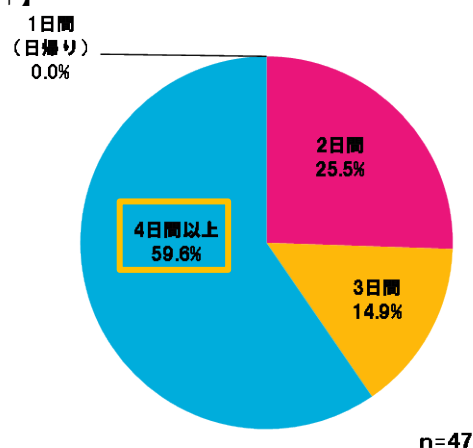
カテゴリ	件数
1日間(日帰り)	34
2日間	52
3日間	37
4日間以上	48
サンプル数	171

【国内】



カテゴリ	件数
1日間(日帰り)	34
2日間	40
3日間	30
4日間以上	20
サンプル数	124

【国外】



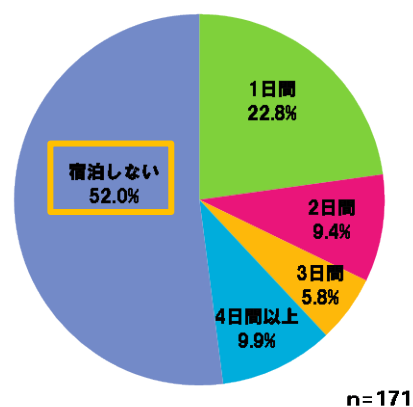
カテゴリ	件数
1日間(日帰り)	0
2日間	12
3日間	7
4日間以上	28
サンプル数	47

■高松市の宿泊日数

・宿泊日数は、【全体】52.0%【国内】60.5%【国外】29.8%で「宿泊しない」が最も多く、次いで【全体】22.8%【国内】21.0%【国外】27.7%と「1日間」が多くなっており、宿泊日数が少ない傾向が浮き彫りとなっています。

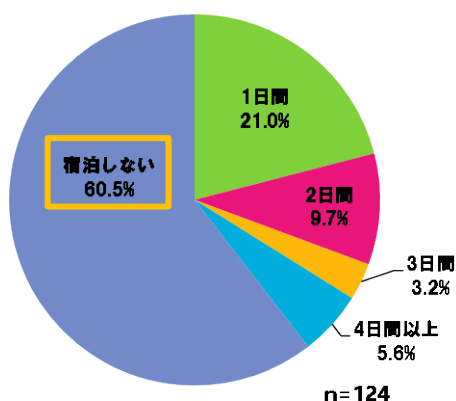
高松市での宿泊は何日間ですか

【全体】



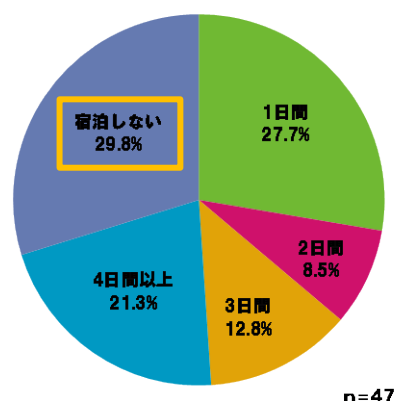
カテゴリ	件数
1日間	39
2日間	16
3日間	10
4日間以上	17
宿泊しない	89
サンプル数	171

【国内】



カテゴリ	件数
1日間	26
2日間	12
3日間	4
4日間以上	7
宿泊しない	75
サンプル数	124

【国外】



カテゴリ	件数
1日間	13
2日間	4
3日間	6
4日間以上	10
宿泊しない	14
サンプル数	47

■旅行目的

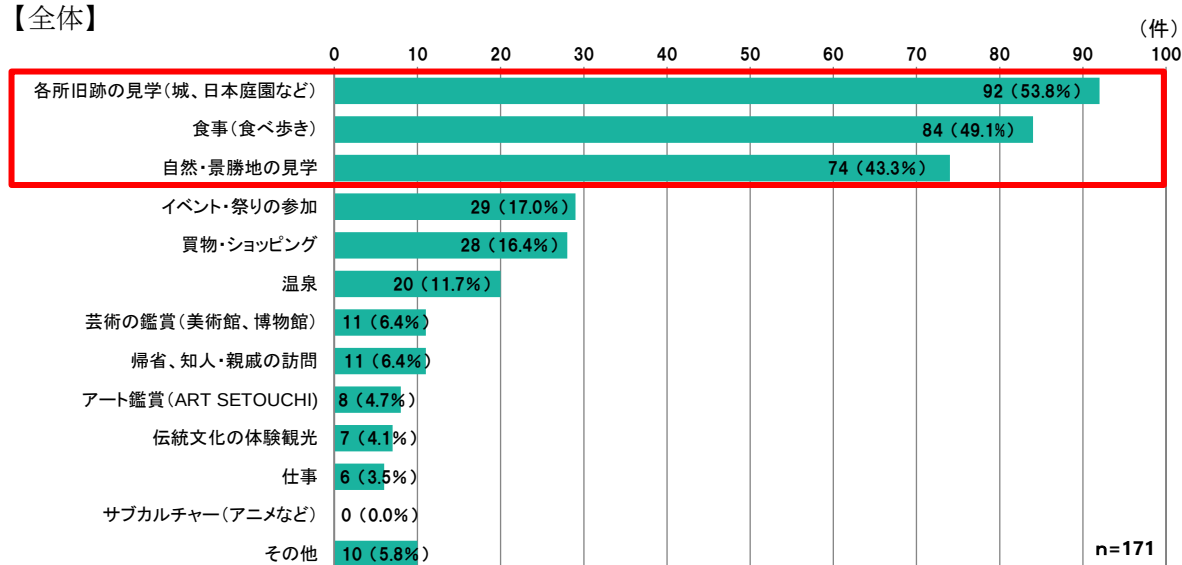
・旅行目的は、【全体】では、「各所旧跡の見学（城、日本庭園など）」と回答した人が 53.8%で最も多く、次いで「食事（食べ歩き）」が 49.1%、「自然・景勝地の見学」が 43.3%となっています。

・【国内】では、「食事（食べ歩き）」と回答した人が 51.6%で最も多く、次いで「各所旧跡の見学（城、日本庭園など）」が 42.7%、「自然・景勝地の見学」が 32.3%となっています。

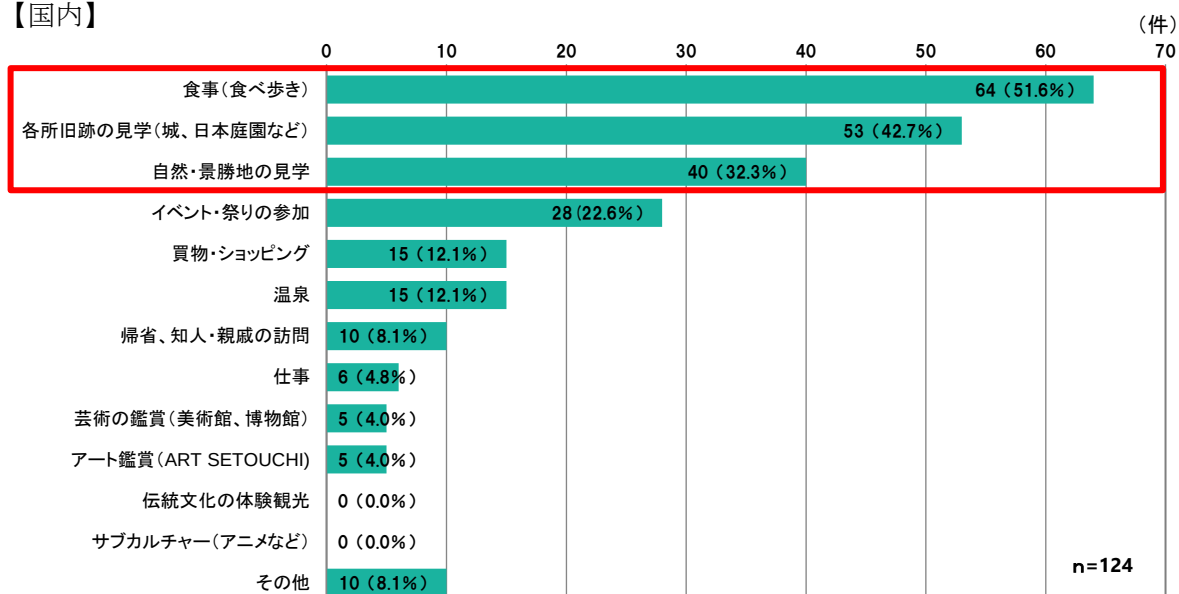
・【国外】では、「各所旧跡の見学（城、日本庭園など）」と回答した人が 83.0%で最も多く、次いで「自然・景勝地の見学」が 72.3%、「食事（食べ歩き）」が 42.6%となっています。

高松市での主な目的は、どのようなことですか（複数回答）

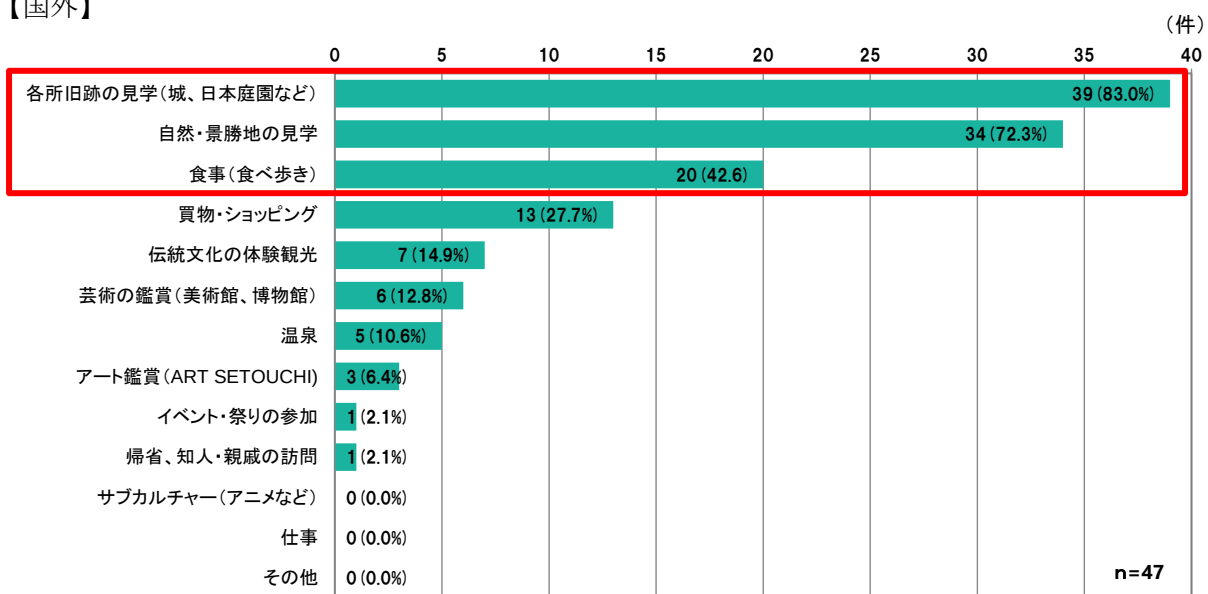
【全体】



【国内】



【国外】

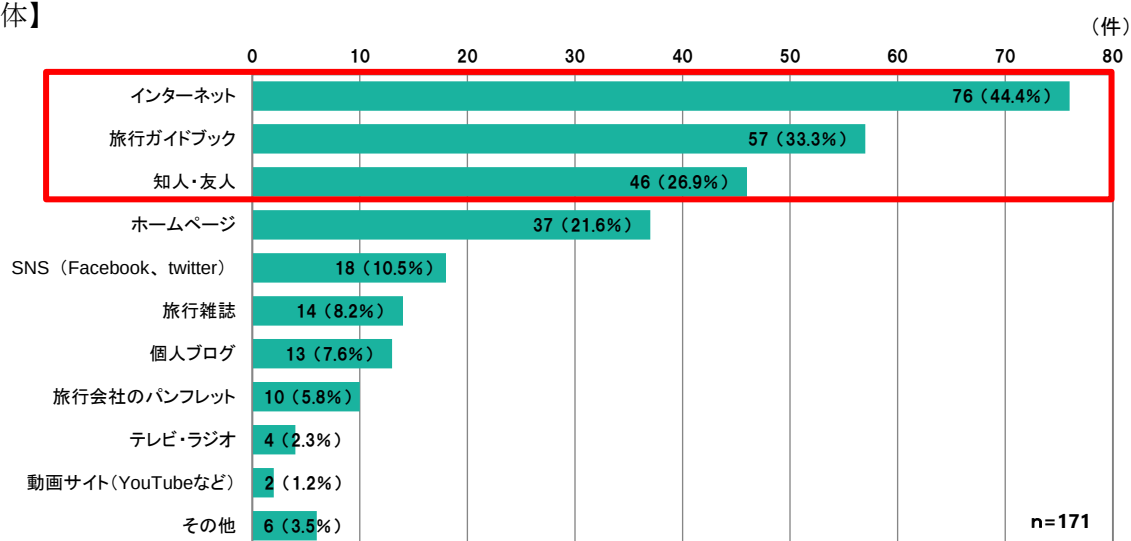


■旅行前の情報収集法

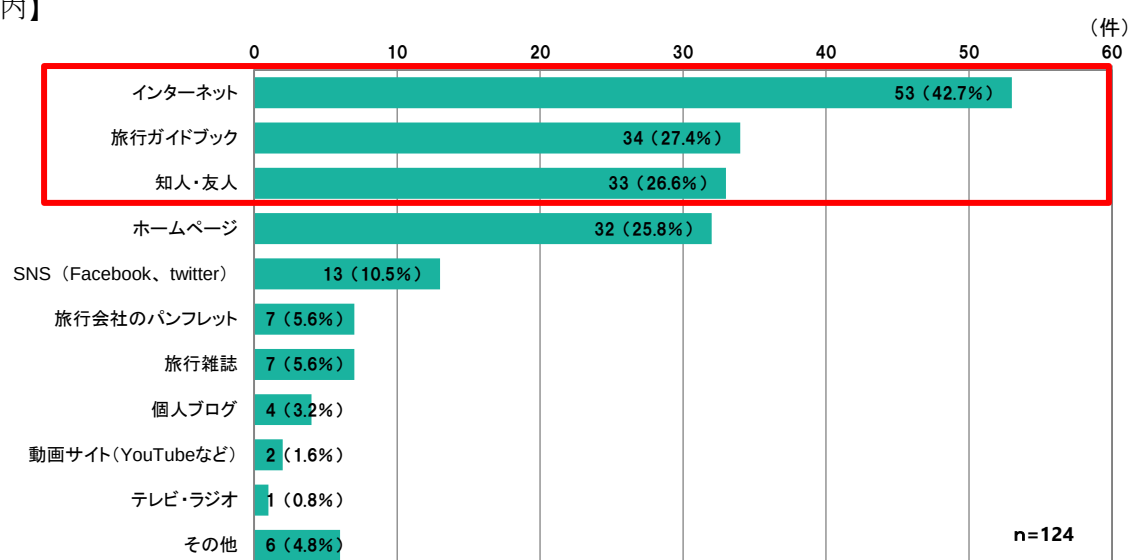
- ・旅行前の情報収集法については、【全体】では、「インターネット」と回答した人が44.4%で最も多く、次いで「旅行ガイドブック」が33.3%、「知人・友人」が26.9%となっています。
- ・【国内】では、【全体】と同様に「インターネット」が42.7%で最も多く、次いで「旅行ガイドブック」が27.4%、「知人・友人」が26.6%となっています。
- ・【国外】では、「旅行ガイドブック」「インターネット」と回答した人がそれぞれ48.9%と最も多く、次いで「知人・友人」が27.7%となっています。

旅行前に、どのような手段で訪問先の情報を知りましたか（複数回答）

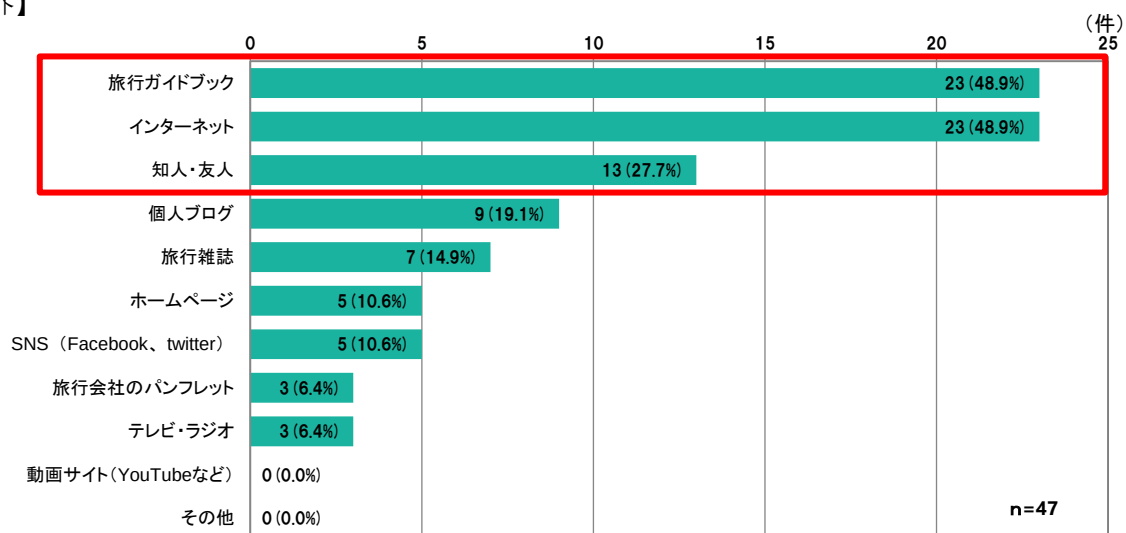
【全体】



【国内】



【国外】



■旅行中の情報収集法

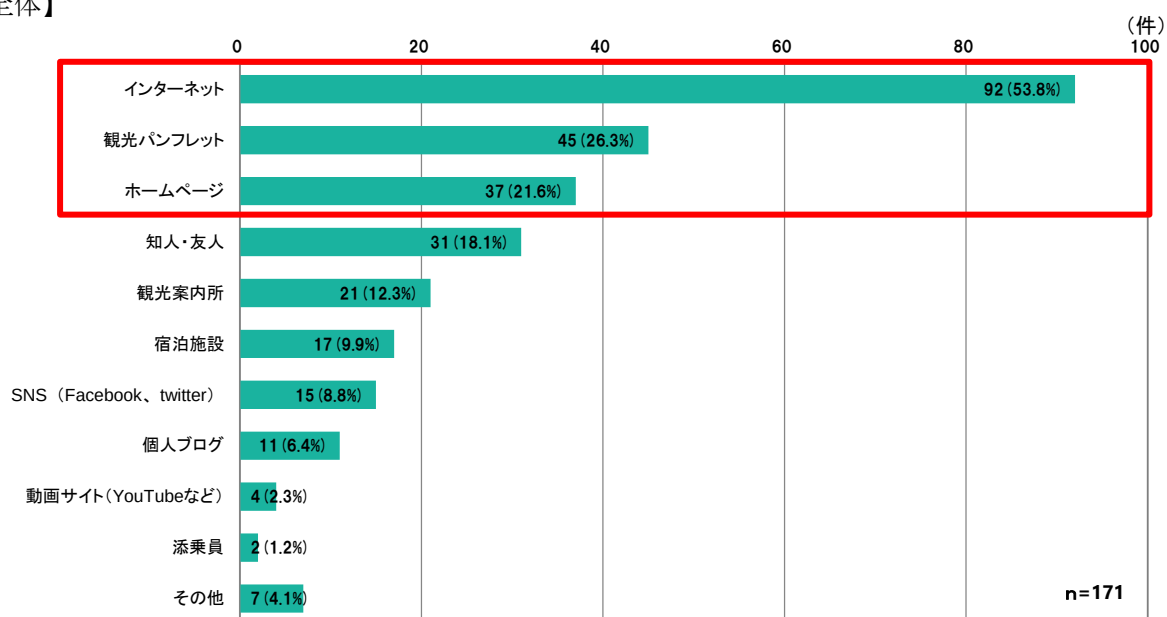
・旅行中の情報収集は、【全体】では、「インターネット」と回答した人が 53.8%で最も多く、次いで「観光パンフレット」が 26.3%、「ホームページ」が 21.6%となっています。

・【国内】では、「インターネット」と回答した人が 48.4%で最も多、次いで「ホームページ」が 25.8%、「観光パンフレット」が 25.0%となっています。

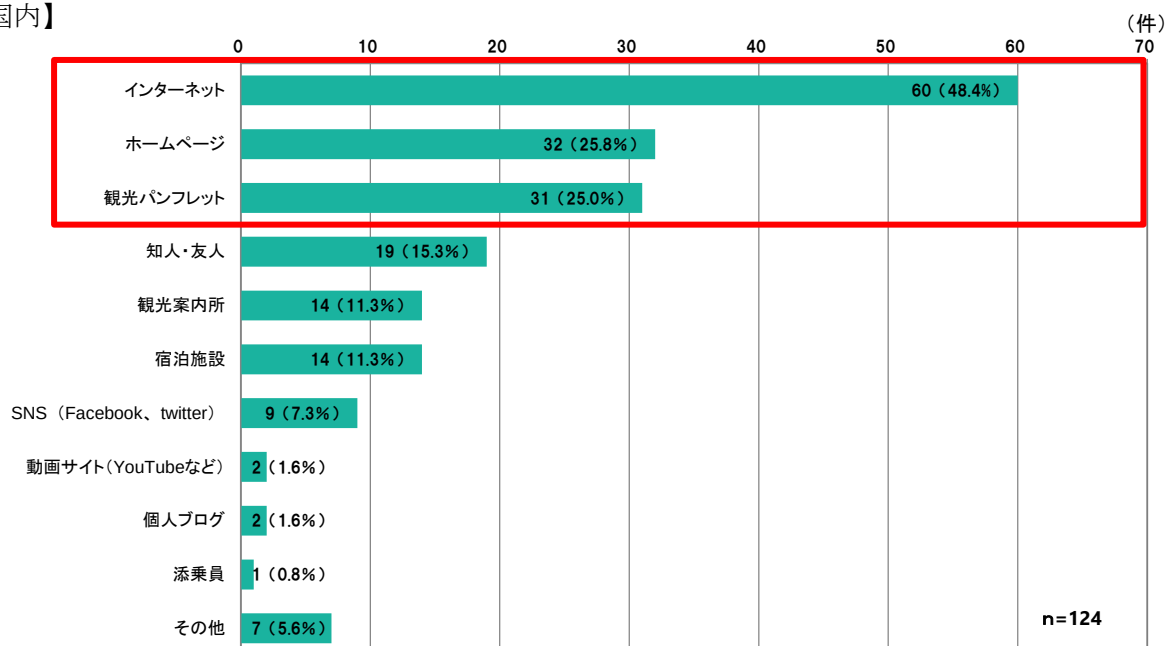
・【国外】では、「インターネット」と回答した人が 68.1%で最も多く、次いで「観光パンフレット」が 29.8%、「知人・友人」が 25.5%となっています。

旅行中に、どのような手段で情報を知りましたか（複数回答）

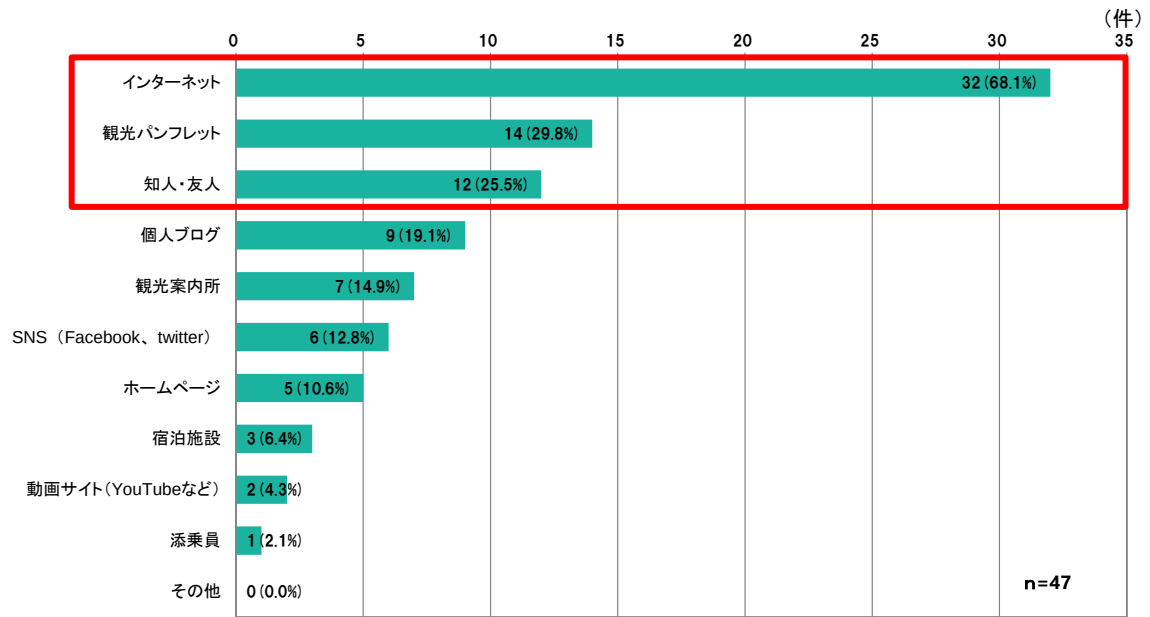
【全体】



【国内】



【国外】



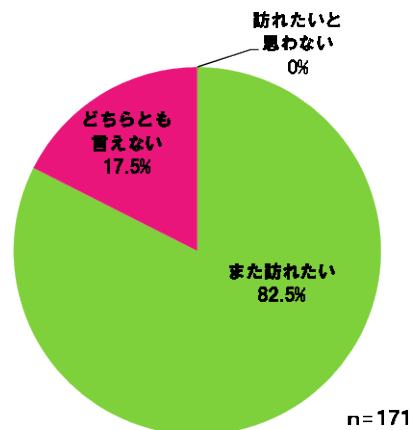
② 高松市の評価と改善点

■再訪問意向

・再訪問意向は、【全体】82.5%、【国内】85.5%、【国外】74.5%と「また訪れたい」が最も多く、「訪れたいと思わない」は0%となっています。

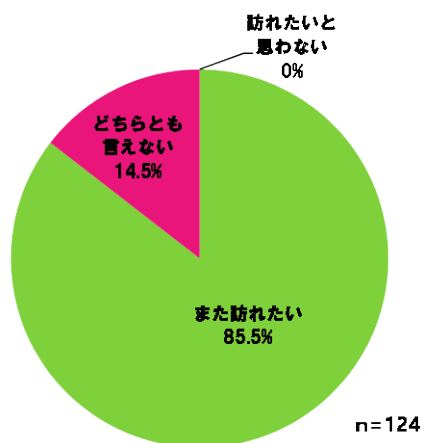
高松市をまた訪れたいと思いますか

【全体】



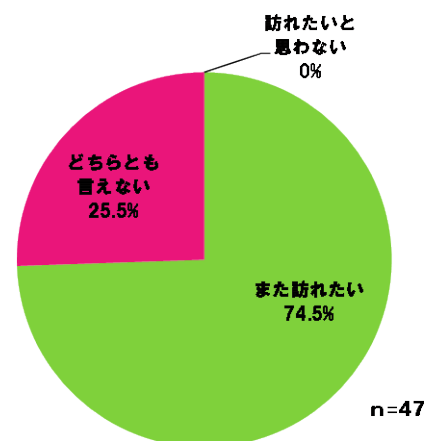
カテゴリ	件数
また訪れたい	141
どちらとも言えない	30
訪れたいと思わない	0
サンプル数	171

【国内】



カテゴリ	件数
また訪れたい	106
どちらとも言えない	18
訪れたいと思わない	0
サンプル数	124

【国外】



カテゴリ	件数
また訪れたい	35
どちらとも言えない	12
訪れたいと思わない	0
サンプル数	47

■満足に感じた点

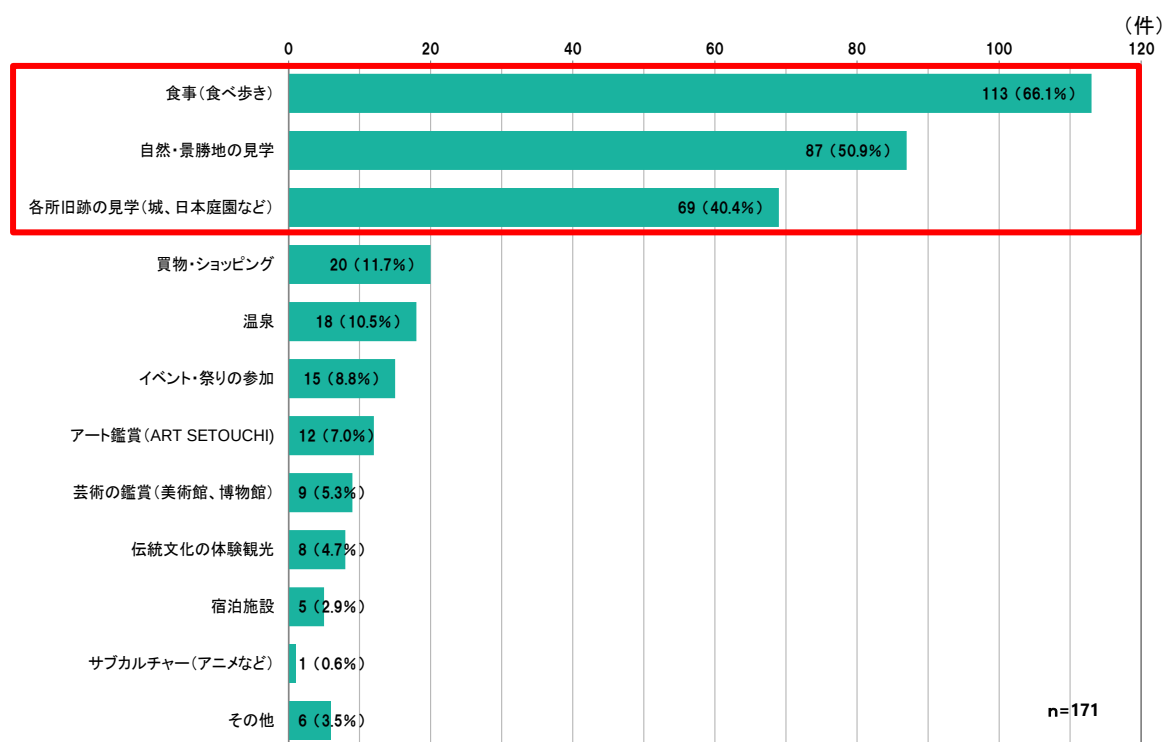
・高松市で満足に感じた点は、【全体】では、「食事（食べ歩き）」と回答した人が66.1%で最も多く、次いで「自然・景勝地の見学」が50.9%、「各所旧跡の見学（城、日本庭園）」が40.4%となっています。

・【国内】では、「食事（食べ歩き）」と回答した人が71.0%で最も多く、次いで「自然・景勝地の見学」が44.4%、「各所旧跡の見学（城、日本庭園）」が34.7%となっています。

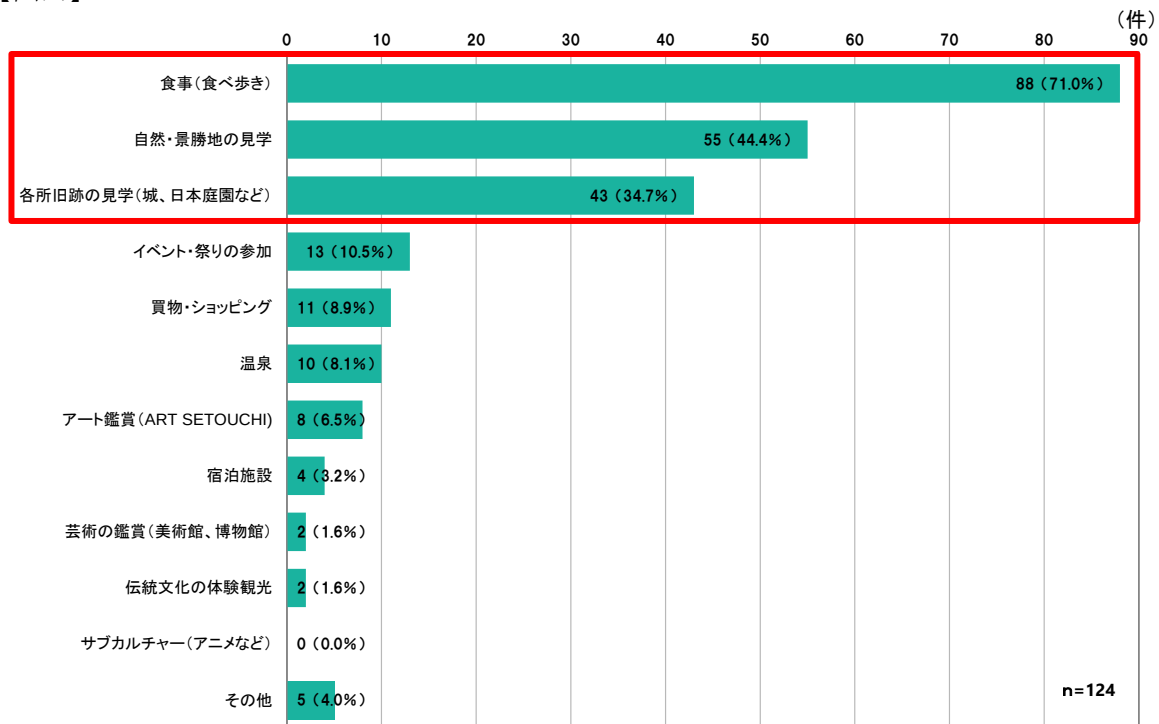
・【国外】では、「自然・景勝地の見学」と回答した人が68.1%で最も多く、次いで「各所旧跡の見学（城、日本庭園）」が55.3%、「食事（食べ歩き）」が53.2%となっています。

高松市で満足に感じた点は、どんなことですか（複数回答）

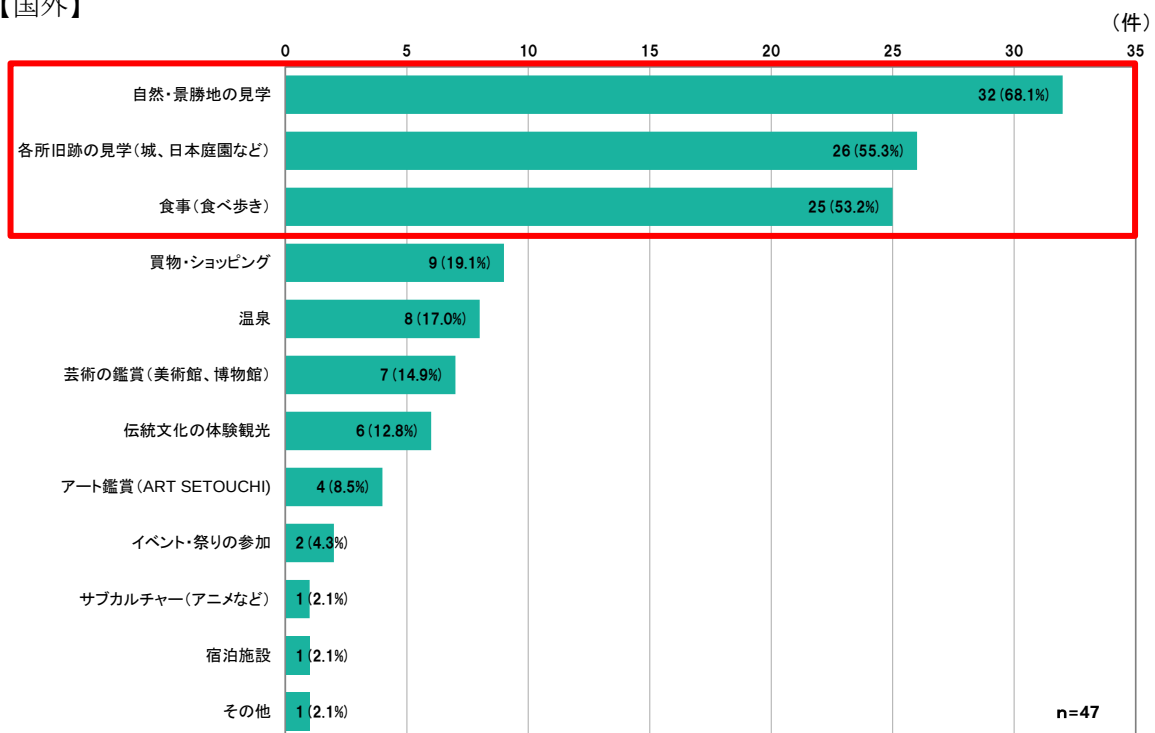
【全体】



【国内】



【国外】



■不満に感じた点

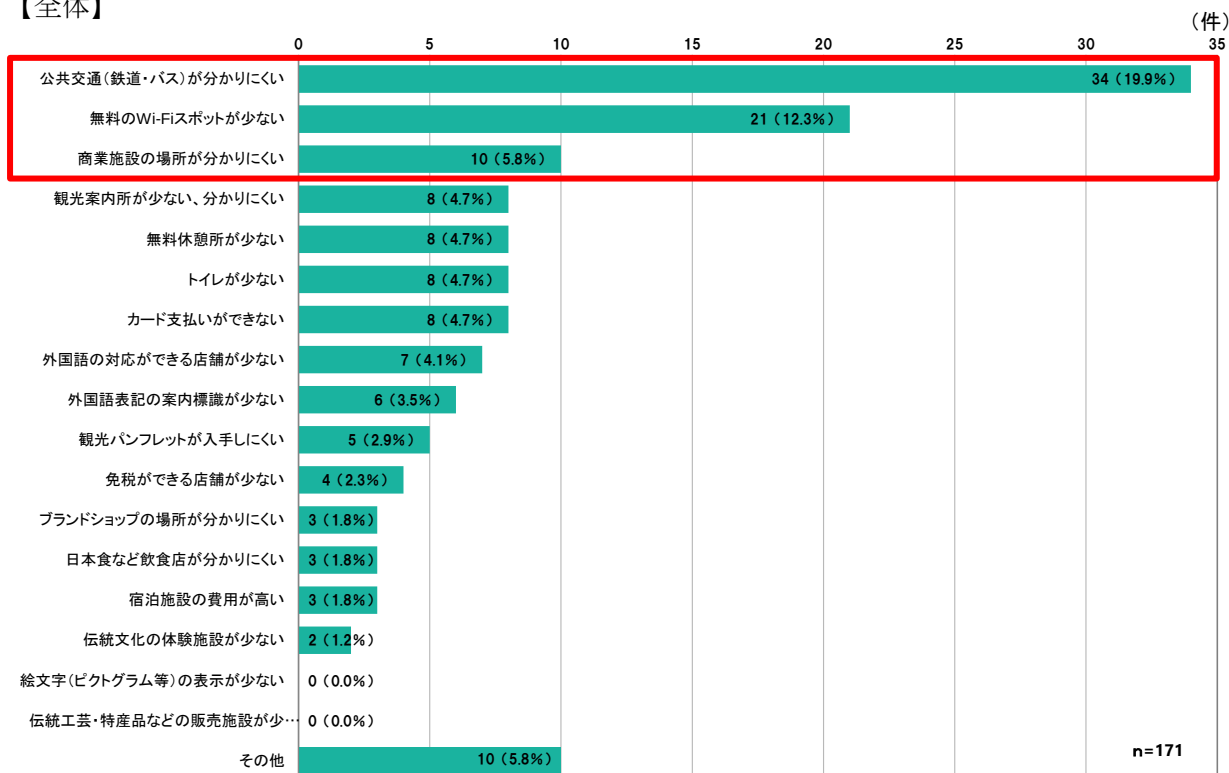
・高松市で不満に感じた点は、【全体】では、「公共交通（鉄道・バス）が分かりにくい」と回答した人が 19.9%で最も多く、次いで「無料のWi-Fi スポットが少ない」が 12.3%、「商業施設の場所が分かりにくい」が 5.8%となっています。

・【国内】では、「公共交通（鉄道・バス）が分かりにくい」と回答した人が 19.4%と最も多く、次いで「商業施設の場所が分かりにくい」が 7.3%、「観光案内所が少ない、分かりにくい」と「無料のWi-Fi スポットが少ない」が 6.5%となっています。

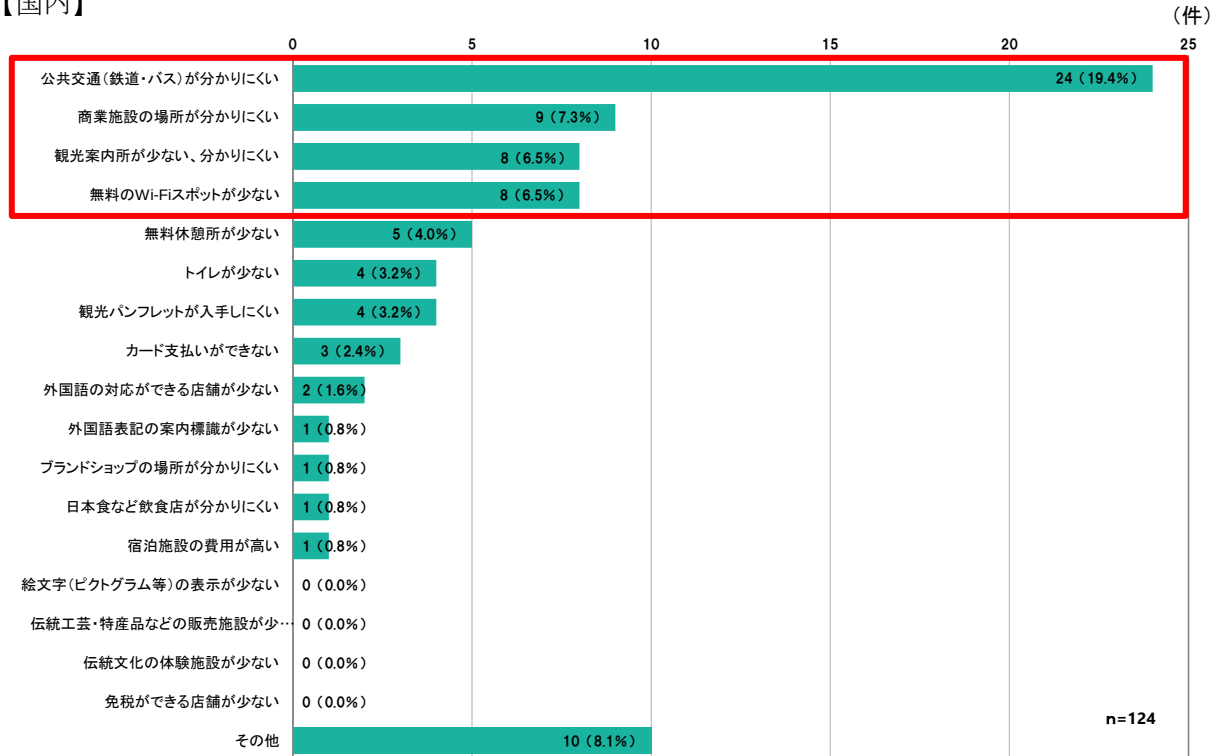
・【国外】では、「無料のWi-Fi スポットが少ない」と回答した人が 27.7%と最も多く、次いで「公共交通（鉄道・バス）が分かりにくい」が 21.3%、「外国語表記の案内標識が少ない」「外国語の対応ができる店舗が少ない」「カード支払いができない」がそれぞれ 10.6%となっています。

高松市で不満に感じた点は、どんなことですか（複数回答）

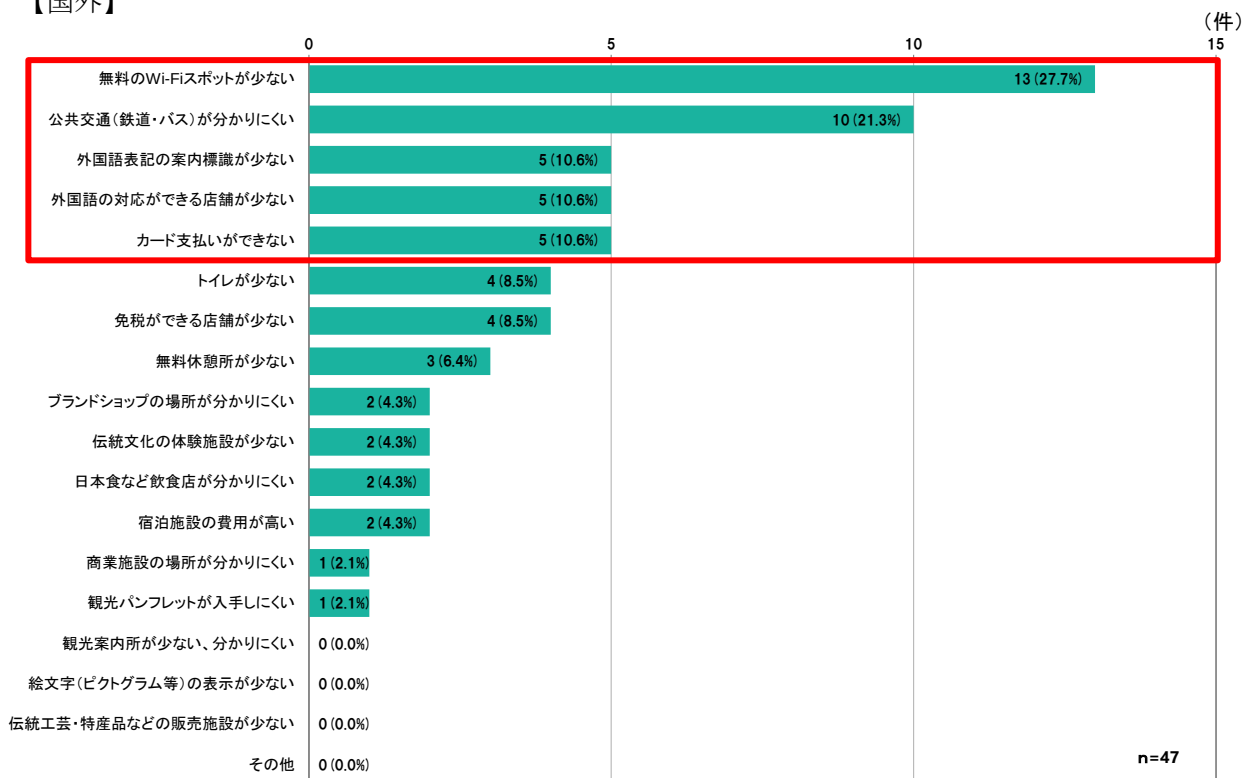
【全体】



【国内】



【国外】



③ 高松市の観光の取組課題

■訪問してもらうための取組

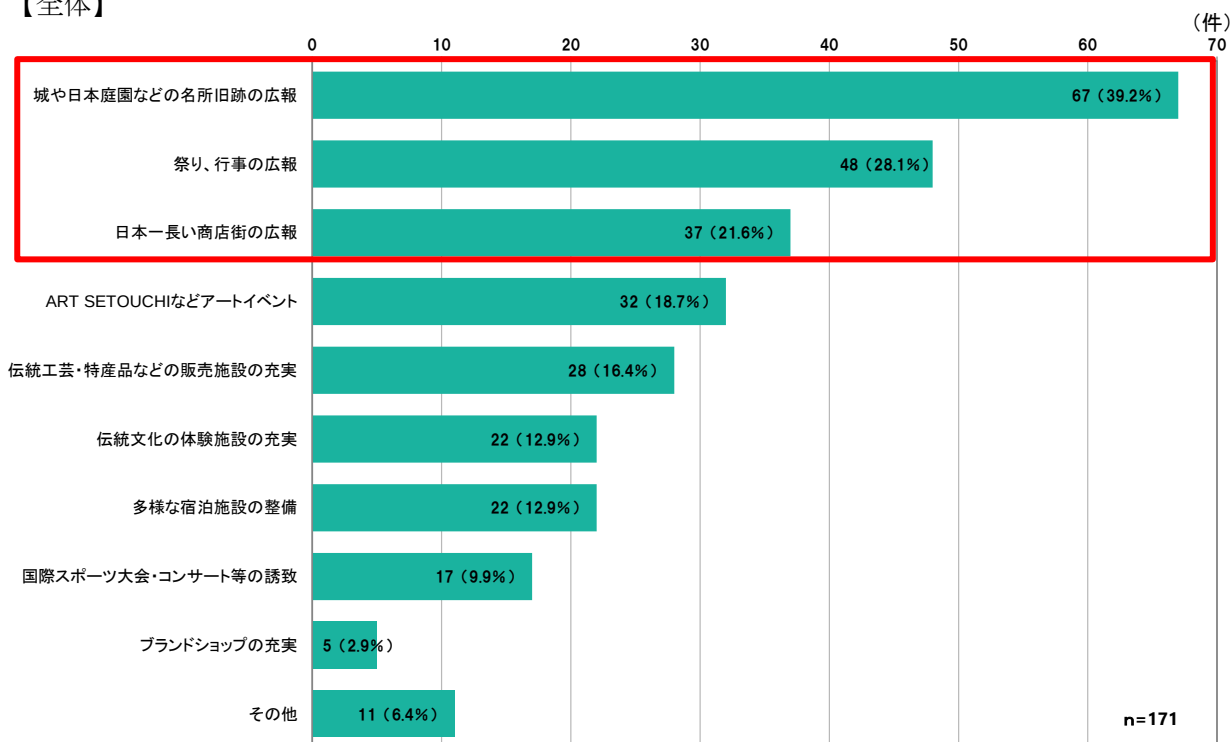
・高松市を訪問してもらうための取組は、【全体】では、「城や日本庭園などの名所旧跡の広報」と回答した人が39.2%と最も多く、次いで「祭り、行事の広報」が28.1%、「日本一長い商店街の広報」が21.6%となっています。

・【国内】では、【全体】と同様に、「城や日本庭園などの名所旧跡の広報」と回答した人が37.9%と最も多く、次いで「祭り、行事の広報」が25.0%、「日本一長い商店街の広報」が22.6%となっています。

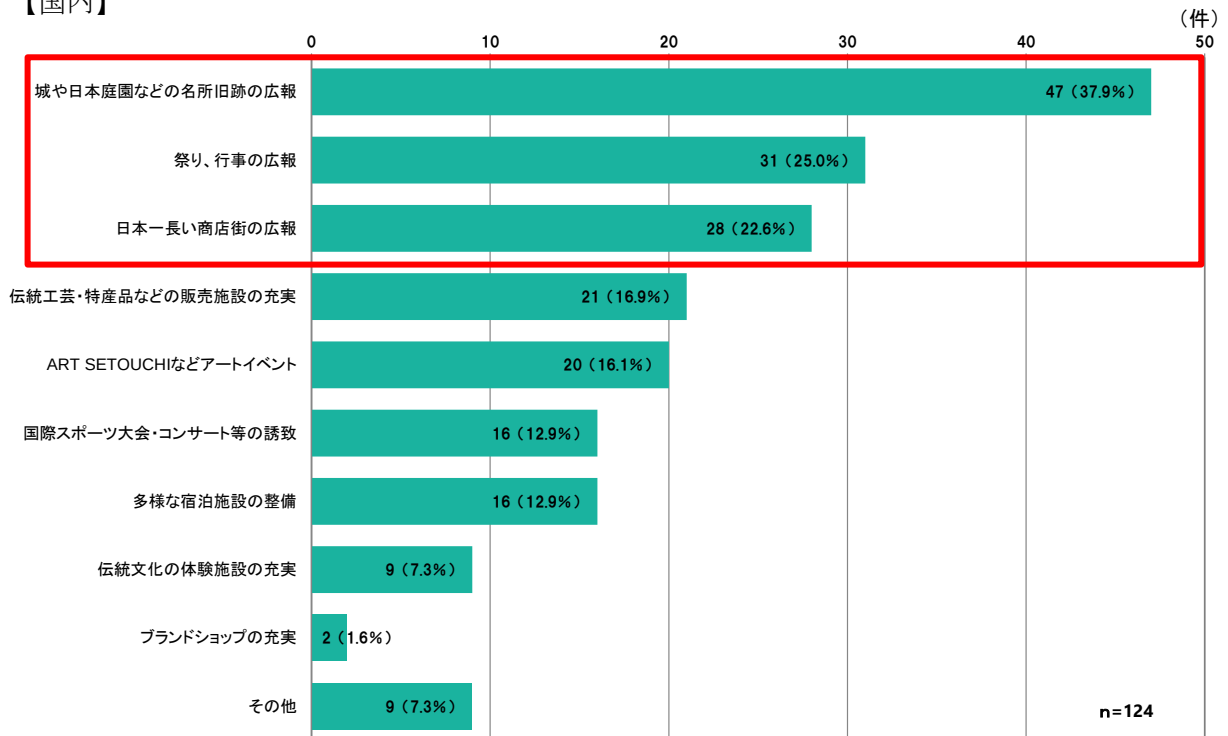
・【国外】では、「城や日本庭園などの名所旧跡の広報」と回答した人が42.6%と最も多く、次いで「祭り、行事の広報」が36.2%、「ART SETOUCHI などアートイベント」が27.7%となっています。

高松市を訪れてもらうために、どのような取組が重要と思いますか（複数回答）

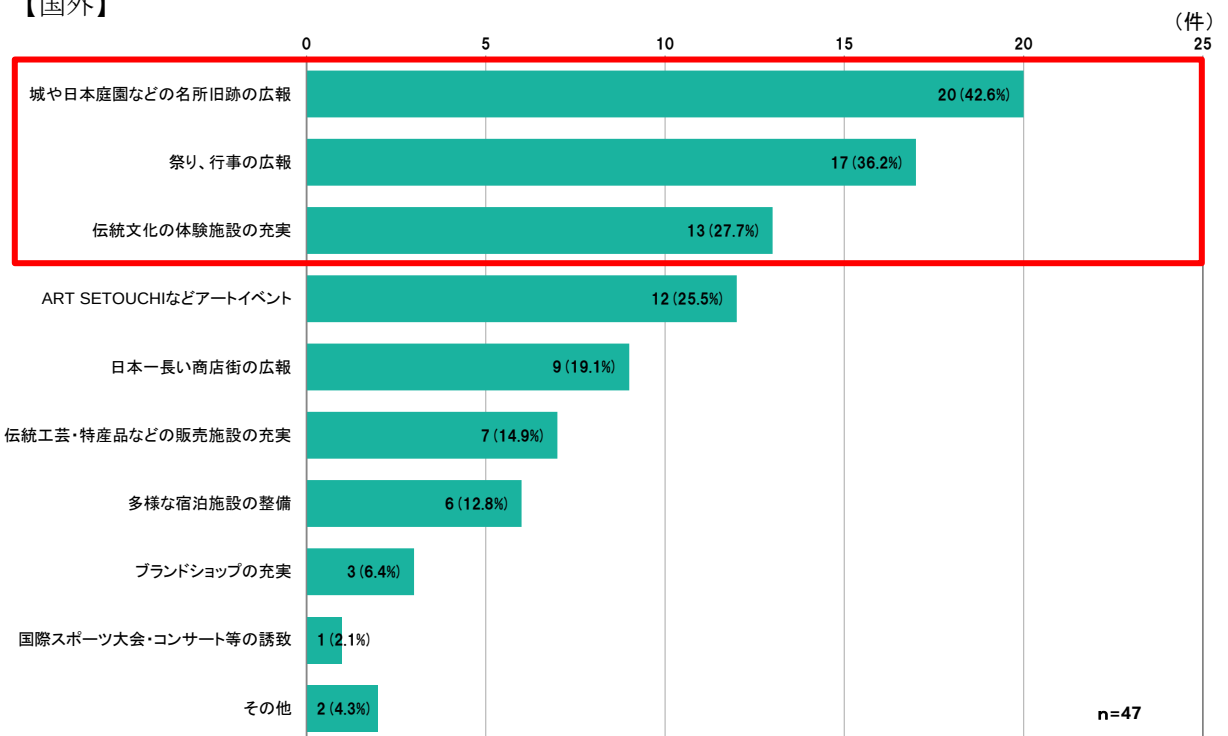
【全体】



【国内】



【国外】



■訪問した際に満足度を向上させるために重要なこと

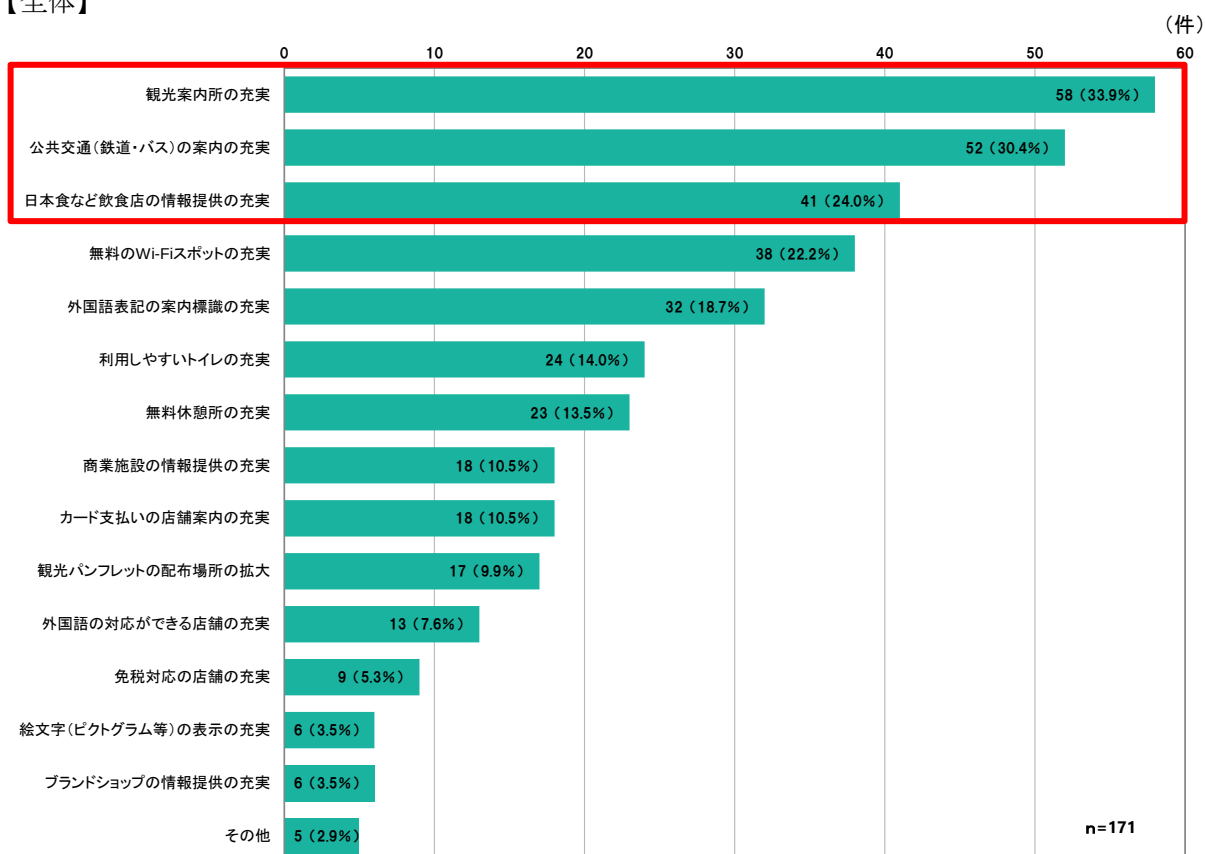
・高松市を訪問した際に満足度を向上させるために重要なことは【全体】では、「観光案内所の充実」と回答した人が33.9%と最も多く、次いで「公共交通（鉄道・バス）の案内の充実」が30.4%、「日本食など飲食店の情報提供の充実」が24.0%となっています。

・【国内】では、【全体】と同様に、「観光案内所の充実」と回答した人が39.5%と最も多く、次いで「公共交通（鉄道・バス）の案内の充実」が29.0%、「日本食など飲食店の情報提供の充実」が23.4%となっています。

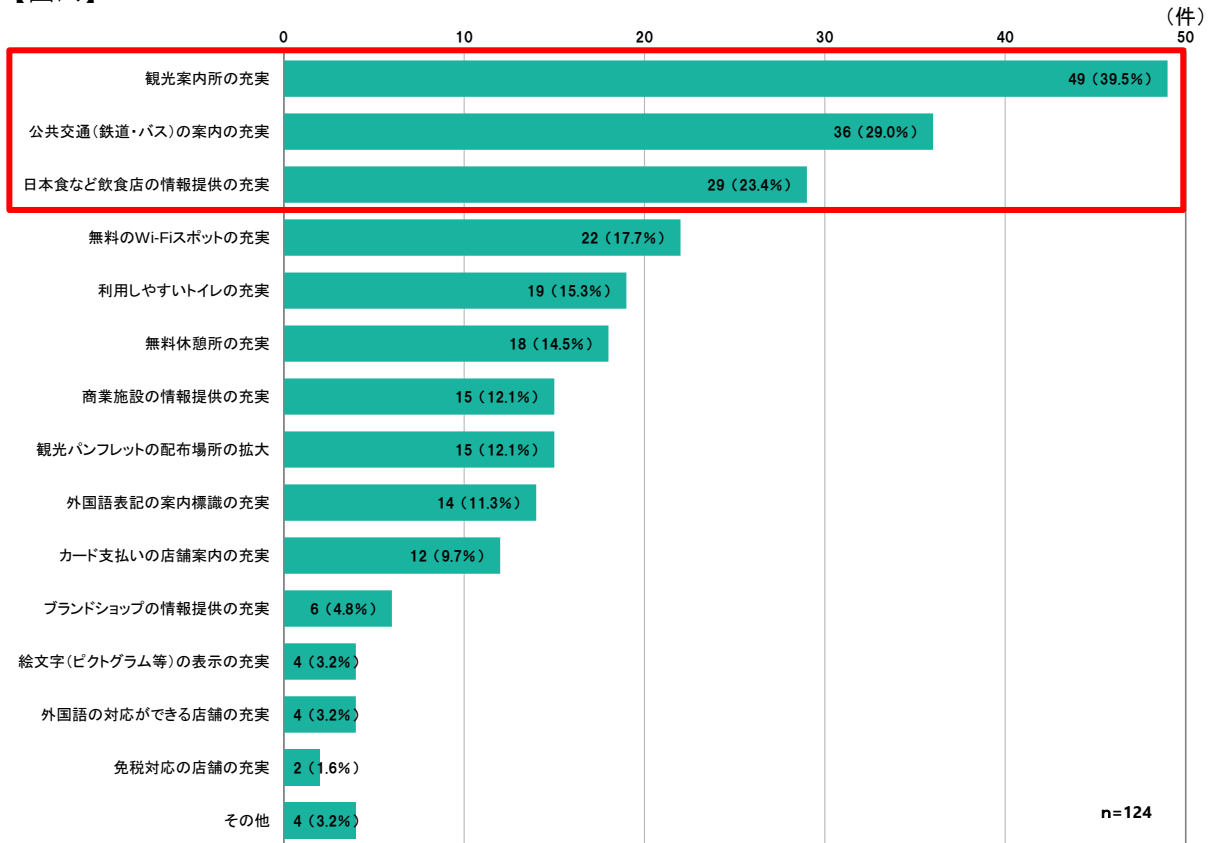
・【国外】では、「外国語表記の案内標識の充実」と回答したい人が38.3%と最も多く、次いで「公共交通（鉄道・バス）の案内の充実」と「無料のWi-Fiスポットの充実」が34.0%と同程度となっています。

高松市を訪れた際の満足度を高めるため、どのようなことが重要だと思いますか（複数回答）

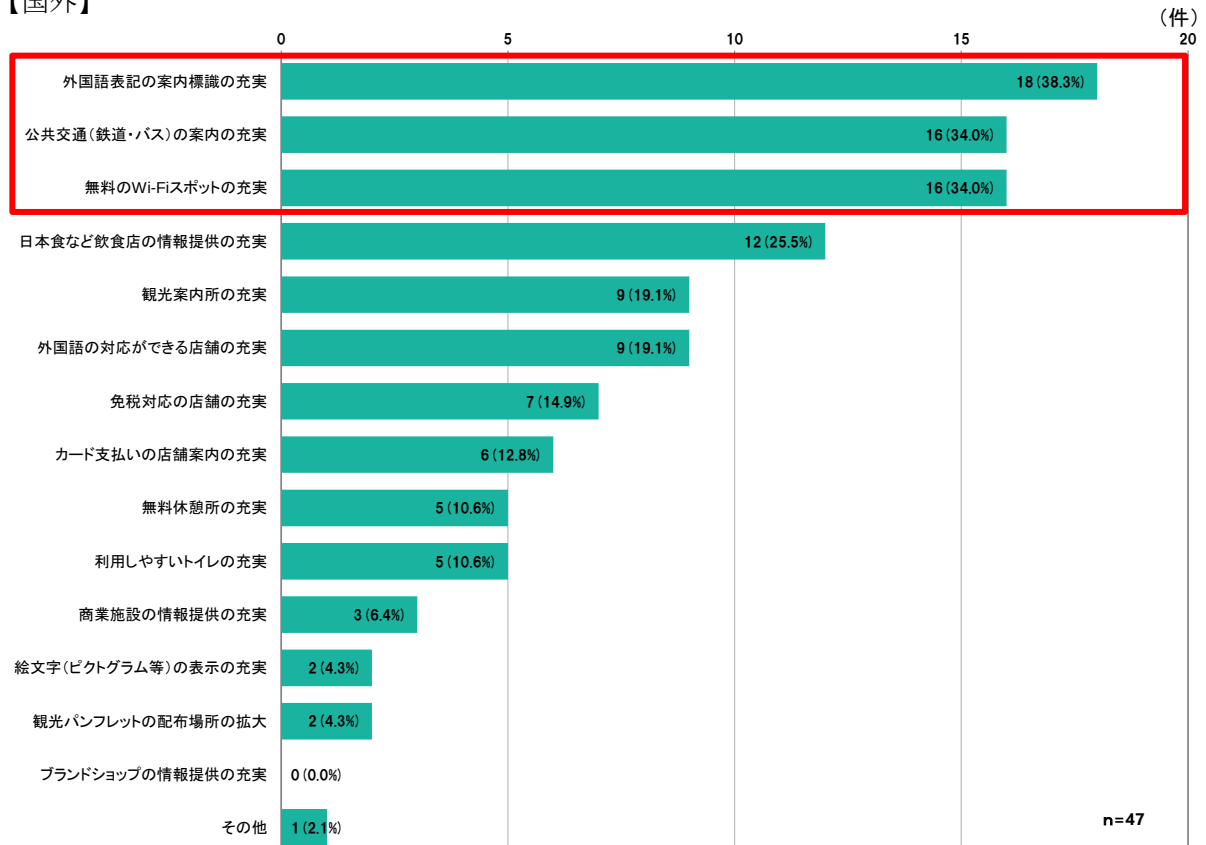
【全体】



【国内】



【国外】



④ 観光客アンケートから導き出される課題

【高松市への訪問における課題】

- ・訪問回数は、国内外問わず「初めて」が最も多いため、観光地や商店街、宿泊施設などの観光案内サービスについて継続的な情報発信が必要
- ・旅行日数は「2日間以上」が多く、滞在型観光となっている一方で、高松市での宿泊日数は少ない傾向にあるため、宿泊機能等の強化が必要
- ・旅行目的は「食事（食べ歩き）」「自然・景勝地の見学」「各所旧跡の見学（城、日本庭園など）」が突出しているため、「食事（食べ歩き）」「自然・景勝地の見学」「各所旧跡の見学（城、日本庭園など）」の魅力強化が必要
- ・情報収集法として、国内外問わず「インターネット」が最も多く利用されているため、「無料のWi-Fiスポットの充実」を含めたインターネット利用環境の整備が必要

【高松市の観光における課題】

■観光客に訪問してもらうために必要な取組

- ・「城や日本庭園などの名所旧跡の広報」「祭り、行事の広報」「日本一長い商店街の広報」「日本食など飲食店の情報提供の充実」など情報提供の充実が必要
- ・国外向けでは「伝統文化の体験施設の充実」が必要

■観光客に訪問してもらうために必要な施設

- ・「観光案内所」「公共交通(鉄道・バス)の案内」「外国語表記の案内標識」「無料Wi-Fiスポットの充実」などの受入環境の充実が必要

[4] 旧中心市街地活性化基本計画（第2期計画）の検証

(1) 旧基本計画（第2期計画）の概要

第2期高松市中心市街地活性化基本計画（以下「第2期計画」という。）の概要は、以下のとおりです。

【計画期間】平成25年6月～平成30年3月（4年10月）

【区域面積】250ha

【コンセプト】にぎわい・回遊性・豊かな暮らしのあるまちを目指して

【活性化の目標】 **目標1** 商店街独自の魅力あるサービスを創出する

目標2 まちのあちこちで歩いている人を増やす

目標3 中心市街地に、より住みやすい環境をつくる

【数値指標】

目標	数値指標	現状値	目標値(H29)
商店街独自の魅力あるサービスを創出する	中央商店街の空き店舗率 (全フロア)	16.6% (H24.6)	14.9%
まちのあちこちで歩いている人を増やす	中央商店街の歩行者通行量	131,878人 (H24)	141,000人
中心市街地に、より住みやすい環境をつくる	市全体の人口に対する 中心市街地の居住人口の割合	4.8% (H24.10)	5.1%

(2) 旧基本計画（第2期計画）の事業の進捗状況

平成25年6月に策定された第2期計画で位置づけられた事業及び現時点における進捗状況等を以下に整理します。

■市街地の整備改善（第4章）

事業名	事業内容	状況
高松海岸線街路事業	高松海岸線の整備、長さ=646m 幅=30～32m 6車線、歩車道分離、段差解消、電線類地中化	未完了
玉藻公園整備事業	玉藻公園（南工区）用地取得、史跡高松城跡と一体となる都市公園の整備	未完了
水循環創造事業 （水循環再生型） 再生水利用下水道事業	中心市街地の再生水供給区域内における再生水管の布設及び供給	未完了
歩行者空間整備事業	JR 高松駅と中央商店街を最短で連絡する市道西の丸町兵庫町線の歩行者空間の改善 長さ200m・幅=6.0m 電線類地中化	完了

事業名	事業内容	状況
高松駅南交通広場整備事業	高松駅南線における交通広場の整備、延長：250m、幅員：16～20m、車線数：2車線、面積：4,600 m ²	完了
高松港港湾環境整備事業（玉藻地区）	緑地設計一式、緑地一部施工一式	未完了
高松城跡整備事業	史跡高松城跡保存整備基本計画による石垣や披雲閣など各施設の保存修理、高松城跡整備事業（桜御門の復元整備、地久櫓台石垣の保存修理）、高松城天守復元整備事業（天守台石垣の保存整備）	未完了
高松丸亀町商店街回遊性向上事業	丸亀町商店街C街区再開発ビルの3階部分に渡り廊下を設置	未完了 (未着手)
バリアフリー歩行空間ネットワーク整備事業	①瓦町松島線：施行延長L=120m（歩道段差・傾斜の改善、透水性舗装、視覚障害者用誘導ブロックの設置） ②高松海岸線：施行延長L=100m（歩道段差・傾斜の改善、透水性舗装、視覚障害者用誘導ブロックの設置） ③その他路線：視覚障害者用誘導ブロックの設置（魚屋町栗林線等）	未完了
高松市総合設計制度運用基準	中央通りを中心とした市街地の建築計画で、国の基準以上の公開空地を確保することにより、国の示す緩和を最大限活用	実施中
駐車場附置義務の緩和	駐車場整備地区内の一定規模を超える建築物を新築、増築又は用途変更する場合に、自動車駐車施設の附置に関する規定を緩和	実施中

■都市福利施設の整備（第5章）

事業名	事業内容	状況
高松市生涯学習センター運営事業	大学等との連携による各種専門講座や、市民と行政との協働によるまちづくりに基づく公募型自主企画講座等を開催し、市民の学習機会の提供とリカレント（循環）教育を推進	実施中
高松市美術館教育普及事業	ワークショップ（美術講座）、子どものアトリエ（小中学生対象の制作講座）、アートで遊ぼう（小学生対象の美術鑑賞講座）の実施	実施中
高松市美術館展覧会事業	特別展5展（年間180日前後）、常設展5期（年間280日前後）を開催	実施中
市民文化祭アーツフェスタたかまつ	市民自らが主体的に企画・実施するクラシックコンサート、茶会、和太鼓、民よう、演劇、ストリートダンス等の多彩な文化芸術イベント開催で、市民の文化芸術活動の発表と芸術に触れる機会づくり	実施中

事業名	事業内容	状況
サンポートホール 高松自主事業	コンサート等イベントの開催	実施中
新春子ども フェスティバル	各校区代表によるドッジボール大会、すもう大会、かるたとり大会ほか、親子で気軽に参加できる遊びの名人コーナーなどの開催	実施中
高松まちかど 漫遊帖事業	おもてなしの心で観光資源を紹介する「市民ツアープロデューサー」を核に、市民自らが飲食・見学・体験等、受け入れてくれる店舗・施設と協議を行うほか、ガイド内容、実施日、価格などを計画	実施中
まちなか パフォーマンス事業	サンポート高松及び高松丸亀町商店街ほかで、街クラシック i n 高松など、まちなかコンサートを実施	実施中
サンポート高松トライ アスロン大会事業	トライアスロン競技大会（スイム・バイク・ラン）の開催	実施中
ゆめづくり推進事業	各地域コミュニティ協議会から提出された地域課題の解決等に取り組む事業について、審査し、補助金を交付	完了
高松市協働企画提案 事業	高松市から提案するテーマ及び提案団体からの自由なテーマについて市民活動団体等からの提案を募集し、審査の上採択となった事業を委託事業又は補助事業として実施	実施中
高松市美術館催し物 事業	エントランス・ミニコンサート（年5回程度）、友の会ふれあいコンサート（友の会と共催、年2回程度）	実施中
地域子育て支援拠点 事業（一般型）	NPO法人、社会福祉法人、子育て支援団体、児童福祉施設、医療施設などにおいて、子育て親子の相互交流や子育てに関する相談指導のほか、身近な地域の子育て支援情報提供するとともに、子育て支援に関する講習の実施、子育てサークル及び子育てボランティアの育成・支援、地域の需要に応じた保育サービスの積極的実施	実施中
病児保育事業	当面病気の症状の急変が認められず、集団で保育すること等が困難な児童を、病院に付設された施設などで看護師や保育士が保護者に代わって保育	実施中
香川県県民ホール文化 事業	香川県県民ホールでの文化芸術事業（自主事業・共催事業）の開催	実施中
香川県立ミュージアム 文化事業	展示企画（特別展・常設展示（歴史・美術他））の開催、教育普及（講演会・歴史講座・美術講座・ワークショップ他）、調査・研究（資料調査・調査研究他）、資料の収集・保管、美術工芸振興事業、貸館事業	実施中
高松市美術館改修事業	劣化している施設・設備を改修、独立したミュージアムショップの整備やホール・ロビー等の活用方法などを検討	完了

■街なか居住の推進（第6章）

事業名	事業内容	状況
移住・交流促進事業	本市への移住を勧めるリーフレットやホームページ等を用いたPR活動や空き家バンク制度を活用した居住の確保を行うこと等により移住促進	実施中
ゆめづくり推進事業 〔再掲〕	各地域コミュニティ協議会から提出された地域課題の解決等に取り組む事業について、審査し、補助金を交付	完了
高松市協働企画提案事業〔再掲〕	高松市から提案するテーマ及び提案団体からの自由なテーマについて市民活動団体等からの提案を募集し、審査の上採択となった事業を委託事業又は補助事業として実施	実施中
高松中央商店街南部3町共同住宅供給事業	常磐町、南新町、田町の各商店街の空き店舗のうち、上層部分を活用し、共同住宅施設を設置	未完了 (未着手)
高松駅南交通広場整備事業〔再掲〕	高松駅南線における交通広場の整備、延長：250m、幅員：16～20m、車線数：2車線、面積：4,600㎡	完了
総合生鮮市場事業	商店街に生鮮市場を導入し、街なか居住者の日常の買い物等、快適な生活環境を確保	未完了
まちバス運行事業	サンポート高松と高松中央商店街を循環するバス運行を実施し、中心市街地内を訪れる人々の利用に供するもの	実施中
ロイヤルガーデン錦町一丁目 (分譲マンション)	住宅供給、敷地面積：901.39㎡ 施設規模：地上15階建（42戸）	完了
ロイヤルガーデン中央公園（分譲マンション）	住宅供給、敷地面積：1079.51㎡ 施設規模：地上15階建（56戸）	完了
アルファライフ中央通り（分譲マンション）	住宅供給、敷地面積：752.88㎡ 施設規模：地上10階建（45戸）	完了

■商業の活性化（第7章）

事業名	事業内容	状況
大規模小売店舗立地法の特例措置	大店立地法の手続きに関する不要化の措置	実施中
瓦町駅核化プロジェクト事業	駅ビル型複合商業施設の整備	完了
高松市中央商店街空き店舗活用事業	中央商店街のにぎわい向上、空き店舗率の改善のために空き店舗を利用した出店に要する経費を補助	実施中

事業名	事業内容	状況
中心市街地商店街活性化事業	商店街振興組合等が行う魅力ある商店街づくりに向けた事業に要する経費の一部を補助	実施中
創造支援センター事業	創造支援室を事務所その他の活動拠点として利用、入居希望者の審査、創造支援室を使用するものに対し、創業及び事業の経営に関する相談、情報提供その他の支援	実施中
商店街情報発信事業	①デザインコードに基づいた街路灯や休憩スペースの整備 ②リアルタイムな情報発信システムを整備し、情報発信機能を活かしたイベント実施	未完了
瓦町駅核化プロジェクト事業〔再掲〕	駅ビル型複合商業施設の整備	完了
食の連携産業の創造	食の連携産業を創造し、商店街が、生産者と市民を繋ぐために、空き店舗などを活用し、地産地消型のローカルフードレストランの設置、マネージメント、プロデュースを行うもの	未完了 (未着手)
総合生鮮市場事業〔再掲〕	商店街に生鮮市場を導入し、街なか居住者の日常の買い物等、快適な生活環境を確保	未完了
高松南部商店街活性化事業	田町（高齢者の安心・交流事業）、常磐町（子育てママサポート事業）、南新町（さぬきの「味」育成事業）、その他（デジタルサイネージ）	実施中
常磐町商店街アーケード整備事業	常磐町商店街におけるアーケード改修工業の実施 L=270m	完了
商店街共同施設整備事業	商店街が実施するアーケード・カラー舗装・立体駐車場等、一般公衆の利便を図るための共同施設の整備・修繕等	実施中
まちネコ倶楽部	商店街の店舗が実施するポイントシール事業	実施中
中央通りオフィス環境整備事業	壁面の後退、又はポケットパーク等の休憩施設の整備。OA環境の整備、施設環境の改善、駐輪場の増設など	完了

■公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進（第8章）

事業名	事業内容	状況
レンタサイクル事業	瓦町地下、高松駅前広場地下、栗林駅前、丸亀町、栗林公園駅前、片原町駅前、市役所の7か所に設置しているレンタサイクルポートで市民等に自転車を貸し出し、街なかの回遊の手段として利用に供するもの	実施中
カーフリーデー高松開催事業	都心部において道路を歩行者に開放することで、市民に車のない都市環境を体験してもらい、交通や環境、都市生活と車の使い方について考えてもらうイベントの開催	完了

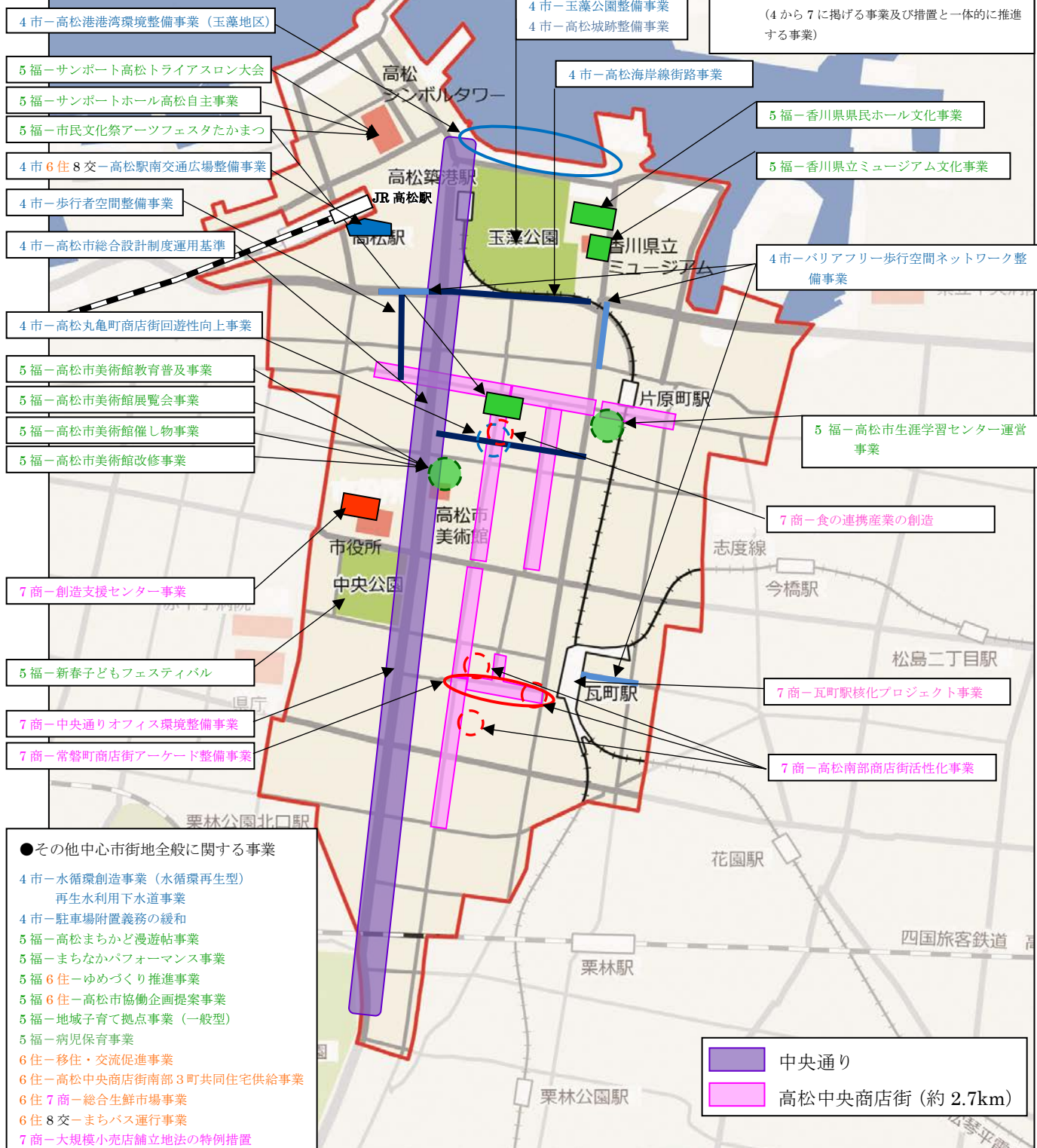
事業名	事業内容	状況
高松駅南交通広場整備事業〔再掲〕	高松駅南線における交通広場の整備、延長：250m、幅員：16～20m、車線数：2車線、面積：4,600 m ²	完了
まちバス運行事業〔再掲〕	サンポート高松と高松中央商店街を循環するバス運行を実施し、中心市街地内を訪れる人々の利用に供するもの	実施中
自転車等駐車場施設管理運営事業	商店街内に無料の自転車等駐車場を設置し、買い物客の利用に供するもの	実施中
有料自転車等駐車場管理事業	瓦町地下、高松駅前広場地下、栗林公園駅前の3か所に有料の自転車等駐車場を設置し、市民の利用に供するもの	実施中

◇ 4 から 8 までに掲げる事業及び措置の実施箇所



■事業区分凡例

- 4 市－市街地の整備改善のための事業
- 5 福－都市福祉施設を整備するための事業
- 6 住－居住環境の向上のための事業
- 7 商－商業の活性化のための事業
- 8 交－公共交通の利便増進事業
(4 から 7 に掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業)



(3) 第2期計画の検証

① 事業の進捗状況

全 51 事業における実施状況の内訳については、完了済みが 11 事業、実施中が 29 事業、未完了が 8 事業で、未着手が 3 事業となっています。

未着手となった事業は、全て民間主体の事業となっており、計画から事業着手に至るまでの様々な要因により、公共主体の事業に比べて事業の進捗が図られていない傾向にあります。

今後、民間主体の事業については、資金計画の見通しなど明らかにした上で、計画に反映していくことが求められます。

	事業数	完了	実施中	未完了	未着手
市街地の整備改善	11	2	2	6	1
都市福祉施設の整備	17	2	15	0	0
街なか居住の推進	7 (10)	3 (5)	2 (3)	1	1
商業の活性化	12 (14)	3 (4)	7	1 (2)	1
公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進	4 (6)	1 (2)	3 (4)	0	0
合計	51 (58)	11 (15)	29 (31)	8 (9)	3

※()は再掲を含む事業数

※実施中：ソフト事業で継続実施している事業

未完了：ハード整備事業で整備中もしくは整備が完了していない事業

② 目標指標の達成状況

第2期計画で掲げた目標指標「中央商店街の空き店舗率（全フロア）」、「中央商店街における歩行者通行量（休日）」、「市全体の人口に対する中心市街地の居住人口の割合」は、いずれも目標を達成することができませんでした。

表 目標指標の達成状況

目標	目標指標	基準値 (H24)	目標値 (H29)	実績値 (H29)	達成 状況
商店街独自の魅力あるサービスを創出する	中央商店街の空き店舗率（全フロア）	16.6%	14.9%	17.8%	c
まちのあちこちで歩いている人を増やす	中央商店街における歩行者通行量（休日）	131,878 人	141,000 人	118,567 人	C
中心市街地に、より住みやすい環境をつくる	市全体の人口に対する中心市街地の居住人口の割合	4.8%	5.1%	4.8%	c

※達成状況欄

A（計画した事業は概ね予定どおり進捗進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を越えることができた。）

a（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を越えることができた。）

B（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値に及ばず。）

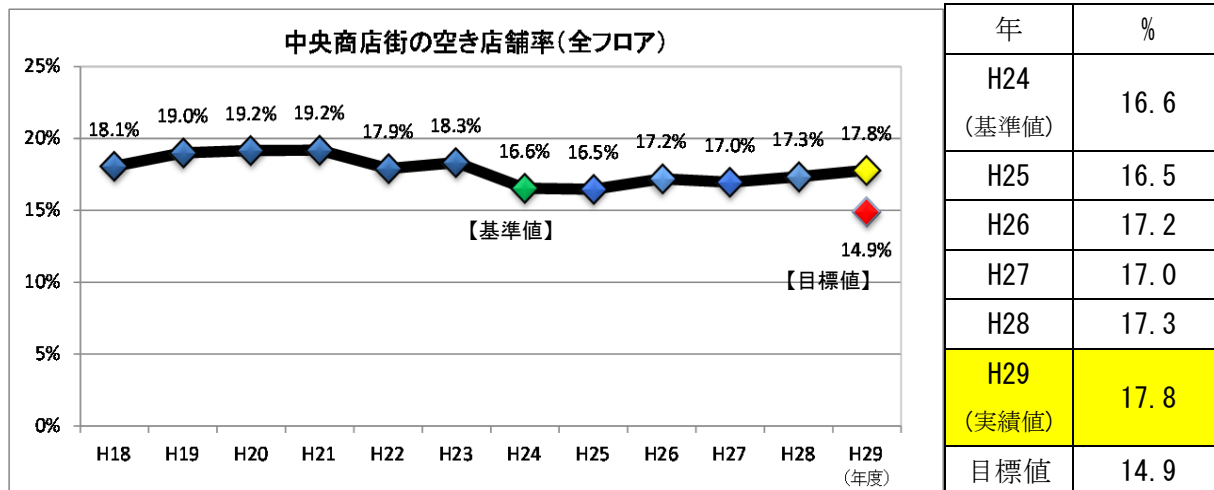
b（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。）

C（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値及び基準値にも及ばなかった。）

c（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値及び基準値にも及ばなかった。）

目標 1「商店街独自の魅力あるサービスを創出する」

■中央商店街の空き店舗率（全フロア）



（H24 は、6 月調査実績。H24 以外は、各年 6 月調査と 12 月調査の平均値）

※調査方法：年 2 回、中央商店街店舗立地動向調査を実施

※調査月：6 月、12 月（取りまとめは、7 月及び 1 月）

※調査主体：高松市・高松商工会議所

※調査対象：高松中央商店街を構成する 8 商店街振興組合

■目標達成の状況【c】

評価指標である中央商店街の空き店舗率の減少に向けては、南部地域での各種事業が想定より進捗しなかったことや、第 1 期計画で完了した丸亀町商店街の再開発事業効果が薄れてきたことなどにより、縮減には至りませんでした。また、当初は各種取組により 17 店舗の減少を目標として掲げていましたが、主要事業等の進捗が遅れたことにより、結果として目標達成には至りませんでした。

■目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（数値の状況）

事業名	事業実施状況	目標値	最新値
高松丸亀町商店街 回遊性向上事業	未着手	5 店舗の減少	空き店舗 8 店舗の増加 (対象：丸亀町) (総店舗数は 16 店舗増加、 営業店舗数は 8 店舗増加)
商店街情報発信事業	未完了		
高松南部商店街 活性化事業	実施中	12 店舗の減少	空き店舗 2 店舗の増加 (対象：南新町、常磐町、田町)

■目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

事業名	実施状況	事業効果
高松丸亀町 商店街回遊性 向上事業	再開発ビルに渡り廊下を整備することに対して、補助採択が受けられず、未着手となりました。	—
商店街情報 発信事業	デザインコードに基づいた街路灯や休憩スペースの整備、リアルタイムな情報発信システムを整備し、情報発信機能を活かしたイベントなどを実施しました。	イベント時に可動式デジタルサイネージによる情報掲示が行われていますが、常設の設置ができておらず、波及効果が限定的なため、空き店舗減少に至りませんでした。
高松南部商店街 活性化事業	南部3町商店街で「生活エリアと密着した魅力ある下町」をコンセプトに計画した4つの活性化事業のうち、デジタルサイネージ整備事業は、商店街のVRアプリ開発を行うなど商店街のリアルタイムな情報を発信しましたが、他の3つの事業が未着手となりました。	VRアプリ開発による情報発信が行われましたが、南部3町の地域性を活かした事業が未着手となったことで、商店街の新たな魅力を創出ができず、空き店舗減少に至りませんでした。

■今後について

目標達成に向けた主要事業が完了に至らなかったことなど、当初想定していた効果が現れませんでした。

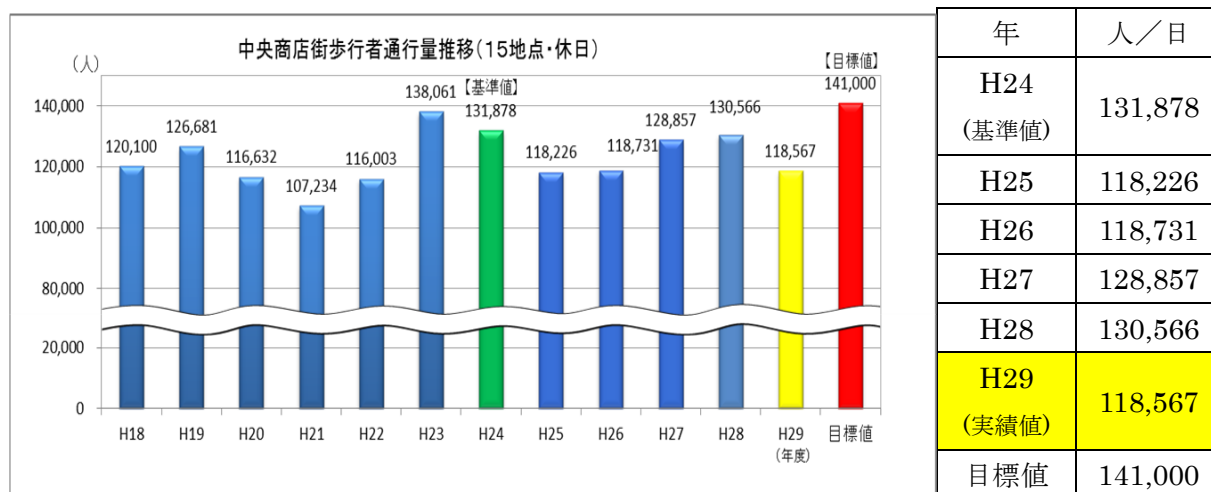
一方で、中央商店街へ新規出店する者に対して、直接改装費の一部を助成する補助制度の活用を促すなど、空き店舗減少に努めました。

今後とも、中心市街地の活性化に資するよう、商店街振興組合等との積極的な情報共有や事業進捗等を把握し、目標指標の測定を継続的に実施するなど適切な進行管理を行う必要があります。

中央商店街は、全体的には2核1モールの形態となっており、そのモールを形成する丸亀町商店街、南新町商店街、常磐町商店街の中で、常磐町商店街の空き店舗率が高い状況が続いています。また、常磐町商店街を含む南部3町での各種事業が停滞していることから、空き店舗の利活用など活性化に向けた取組を地域とともに促進していく必要があります。

目標２「まちのあちこちで歩いている人を増やす」

■中央商店街における歩行者通行量（休日）



※調査方法：中央商店街通行量調査を実施

※調査月：５月、１０月（取りまとめは、６月及び１１月）

※調査主体：高松市・高松商工会議所・高松中央商店街振興組合連合会

※調査対象：休日（１０時から１９時まで）の中央商店街１５地点の歩行者（自転車を含む）

■目標達成の状況【C】

評価指標である中央商店街における歩行者通行量の増加に向けては、歩行者空間整備やアーケード整備など環境改善の事業は完了したものの、商業機能を充実する事業が未着手となったことで、商店街の魅力向上が図れず、目標達成には至りませんでした。また、核事業である瓦町駅核化プロジェクト事業が、完了したことにより一時通行量の伸びは見られましたが、中心市街地全体としての継続した効果は得られませんでした。

■目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（数値の状況）

事業名	事業実施状況	目標値	最新値
歩行者空間整備事業	完了	240 人の増加	2,038 人の減少 (調査地点 A・B：H24-H29)
総合生鮮市場事業	未着手	1,600 人の増加	未実施のため増加通行量は見込まれない
商店街情報発信事業	未完了	目標設定なし	-
高松南部商店街活性化事業	実施中	3,900 人の増加 (空き店舗 17 店舗減少)	空き店舗が 2 店舗増加のため通行量の増加は見込まれない
常磐町商店街アーケード整備事業	完了	2,500 人の増加	499 人の減少 (調査地点 K・L：H24-H29)

事業名	事業実施状況	目標値	最新値
瓦街駅核化プロジェクト事業	完了	目標設定なし	-
居住人口の増加	完了：3事業 実施中：1事業 未着手：1事業	900人の増加 (人口442人増加)	人口20,671人→20,665人と微減となったため、通行量の増加は見込まれない

■目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

事業名	実施状況	事業効果
歩行者空間整備事業	J R 高松駅と中央商店街を連絡する市道西の丸町兵庫町線において、平成26年度までに電線共同溝の道路埋設工事、道路改良工事、照明工事等が竣工し、27年度には舗装工事を施工したことで、事業が完了しました。	J R 高松駅から中央商店街への快適な歩行者動線が確保されましたが、中心市街地の来街者の回遊性への効果が見られず、通行量の増加に至りませんでした。
総合生鮮市場事業	生鮮市場のパイロット店という位置付けで平成27年6月に開設した生鮮食料品売場（丸まるマルシェ）は、売り上げは好調でしたが、既存店との競合を考慮し、再開発ビルへの出店は見送られました。	パイロット店の生鮮食料品売場（丸まるマルシェ）は、好調な売り上げから中心市街地における一定のにぎわい創出に寄与しましたが、生鮮市場の出店が見送られたことで、通行量の増加に至りませんでした。
商店街情報発信事業	デザインコードに基づいた街路灯や休憩スペースの整備、リアルタイムな情報発信システムを整備し、情報発信機能を活かしたイベントなどを実施しました。	イベント時に可動式デジタルサイネージによる情報掲示が行われていますが、常設の設置ができておらず、波及効果が限定的なため、通行量の増加に至りませんでした。
高松南部商店街活性化事業	南部3町商店街で「生活エリアと密着した魅力ある下町」をコンセプトに計画した4つの活性化事業のうち、デジタルサイネージ整備事業は、商店街のVRアプリ開発を行うなど商店街のリアルタイムな情報を発信しましたが、他の3つの事業が未着手となりました。	VRアプリ開発による情報提供が行われましたが、南部3町の地域性を活かした事業が未着手となったことで、商店街の新たな魅力を創出できず、通行量の増加に至りませんでした。

事業名	実施状況	事業効果
常磐町商店街 アーケード 整備事業	常磐町商店街において歩行者に快適な空間を創造するため、アーケード改修工事を平成 25 年度に実施し、事業が完了しました。	商店街の歩行者空間としての環境は改善しましたが、通行量の増加への波及効果が見られませんでした。
瓦町駅核化 プロジェクト 事業	駅ビル型複合商業施設の整備として平成 27 年 10 月に「瓦町 F L A G」がリニューアルオープンしたことで事業が完了しました。	リニューアルオープンにより瓦町駅の電車乗降人数が増加したことを始め、平成 27 年、28 年は中央商店街全体の歩行者通行量も増加するなど一定の効果が見られました。

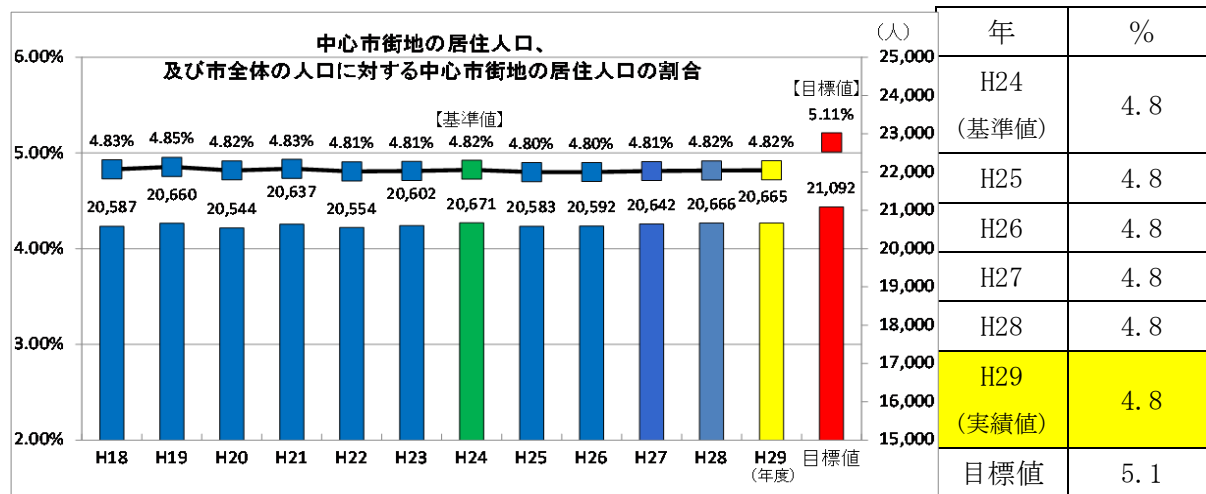
■今後について

瓦町 F L A G のオープンなど目標達成に向けた主要事業が完了し、一時的には通行量の増加も見られるなど一定の効果が現れたものの、中心市街地全体への波及効果が見込めなかったこと、また、一部の未完了・未着手の事業があったことにより、目標値に届かない結果となり、継続してにぎわいを創出することはできませんでした。

市全体及び中心市街地の人口は横ばいであることから、2 核 1 モールの特性を生かしながら、商店街の魅力向上やにぎわい創出に加え、近年のインバウンド需要の増大など、広域圏から集客を図り、来街者の回遊性を図るような取組を展開するとともに、今後とも商店街振興組合等との積極的な情報共有や事業進捗等を把握し、目標指標の測定を継続的に実施するなど適切な進捗管理を行う必要があります。

目標3「中心市街地に、より住みやすい環境をつくる」

■市全体の人口に対する中心市街地の居住人口の割合



※調査方法：中心市街地内における住民基本台帳登録人口

※調査月：10月1日時点調査、同月取りまとめ

※調査主体：高松市

※調査対象：中心市街地の居住者

■目標達成の状況【c】

市全体の人口に対する中心市街地の居住人口の割合については、計画策定時より経年変化を見てもほぼ横ばいであり、目標達成には至りませんでした。

これは、主要事業として設定していた「高松中央商店街南部3町共同住宅供給事業」が未着手となったことが要因の一つとして考えられます。また、第2期計画期間中の社会減が537人、自然減が803人と事業以外の要因で人口減少が進んでいます。

基準値としての割合は変化していませんが、居住人口は20,671人→20,665人と微減のため、達成状況としてはcとしました。

■目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（数値の状況）

事業名	事業実施状況	目標値	最新値
高松中央商店街南部3町共同住宅供給事業	未着手	140人の増加	未実施のため居住人口における増加は見込まれない
移住交流促進事業	実施中	45人の増加	29人の増加
ロイヤルガーデン錦町一丁目（分譲マンション）	完了	75人の増加	96人の増加
ロイヤルガーデン中央公園（分譲マンション）	完了	101人の増加	123人の増加
アルファライフ中央通り（分譲マンション）	完了	81人の増加	77人の増加

■目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

事業名	実施状況	事業効果
高松中央商店街 南部3町共同 住宅供給事業	南部3町の商店街において空き店舗の上層部分を活用した共同住宅施設を設置することで居住促進を目指していましたが、具体的な事業化に至りませんでした。	—
移住交流促進 事業	移住に関する情報発信や交流会等の開催を行い、平成29年3月に「高松市移住・促進方策」を取りまとめたほか、「高松市移住ナビ」のリニューアル等、移住を促進するための情報発信の強化に努めました。	市全体の社会動態は増加傾向となっていますが、中心市街地の居住人口の数値としての増加には表れていない状況となっています。
ロイヤルガーデン錦町一丁目 (分譲マンション)	平成25年度に分譲マンション（42戸）の建設が完了しています。	整備された分譲マンションは全戸完売し、居住人口の増加に寄与しています。
ロイヤルガーデン中央公園 (分譲マンション)	平成26年度に分譲マンション（56戸）の建設が完了しています。	整備された分譲マンションは全戸完売し、居住人口の増加に寄与しています。
アルファライフ中央通り (分譲マンション)	平成26年度に分譲マンション（45戸）の建設が完了しています。	整備された分譲マンションは全戸完売し、居住人口の増加に寄与しています。

■今後について

中心市街地における分譲マンションなどの都市型住宅の整備により、居住人口が増加している一方で、平成16年の線引き制度の廃止により低廉な宅地が郊外に造成され、中心市街地からの転出も見受けられることなどから、中心市街地の居住人口は、計画期間内において横ばい状況となっており、目標達成には至りませんでした。

今後は、平成30年3月に策定した「高松市立地適正化計画」及び30年4月に改定した「多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画」に掲げる街なか居住の推進などの実効性のある施策等の実施や、都市機能の誘導や都市構造の集約化を図り、居住人口の割合を高めていくとともに、今後とも商店街振興組合等との積極的な情報共有や事業進捗等を把握し、目標指標の測定を継続的に実施するなど適切な進行管理を行う必要があります。

③ 第2期計画の総括

第2期計画で掲げた目標指標「中央商店街の空き店舗率（全フロア）」、「中央商店街における歩行者通行量（休日）」、「市全体の人口に対する中心市街地の居住人口の割合」については、いずれも目標を達成することができませんでした。これは計画に掲げた事業の一部が未着手となったことや事業が完了しても想定していた効果が発現に至らなかったことなどが要因となっています。

中央商店街の商業は、中央商店街の空き店舗率は改善できていないものの、中央商店街の総店舗数は増加しており、商業機能の器としては拡大傾向にあり、路面店である1階に着目すると空き店舗数が減少しているなど指標には表れていないものの活性化の効果が見られます。そのため、多様化する消費者のニーズに対応していくためには、商店街内外からの新規参入など中央商店街の魅力が向上し、来訪を喚起していく状況を生み出し、にぎわいを創出していくことが今後重要と考えられます。

中心市街地の利用者は、通勤通学、買い物、飲食、習い事など様々な目的で利用されていますが、平成22年から27年の昼間人口が減少しており、通勤通学などで中心市街地に移動する人は減少しているものと考えられます。一方、中央商店街における歩行者通行量は、23年に休日が平日の通行量を上回る状況となり、それ以降も休日の通行量が多い状況が継続しているため、歩行者通行量の目標は達成出来なかったものの休日のイベントなどの取組による活性化の効果が一定程度見られます。今後も昼間人口の減少、人口減少など市場規模の縮小が避けられない中で、近年増加しているインバウンド需要を取り込むなど都市圏だけでなく、広域圏からの新たな顧客を中心市街地に誘客していくことが重要と考えられます。

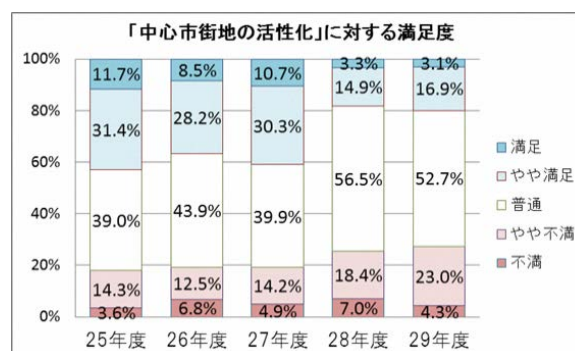
中心市街地の居住人口は、少子高齢化の進展により自然減の状況が急速に進行しており、本来は大きく人口減少となる状況であります。第2期計画の事業完了に加え、再開発事業や民間開発等の居住施設のストックを活用した市内からの転住者が多かったことで、人口はほぼ横ばい状況を保っています。今後も自然減による人口減少傾向は継続することが想定されることから、中心市街地の活気を維持していくためには、再開発事業などによる住宅供給を図りつつ、都市機能の集約化や生活利便施設の立地促進など歩いて暮らせる中心市街地を形成し、市内からの転住者を増やすなど街なか居住の推進が重要と考えられます。

(4) 計画の定性的評価

① 市民意識の変化

本市では、市民の意見を市政に反映させるため、総合計画の基本構想で施策大綱として定めている政策、及び施策に対する満足度等を調査しています。

この調査における「中心市街地の活性化」の満足度は、平成25年度から27年度までは、「満足」または「やや満足」と答えた人の割合が40%前後で推移していましたが、28年度以降は20%前後と減少傾向となっています。



(資料：市民満足度調査)

中心市街地における丸亀町再開発事業の整備や瓦町F L A Gのオープンなど注目度の高い大規模プロジェクトが完了し、これらの施設オープンによる波及効果が見られなくなったことで、中心市街地への注目度が低下していることが要因と考えられます。

また、自由意見には、丸亀町商店街を含む、中央商店街北部地域に対する満足度を感じる一方で、南部地域とのにぎわいの違いを感じている意見や、中央商店街全体として訪れた人が滞在し、回遊できる仕組みづくりが必要との意見もあり、更なるにぎわいの創出や回遊性の向上が求められています。

② 中心市街地活性化協議会の意見

第2期計画では、各種イベント開催、テナントミックスなどのソフト事業や、「まちなかループバス」の運行など第1期計画で整備されたハード施設を活かすための取組のほか、中央商店街南部地域では、地域の核となる「瓦町F L A G」が誕生したことにより、オープン時には通行量が増加するなどの効果が見られました。

第2期計画に位置づけた51事業のうち、計画に掲げた3つの目標につながる事業が未着手となったことで、目標も未達成となったものの、生活者の消費行動が劇的に変化してきている中で、人とのふれあいを求めるムーブメントを踏まえ、ハード整備からソフト事業まで展開してきたことで一定の活性化効果が得られたものと考えられます。

(5) 計画終了後の前期計画の目標指標についての推移・分析

第2期計画終了後の平成30年における各目標指標について、前年より一定の改善は見られますが、いずれも旧基本計画の目標値に至りませんでした。

目標指標	目標値 (H29)	実績値 (H29)	実績値 (H30)
中央商店街の空き店舗率（全フロア）	14.9%	17.8%	16.9%
中央商店街における歩行者通行量（休日）※	141,000人	118,567人	128,854人
市全体の人口に対する中心市街地の居住人口の割合	5.1%	4.8%	4.8%

※歩行者通行量は、旧基本計画に記載した「中央商店街通行量調査」として手集計にて測定した値である。

(6) 事業の実施面からみられる中心市街地活性化の課題

これまでの検討を踏まえ、以下3つの課題に整理しました。

1 国内外の広域からの誘客

第2期計画においては、中央商店街の歩行者通行量を高めるものとして、商店街の魅力を高める取組が一部実施できなかったことや、歩行空間の整備の効果が当初想定よりも波及しなかったため、歩行者通行量増加などのにぎわいの創出に至りませんでした。

一方で、今後、市全体及び中心市街地の人口減少が想定されることから、商店街の魅力向上やにぎわいの創出に加え、海外も含めた広域圏からの誘客を図ることが課題となります。

2 中心市街地への回遊性・滞在性の向上

第2期計画においては、中心市街地の回遊性向上のため、観光情報発信拠点「ナビステ」による高松中央商店街等のイベントや店舗情報に加え、高松市の最新観光情報や瓦町ビルの情報などを国内外の観光客に向け発信しました。

今後、中心市街地の更なるにぎわいの創出のために、街なか案内の充実や情報発信による回遊性・滞在性の向上を図ることが課題となります。

3 更なる街なか居住促進

中心市街地の定住人口は、第1期計画での再開発などにより人口減少への一定の歯止めをかけることができました。第2期計画では、一部整備予定の住宅が供給されなかったことや想定以上の自然減・社会減の拡大により、目標に至る人口増加には至りませんでした。

今後、更なる都市型住宅の供給に加え、中心市街地への都市機能の誘導のほか、住宅取得の支援等による街なか居住促進を図ることなどが課題となります。

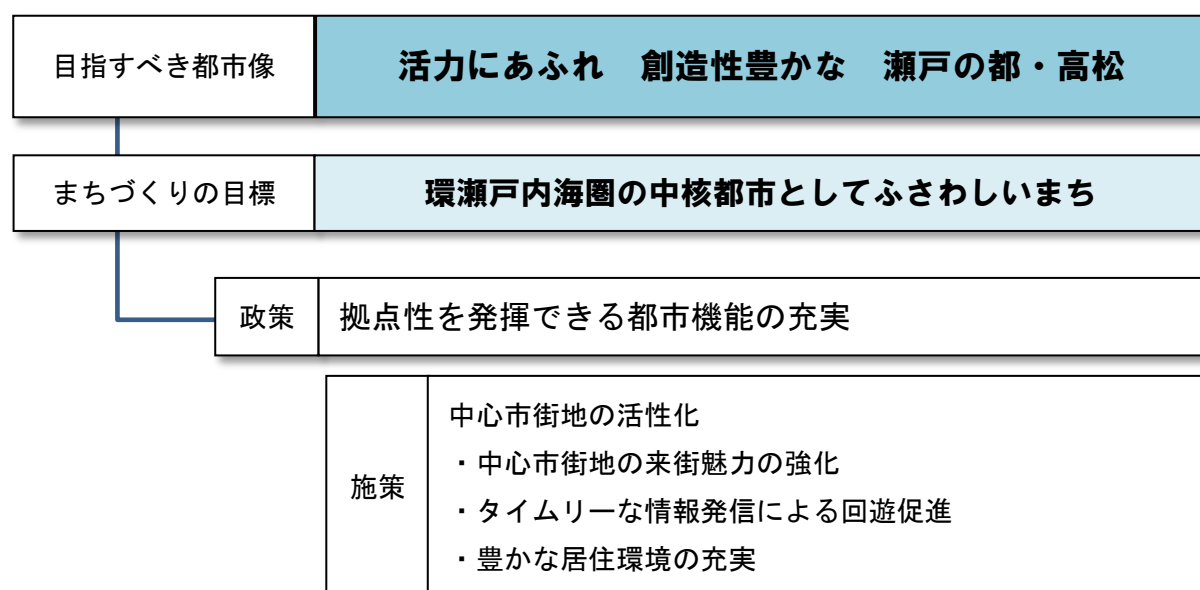
[5] 関連計画等の動向・位置づけ

(1) 上位関連計画

① 第6次高松市総合計画（平成28年3月策定）

上位計画である「第6次高松市総合計画」において、目指すべき都市像として「活力にあふれ 創造性豊かな 瀬戸の都・高松」を設定し、そのもとに6つのまちづくりの目標を掲げ、政策・施策を体系化しています。中心市街地の活性化については、まちづくりの目標「環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち」の施策として位置づけられています。

■ 目指すべき都市像とまちづくりの目標



（資料：第6次高松市総合計画）

② たかまつ創生総合戦略（平成 27 年 10 月策定）

関連計画である「たかまつ創生総合戦略」は、第 6 次高松市総合計画の主な取組と整合性を図りながら、「人口減少社会」という重要課題に対応するため、「人口減少を抑制する戦略」と「人口減少社会に対応する戦略」の 2 つの戦略を柱とし、5 つの目標を掲げ、施策を体系化しています。中心市街地に関わる基本目標として「創造性豊かで人間中心のまちを創る」、「持続可能なまちを創る」を掲げています。

■基本目標と施策の基本方向

基本目標	創造性豊かで人間中心のまちを創る	
施策の基本的方向	地域を支える産業の振興と経済の活性化	
	施策	中央商店街の活性化 【事業】中央商店街にぎわい促進事業 ブリーザーズスクエアを活用した商店街活性化事業や、商店街共同施設の新設・改修事業や空き店舗活用事業に対する助成を行うことにより、中央商店街のにぎわいを促進します。

基本目標	持続可能なまちを創る	
施策の基本的方向	拠点性を発揮できる都市機能の充実	
	施策	タイムリーな情報発信による回遊促進 【事業】中心市街地活性化推進事業 「にぎわい・回遊性・豊かな暮らしのあるまちを目指して」をコンセプトに、中心市街地の活性化を図ります。

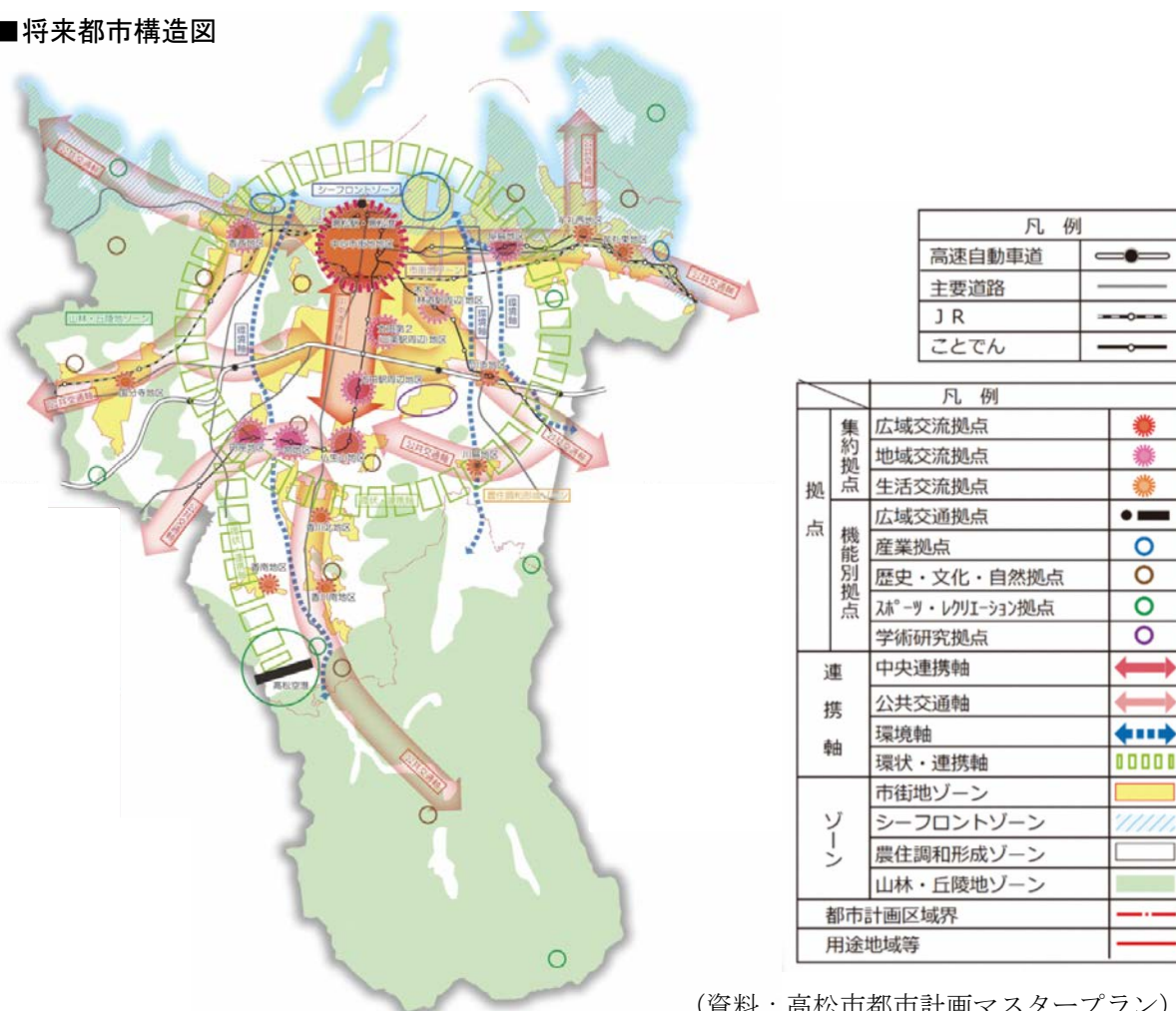
（資料：たかまつ創生総合戦略）

③ 高松市都市計画マスタープラン（平成 29 年 8 月改定）

関連計画である「高松市都市計画マスタープラン」においては、集約拠点への都市機能の集積と市街地の拡大抑制によるコンパクトな都市構造、及び人と環境にやさしい公共交通を基軸とした環境配慮型交通システムを併せ持つ持続可能な環境共生都市「多核連携・集約型環境配慮都市（多核連携型コンパクト・エコシティ）」の実現に取り組むこととしています。

都市計画マスタープランにおいて、中心市街地のエリアは、広域交流拠点に位置づけられています。広域交流拠点は、州都機能が集積する四国の拠点都市にふさわしい広域的な拠点性を強化するため、サンポート高松の整備や中心市街地の再開発などを通じた、商業・業務機能の拡充、にぎわい空間の創出、街なか居住の推進及び交通機能の強化などにより、高次・複合型の都市機能の集積・更新を図るものとしています。

■将来都市構造図



（資料：高松市都市計画マスタープラン）

■サンポート高松

サンポート高松は、中枢管理都市としての新しい都心の核づくり、瀬戸の都のシンボルゾーンの形成、海陸交通のターミナル機能の強化などを整備方針に、平成 4 年度に土地区画整理事業の都市計画決定を行い整備された街です。平成 13 年には高松駅新駅舎、高松港旅客ターミナルビル、平成 16 年には高松シンボルタワー、サンポートホール高松、平成 18 年に高松サンポート合同庁舎北館、平成 29 年度に高松サンポート合同庁舎南館が竣工するなど高松市の玄関口にふさわしい都市拠点の地区です。

④ 高松市立地適正化計画（平成 30 年 3 月策定）

関連計画である「高松市立地適正化計画」は、第 6 次高松市総合計画及びたかまつ創生総合戦略に即すとともに、都市計画マスタープラン、多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画、総合都市交通計画及びその他の各種計画と調整・連携を図り、目指すべき都市像「活力にあふれ 創造性豊かな 瀬戸の都・高松」や将来都市構造「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現を目指すものです。

まちづくりの理念として、「コンパクト・プラス・ネットワークで繋がる ひと 地域 未来」を掲げ、30 年、50 年後においても、活力を失わず、市民がいきいきと暮らせるよう、集約拠点への都市機能の集積と居住の誘導を図り、公共交通で拠点間等の移動を円滑にするコンパクトで持続可能なまちづくりを進めていくこととしています。

■まちづくりの理念と方針



（資料：高松市立地適正化計画）

[6] 中心市街地活性化の課題

現状分析や地域住民等のニーズ、第2期計画の検証等を踏まえ、中心市街地活性化の課題を以下に整理します。

【現状】

1

にぎわい・交流

- 市内への人口流入の低下
- 中心市街地内の事業所数や従業者数の減少及び小売中心性指数の低下
- 商店街の空き店舗率の上昇
- 国内外からの観光入込客数の増加
- 高松空港の運営の民間委託に伴う、インバウンドの増加見込み
- 四国の広域行政機能が集積
- アリーナ・体育館、観光案内所、ファミリー向け店舗、屋内遊具等の整備、にぎわいを高めるイベントの開催など観光におけるニーズの増加

2

回遊性

- 商店街の歩行者通行量は一部で増加したものの、中央商店街全体の歩行者通行量は減少
- 商店街や店舗などの情報提供やWi-Fi施設など商店街の利用環境の向上が必要
- 宿泊施設の機能強化や観光・交通情報などの案内施設・標識の充実が必要

3

街なか居住

- 第1期計画からの住宅供給により、居住人口の減少に一定の歯止めを掛けたが、人口は横ばい状態
- 人口密度が低下し、都市のスポンジ化が進行
- 中心市街地人口の自然減・社会減が増加傾向
- 市全体の空き家数は、増加傾向にあり、中心市街地の空き家割合は市全体と比較して高い状況
- 日常買い物施設や医療施設、こども預かり施設の充実が必要
- 空き家・新築等の住宅情報の提供や住宅購入・改築における支援の充実が必要
- 都市計画マスタープランや立地適正化計画に基づく、「多核連携型コンパクト・エコシティ」の推進が必要

【課題】

課題①

サンポートエリアを活用したインバウンドを含む広域圏からの誘客

環瀬戸内海圏の中核都市として、多様なニーズを持った人々が訪れたいと思える、高次広域都市サービスを提供する場を創出し、広域圏から中心市街地を訪れる機会づくりを行うことが求められています。

○高次広域都市サービス機能の充実

課題②

街なか案内の充実や情報提供による回遊性・滞在性の向上

街なか案内や情報発信を充実することにより、サンポートエリアなどの中心市街地に訪れた人々の回遊性・滞在性を高め、その効果を中心市街地全体に波及させることが求められています。

○利用環境の向上
○商店街の魅力向上やイベント事業の展開

課題③

市民に選ばれる中心市街地の形成と街なか居住の促進によるコンパクトシティの実現

「まちに行きたい」、「また来たい」と思うアクセス性の強化、その先にある「まちに住みたい」と思ってもらうためのコンパクトシティの形成を後押しする施策・事業の展開が求められます。

○更なる都市型住宅の供給
○住宅取得等の支援

[7] 中心市街地活性化に関する基本的な方針

(1) 高松市中心市街地活性化のコンセプト

目指す中心市街地の都市像

来まい・住まい・楽しみまい

ーコンパクト・エコシティ たかまつー

本市では、サンポート高松や中央通りを軸に集積する行政機関を始め、四国を統括する大手企業の支店や事業所・オフィス等の業務機能と、全国有数の規模を誇る中央商店街の商業機能、香川県立ミュージアムや瀬戸内国際芸術祭などの文化芸術機能をバックボーンに経済・文化芸術活動が展開され、四国の中枢管理都市として、また、環瀬戸内海周辺に広がる圏域の中核拠点都市として、確固たる地位を築いてきました。

少子・超高齢社会が現実のものとなる中、中心市街地だけでなく、市全体の定住人口も減少していくと予測されているため、今後とも継続して中心市街地における人口の減少を食い止めるためには、これまでの狭域だけでなく、昨今のインバウンド等の海外も含めた広域圏からの観光客増加など広域からの人の取り込みに対応した新たな取組を図り、誰もが集まり、楽しめる魅力ある中心市街地を形成することが重要です。

具体的には、高松空港運営の民間委託などにより増加が見込まれるサンポートエリアにおける広域からの来訪者をさらに増やす取組のほか、これらの来訪者や市内からの来街者を中央商店街へ取り込むための回遊性・滞在性の向上、そしてコンパクトシティの実現に向けた、街なか居住の推進や移動の円滑化に資する取組を進めます。

今後、取り組む各種事業が相乗効果を生み、広がることで、みんなが来たい・住みたい・楽しめるまちとなるよう、中心市街地活性化を進めます。

(2) 高松市中心市街地活性化の3つの基本方針

中心市街地活性化のコンセプトを踏まえ、以下に3つの基本的な方針を定めます。

基本方針1

みんなが訪れたくなる中心市街地

課題①サンポートエリアを活用したインバウンドを含む広域圏からの誘客

- 新県立体育館整備事業やJ R 高松駅周辺開発事業と連携し、中核都市として高次（広域）都市サービス機能を充実させ、人々が集い、交流できる場を提供することで、広域圏からの誘客を図ります。
- 魅力ある商業空間の創出や、イベント事業を展開するなど、広域圏からの誘客を図ります。

基本方針2

みんなが巡ってみたいくなる中心市街地

課題②街なか案内の充実や情報提供による回遊性・滞在性の向上

- 再開発事業により、魅力的な空間など中心市街地に関心を持つことが出来る環境を整備し、まちの回遊性を促進します。
- 情報発信を充実させ、様々な人が過ごしやすく回遊しやすい環境を整えることで、人々が楽しめる“おもてなし”を提供します。

基本方針3

みんなが豊かな人生を実現できる中心市街地

課題③市民に選ばれる中心市街地の形成と街なか居住の促進によるコンパクトシティの実現

- 広域交流拠点としての中心市街地と、拠点間をつなぐ公共交通ネットワークの充実により、「コンパクト・エコシティ」を推進します。
- みんなが、暮らしやすい、住んでみたいと思える居住環境を整えることで、質の高い暮らしを提供します。